

尼崎市障害者計画等の改定に係る アンケート調査結果報告書



令和5年11月

尼 崎 市

目 次

I 調査概要

1. 調査の目的.....	1
2. 調査の設計.....	1
3. 回収結果.....	2
4. 報告書の見方.....	2

II 調査結果

1. 回答者の属性.....	3
2. 保健・医療について.....	13
3. 福祉サービス、相談支援について.....	20
4. 療育・教育について.....	33
5. 雇用・就労について.....	41
6. 生活環境、移動・交通について.....	53
7. 生涯学習活動（スポーツ・文化、社会参加活動）について.....	66
8. 安全・安心について.....	74
9. 権利擁護、啓発・差別の解消について.....	81
10. 情報・コミュニケーション、行政等における配慮について.....	89
11. 福祉施策について.....	100
12. 介助者への質問.....	103
13. 自由回答.....	111

I 調査概要

1. 調査の目的

令和6年度からの尼崎市障害福祉計画の改定および尼崎市障害者計画の中間評価のための基礎資料とするほか、今後の障害者施策を進めるにあたっての参考とするため、市内在住の障害のある方を対象に、普段の生活の様子や福祉サービスの利用状況等について、調査を実施した。

2. 調査の設計

《調査対象者》

令和5年4月末現在において、本市の身体障害者手帳所持者・難病患者・療育手帳所持者・精神障害者保健福祉手帳所持者のうち、手帳所持者^{※1}については、幅広い年齢層からの回答を得るため、障害種別や年齢層ごとの人数割合を設定した上で、全対象者からの無作為抽出を行った。

①	身体障害のある人	18歳以上の身体障害者手帳所持者	3,000人
	難病の人	18歳以上の難病患者 ^{※2}	80人
	知的障害のある人	18歳以上の療育手帳所持者	1,350人
②	精神障害のある人	18歳以上の精神障害者保健福祉手帳所持者	1,900人
③	障害のある児童	18歳未満の障害者手帳所持者	1,170人
		18歳未満の障害児通所支援等のサービス利用者 ^{※3}	
合 計			7,500人

※1：身体障害者手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳の総称を「障害者手帳」と表記している。

※2：18歳以上の難病患者は、特定医療費助成の対象者のうち手帳所持者やサービス利用者から抽出している。

※3：18歳未満の障害児通所支援等のサービス利用者は、障害者手帳の未所持の方を対象としている。

《調査期間》

令和5年6月16日（金）～ 令和5年7月7日（金）

《調査方法》

調査票は、①18歳以上の身体障害者手帳・療育手帳所持者用・難病患者用、②18歳以上の精神障害者保健福祉手帳所持者用、③18歳未満の障害者手帳所持者等用、の3種類とし、郵送による配布、郵送とWEBによる回収を行った。

なお、回答は本人（または、本人が記入できない場合は家族等）の自記入方式とした。

3. 回収結果

《回収数・回収率》

調査対象者	調査数 (配布数)	回収数	有効回収数 [※]		有効 回収率	
			合計	紙		WEB
障害のある人（18歳以上）	6,330	2,539	2,535	2,200	335	40.0%
身体障害のある人	3,000	1,320	1,317	1,116	201	43.9%
難病の人	80	36	36	34	2	45.0%
知的障害のある人	1,350	502	502	460	42	37.2%
精神障害のある人	1,900	681	680	590	90	35.8%
障害のある児童（18歳未満）	1,170	478	478	312	166	40.9%
合計	7,500	3,017	3,013	2,512	501	40.2%

※：「有効回答数」とは、「回収数」から白票、無回答の回答票などの無効票4件を除いた集計母数対象件数。

《抽出数[※]》

抽出区分	18歳未満	18歳以上	合計
身体障害	49	1,410	1,459
難病	27	239	266
高次脳機能障害	4	90	94
知的障害	334	567	901
発達障害	343	415	758
精神障害	8	708	716
合計（延べ数）	765	3,429	4,194

※：「抽出数」とは、各調査票の回答を合算し、抽出区分別に集計をして得た数値。

なお、身体障害のある人は「身体障害」、難病の人は「難病」、高次脳機能障害と診断された人は「高次脳機能障害」、知的障害のある人は「知的障害」、発達障害と診断された人は「発達障害」、精神障害のある人は「精神障害」と表記している。

4. 報告書の見方

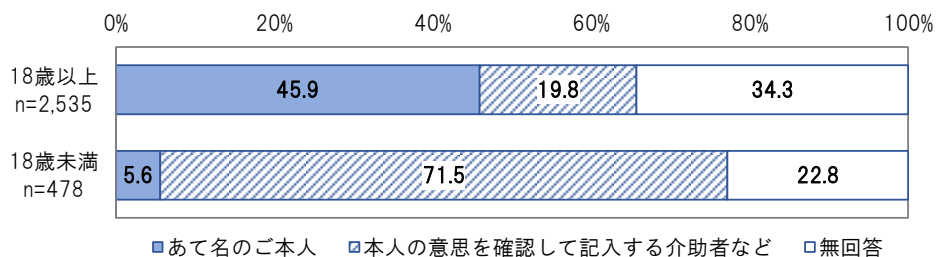
- 回答は各質問の回答者数（n）を基数とした百分率（%）で示している。
- 百分率は小数点以下第2位を四捨五入して算出した。このため、百分率の合計が100%にならないことがある。
- 1つの質問に2つ以上答えられる“複数回答可能”の場合は、回答比率の合計が100%を超える場合がある。
- グラフ等の記載にあたっては、調査票の選択肢の文言を一部省略している場合がある。
- サンプル数が少ないものについては、コメントを割愛している。
- 障害種別等のクロス集計表については、1番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。なお、割合が同じ回答が複数ある場合は、3項目以上に網掛けをしている場合がある。

II 調査結果

1. 回答者の属性

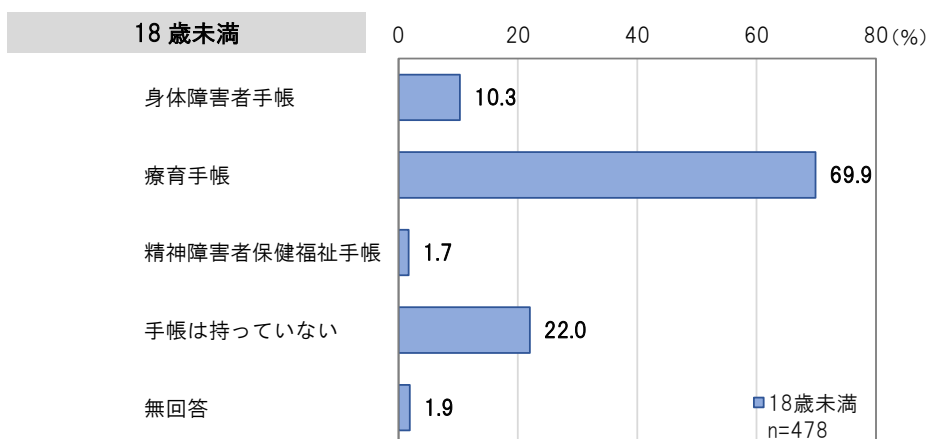
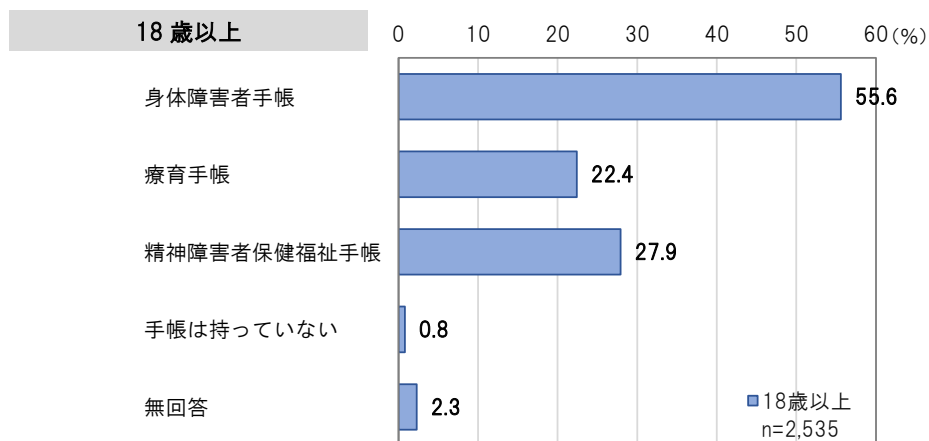
(1) 調査票の記入者

- 調査票の記入者は、18歳以上は「あて名の本人」が4割以上(45.9%)となっているのに対し、18歳未満は「本人の意思を確認して記入する介助者など」が7割以上(71.5%)となっている。



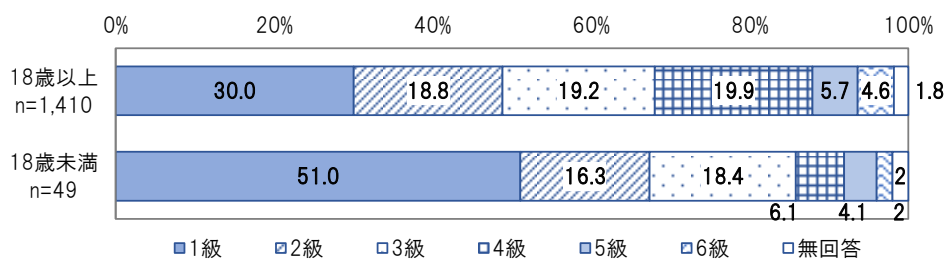
(2) 所持手帳の種類（複数回答）

- 所持手帳の種類は、18歳以上をみると「身体障害者手帳」が半数以上(55.6%)を占めて最も多く、次いで「精神障害者保健福祉手帳」(27.9%)、「療育手帳」(22.4%)となっている。
- 18歳未満をみると「療育手帳」が約7割(69.9%)を占めて最も多く、次いで「身体障害者手帳」(10.3%)、「精神障害者保健福祉手帳」(1.7%)となっており、「手帳は持っていない」が2割以上(22.0%)となっている。



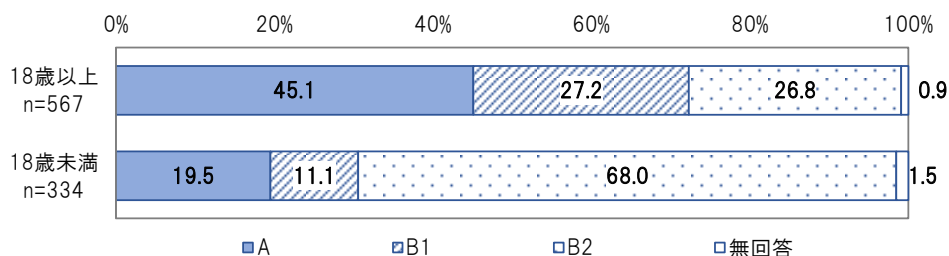
(2) ①身体障害者手帳の等級

- 身体障害者手帳の等級は、18歳以上をみると「1級」が約3割（30.0%）と最も多く、次いで「4級」（19.9%）、「3級」（19.2%）、「2級」（18.8%）の順となっている。
- 18歳未満をみると、「1級」が半数以上（51.0%）を占めて最も多く、次いで「3級」（18.4%）、「2級」（16.3%）の順となっている。



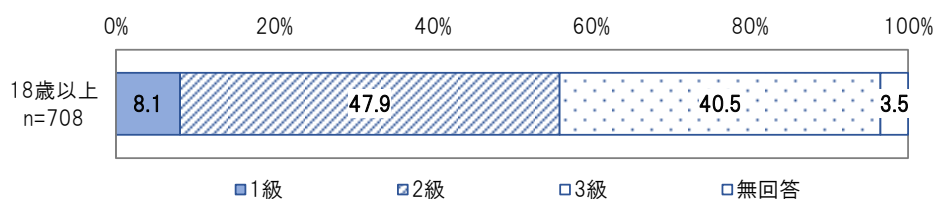
(2) ②療育手帳の等級

- 療育手帳の等級は、18歳以上をみると「A」が4割以上（45.1%）と最も多く、次いで「B1」（27.2%）、「B2」（26.8%）の順となっている。
- 18歳未満をみると、「B2」が7割近く（68.0%）を占めて最も多く、次いで「A」（19.5%）、「B1」（11.1%）の順となっている。



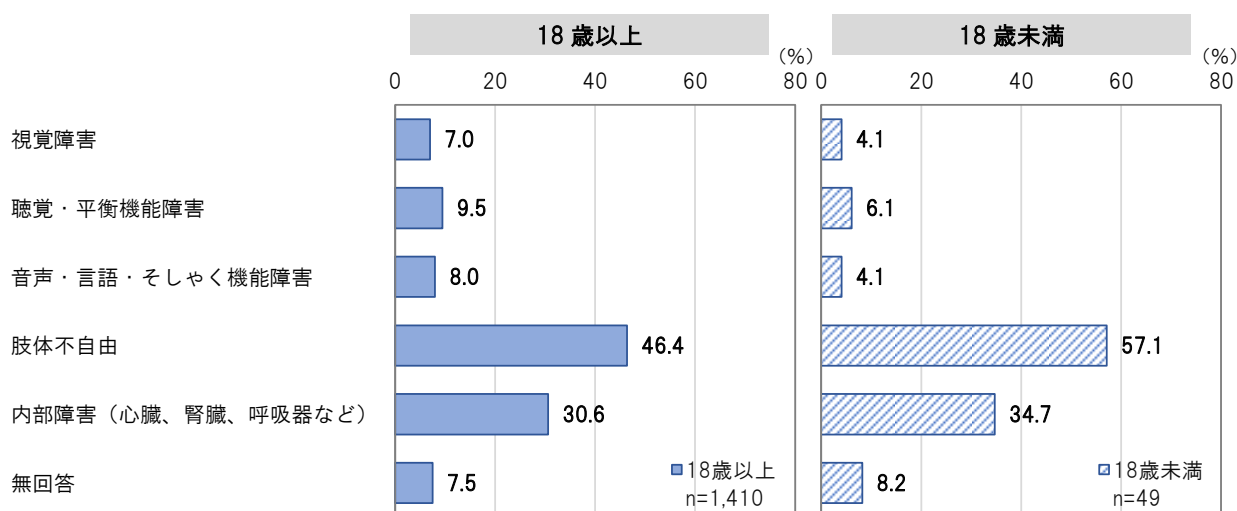
(2) ③精神障害者保健福祉手帳の等級

- 精神障害者保健福祉手帳の等級は、18歳以上をみると「2級」が半数近く（47.9%）を占めて最も多く、次いで「3級」（40.5%）、「1級」（8.1%）の順となっている。



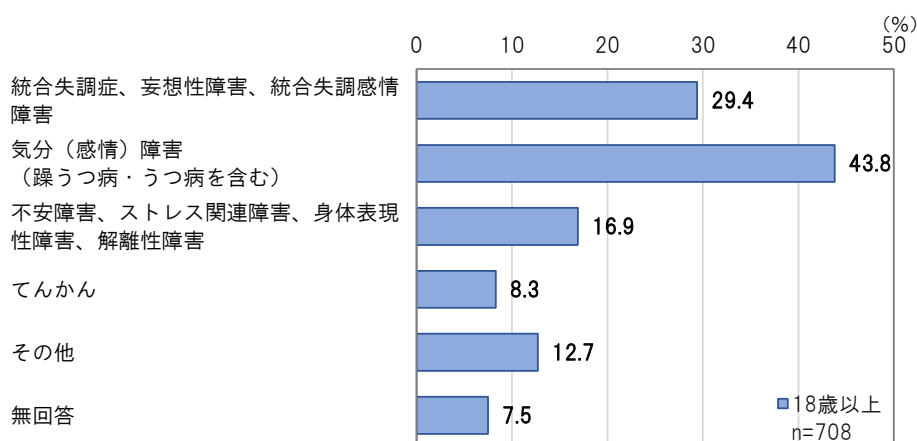
(2) ④身体障害者手帳所持者の障害の種類・原因（複数回答）

- ・身体障害の種類・原因は、18歳以上・18歳未満ともに「肢体不自由」が最も多く、18歳以上では半数近く（46.4%）、18歳未満では6割近く（57.1%）を占めている。
- ・次いで、「内部障害（心臓、腎臓、呼吸器など）」（18歳以上：30.6%、18歳未満：34.7%）、「聴覚・平衡機能障害」（18歳以上：9.5%、18歳未満：6.1%）となっている。



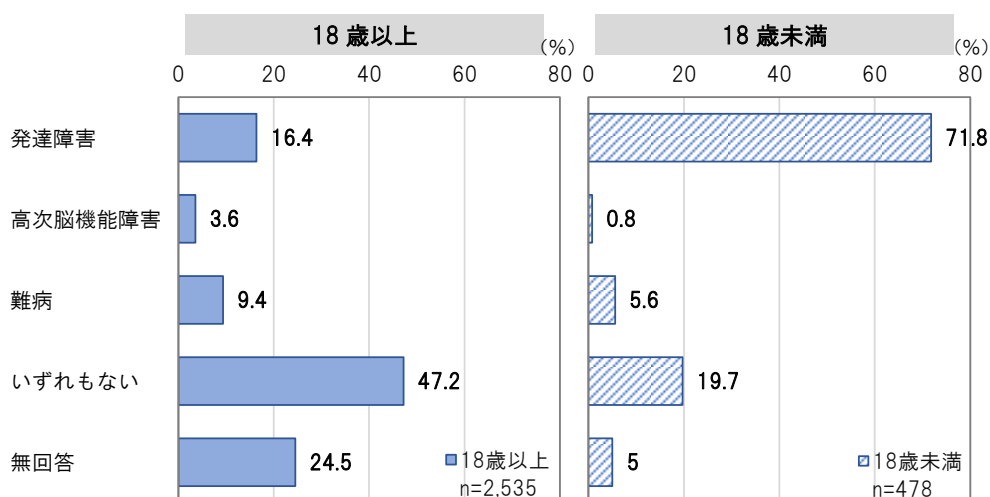
(2) ⑤精神障害者保健福祉手帳所持者の障害の種類・原因（複数回答）

- ・精神障害の種類・原因は、18歳以上で「気分（感情）障害（躁うつ病・うつ病を含む）」が4割以上（43.8%）と最も多く、次いで「統合失調症、妄想性障害、統合失調感情障害」（29.4%）、「不安障害、ストレス関連障害、身体表現性障害、解離性障害」（16.9%）、「てんかん」（8.3%）の順となっている。



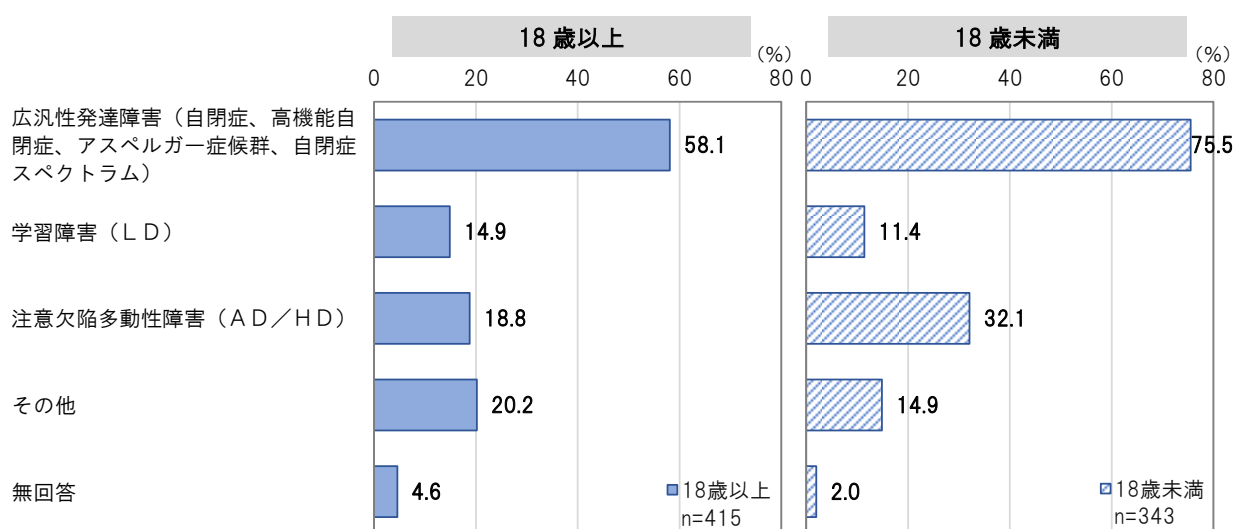
(3) 診断されている障害の種類（複数回答）

- 診断されている障害の種類は、18歳以上をみると「いずれもない」が半数近く（47.2%）と最も多くなっているものの、「発達障害」（16.4%）が1割以上となっている。
- 18歳未満をみると、「発達障害」が7割以上（71.8%）を占めて最も高くなっており、次いで「難病」（5.6%）となっている。



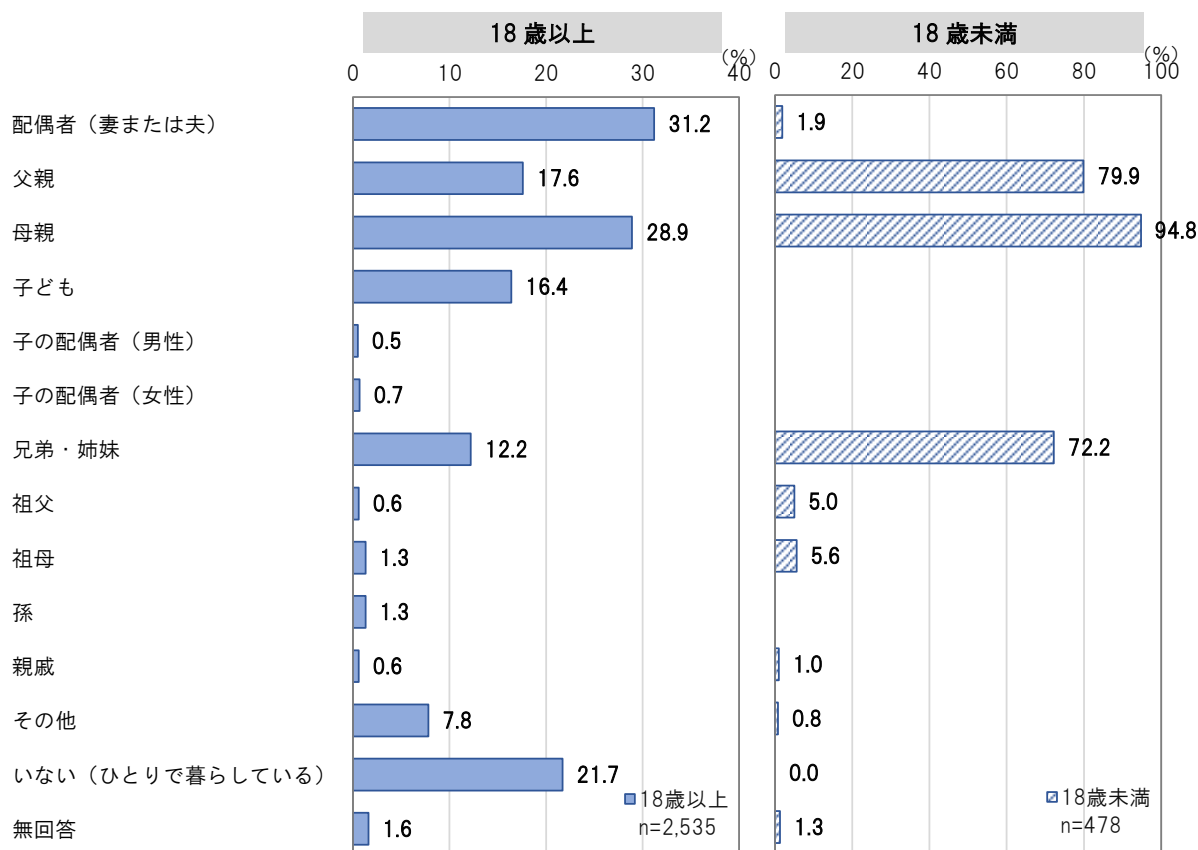
(3) ①発達障害の種類（複数回答）

- 発達障害の種類は、18歳以上・18歳未満ともに「広汎性発達障害（自閉症、高機能自閉症、アスペルガー症候群、自閉症スペクトラム）」が最も多く、18歳以上では6割近く（58.1%）、18歳未満では7割以上（75.5%）を占めている。
- 次いで、「注意欠陥多動性障害（AD/HD）」（18歳以上：18.8%、18歳未満：32.1%）、「学習障害（LD）」（18歳以上：14.9%、18歳未満：11.4%）となっている。

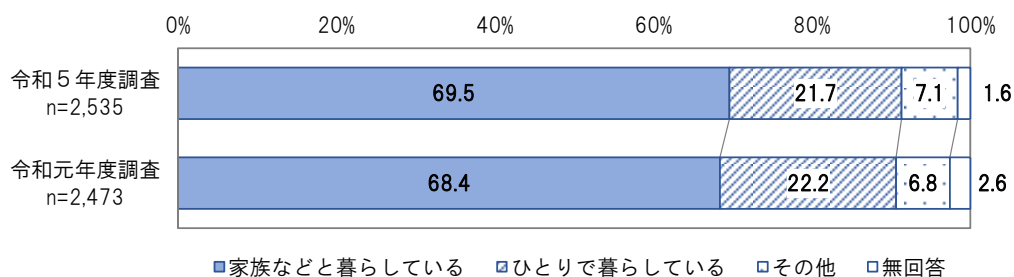


(4) 普段一緒に暮らしている人（複数回答）

- 普段一緒に暮らしている人は、18歳以上をみると「配偶者（妻または夫）」が3割以上（31.2%）と最も多く、次いで「母親」（28.9%）となっている。また、「いない（ひとりで暮らしている）」が2割以上（21.7%）となっている。
- 18歳未満をみると、「母親」が94.8%と最も多く、次いで「父親」（79.9%）、「兄弟・姉妹」（72.2%）の順となっている。



- 18歳以上の暮らしの状況について、令和元年度調査と比較すると、「家族などと暮らしている」がやや増加している。



- ・障害種別にみると、18歳以上では、身体障害・難病・高次脳機能障害では「配偶者」や「子ども」、知的障害・発達障害では「母親」や「父親」、精神障害では「いない（ひとりで暮らしている）」が最も多くなっている。
- ・18歳未満では、いずれの障害においても「母親」、「父親」、「兄弟・姉妹」の回答が多くなっている。

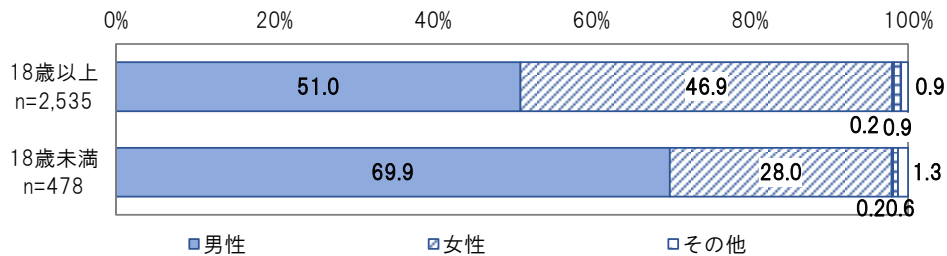
		回答者 (人)	配偶者 (妻または夫)	父親	母親	子ども	子の配偶者 (男性)	子の配偶者 (女性)	兄弟・姉妹
18歳以上	身体障害	1,410	44.3	9.8	17.7	22.4	0.7	0.7	7.2
	難病	239	45.2	10.5	25.5	20.9	0.8	-	5.0
	高次脳機能障害	90	34.4	13.3	26.7	17.8	1.1	2.2	7.8
	知的障害	567	4.4	44.6	61.7	3.0	-	0.4	28.7
	発達障害	415	8.7	40.5	58.6	7.0	-	0.2	26.5
	精神障害	708	21.2	15.5	30.4	12.7	0.4	0.8	11.3
18歳未満	身体障害	49	-	91.8	100.0	-	-	-	69.4
	知的障害	334	2.1	78.1	96.1	-	-	-	72.2
	発達障害	343	2.0	77.8	95.6	-	-	-	74.9

		回答者 (人)	祖父	祖母	孫	親戚	その他	いない (ひとりで暮らしている)	無回答
18歳以上	身体障害	1,410	0.4	0.4	1.8	0.3	5.5	22.3	1.1
	難病	239	-	1.3	1.3	0.4	2.9	21.3	1.3
	高次脳機能障害	90	1.1	-	1.1	-	16.7	18.9	-
	知的障害	567	1.2	3.5	0.2	1.4	17.6	7.4	1.1
	発達障害	415	1.7	4.3	-	1.4	10.8	12.5	0.5
	精神障害	708	0.7	1.1	1.0	0.4	7.2	31.8	1.1
18歳未満	身体障害	49	10.2	10.2	-	-	-	-	-
	知的障害	334	4.8	5.1	-	1.2	0.9	-	-
	発達障害	343	5.2	5.0	-	1.5	1.2	-	-

※1番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

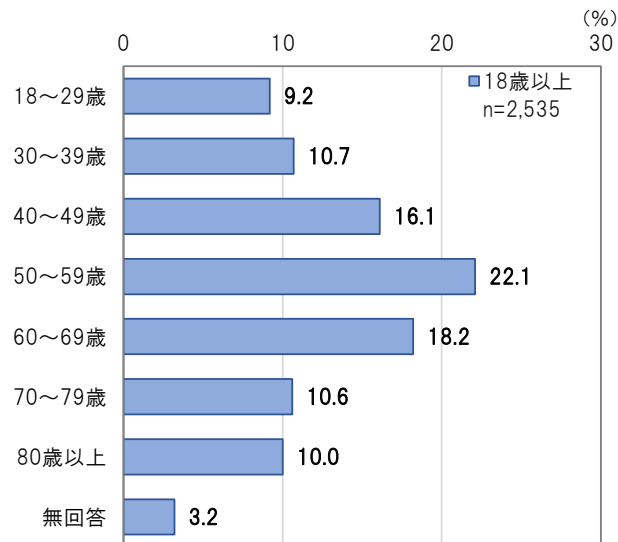
(5) 性別

- ・性別は、18歳以上をみると「男性」が51.0%、「女性」が46.9%となっている。
- ・18歳未満をみると、「男性」が69.9%、「女性」が28.0%となっている。



(6) 年齢 <<18歳以上>>

- ・18歳以上では、「50～59歳」が2割以上(22.1%)と最も多く、次いで「60～69歳」(18.2%)、「40～49歳」(16.1%)の順となっている。



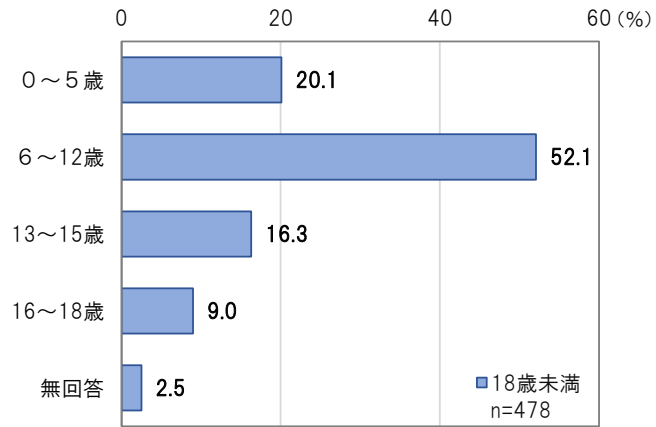
- ・障害種別にみると、知的障害・発達障害では「18～29歳」が最も多く、「30～39歳」、「40～49歳」を合わせた『49歳以下』が7割以上を占めている。一方で、身体障害では『70歳以上』が3割近く(29.0%)と多くなっている。

		回答者 (人)	18 ～ 29 歳	30 ～ 39 歳	40 ～ 49 歳	50 ～ 59 歳	60 ～ 69 歳	70 ～ 79 歳	80 歳 以上	無 回 答
18歳 以上	身体障害	1,410	3.3	5.6	12.5	23.6	23.9	13.6	15.4	2.1
	難病	239	3.8	5.0	18.4	26.4	25.5	10.9	7.9	2.1
	高次脳機能障害	90	7.8	3.3	14.4	26.7	24.4	13.3	8.9	1.1
	知的障害	567	28.4	22.6	21.5	14.6	7.9	2.3	0.5	2.1
	発達障害	415	33.0	24.8	17.3	13.7	4.8	2.7	1.4	2.2
	精神障害	708	7.2	13.8	22.5	25.3	15.5	8.9	3.7	3.1

※1番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

《18歳未満》

- 18歳未満では、「6～12歳」が半数以上（52.1%）を占めて最も多く、次いで「0～5歳」（20.1%）、「13～15歳」（16.3%）、「16～18歳」（9.0%）の順となっている。



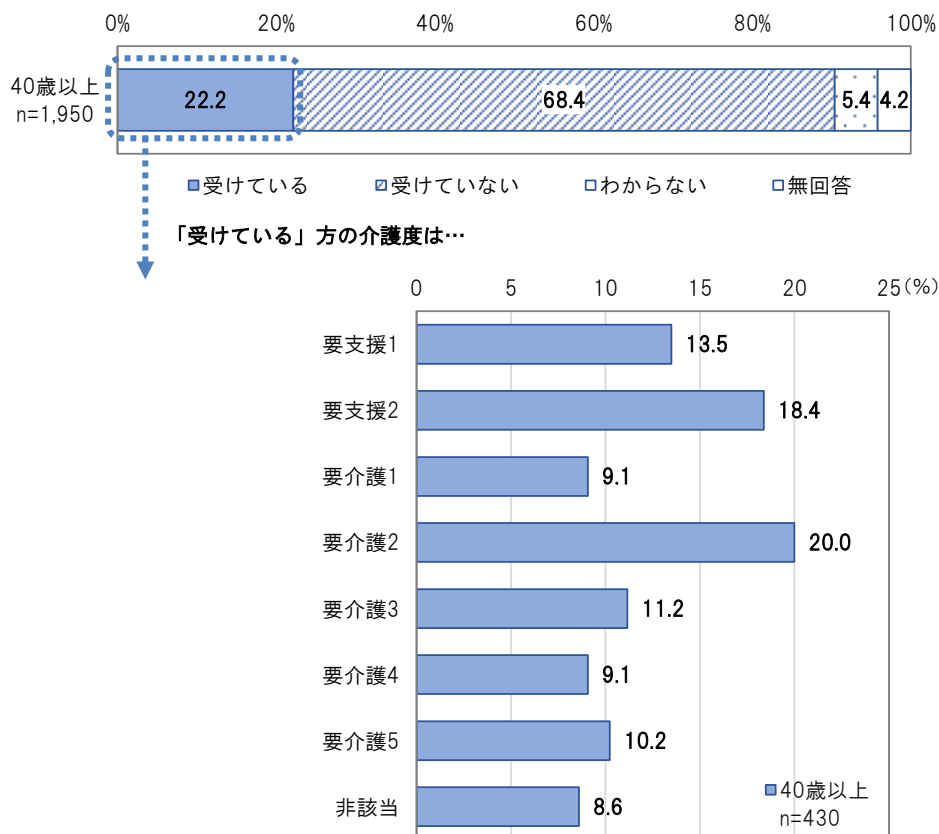
- 障害種別にみると、いずれの障害においても「6～12歳」が最も多くなっている。

		回答者 (人)	0 ～ 5歳	6 ～ 12歳	13 ～ 15歳	16 ～ 18歳	無回答
18歳 未満	身体障害	49	32.7	40.8	16.3	10.2	-
	知的障害	334	12.0	55.7	20.1	11.1	1.2
	発達障害	343	13.4	56.9	18.1	9.9	1.7

※1番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

(7) 要介護認定の認定区分 ※40歳以上の方のみ

- 40歳以上の方の要介護認定については、「受けていない」が7割近く（68.4%）を占めて最も多くなっている。
- 要介護認定を受けている方の認定区分については、「要介護2」が約2割（20.0%）を占めて最も多く、次いで「要支援2」（18.4%）、「要支援1」（13.5%）、「要介護3」（11.2%）、「要介護5」（10.2%）の順となっている。



- 要介護認定を受けている方の認定区分の内訳を障害種別にみると、身体障害では「要支援2」、難病・高次脳機能障害・発達障害では「要介護2」、知的障害・精神障害では「要介護1」が最も多くなっている。
- また、知的障害・発達障害では「非該当」が2割程度を占めており、その他の障害に比べてやや多くなっている。

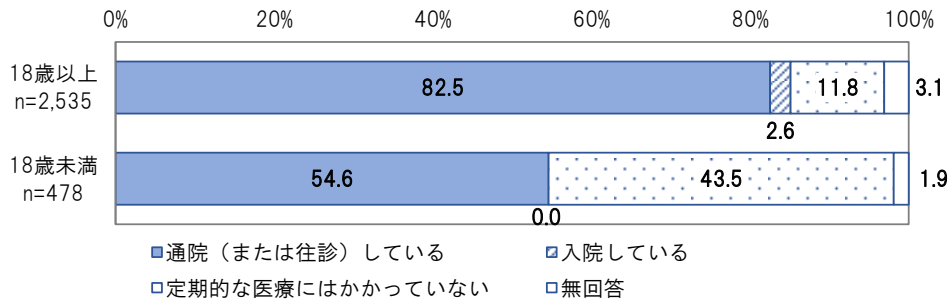
		回答者 (人)	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	非 該 当
18歳 以上	身体障害	326	11.3	25.2	5.5	21.5	12.6	8.6	8.0	7.4
	難病	80	7.5	21.3	5.0	26.3	15.0	12.5	8.8	3.8
	高次脳機能障害	34	2.9	14.7	8.8	29.4	17.6	8.8	17.6	-
	知的障害	26	7.7	7.7	19.2	15.4	11.5	15.4	3.8	19.2
	発達障害	21	-	19.0	14.3	23.8	14.3	4.8	-	23.8
	精神障害	116	6.9	12.1	19.0	12.9	16.4	11.2	13.8	7.8

※1番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

2. 保健・医療について

(1) 継続した定期的な医療への受診の状況

- 継続した定期的な医療への受診については、18歳以上・18歳未満ともに「通院（または往診）している」が最も多く、18歳以上では8割以上（82.5%）、18歳未満では半数以上（54.6%）を占めている。
- 一方で、「定期的な医療にはかかっていない」が、18歳以上では1割以上（11.8%）、18歳未満では4割以上（43.5%）となっている。



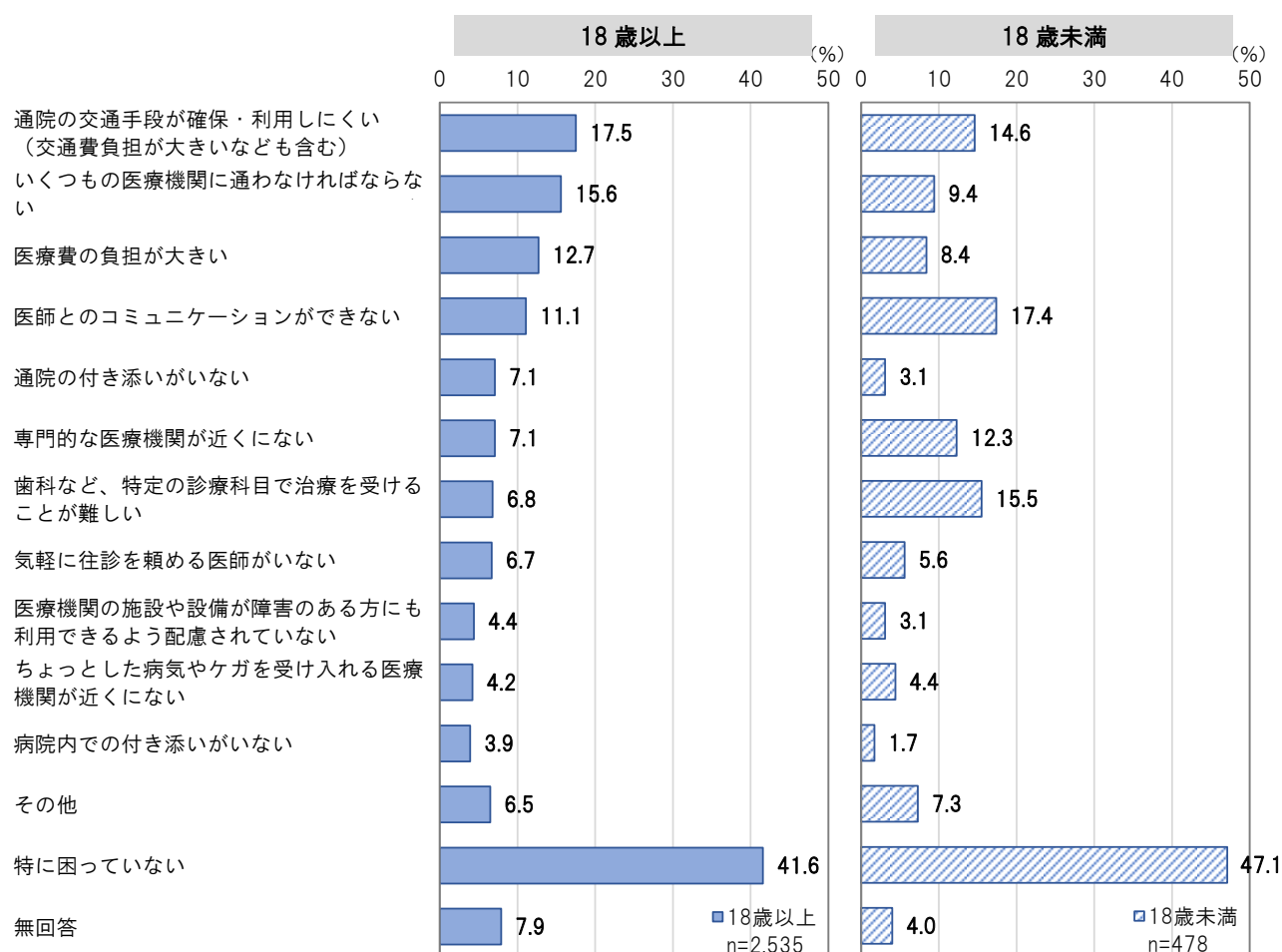
- 障害種別にみると、18歳以上・18歳未満ともに、知的障害・発達障害では「定期的な医療にはかかっていない」が、その他の障害に比べて高くなっており、特に18歳未満では4割を超えている。

		回答者（人）	通院（または往診）している	入院している	定期的な医療にはかかっていない	無回答
18歳以上	身体障害	1,410	83.7	2.7	10.6	3.0
	難病	239	90.4	3.3	4.2	2.1
	高次脳機能障害	90	77.8	10.0	12.2	-
	知的障害	567	70.5	2.3	23.8	3.4
	発達障害	415	74.5	1.2	22.7	1.7
	精神障害	708	92.2	3.0	3.4	1.4
18歳未満	身体障害	49	100.0	-	-	-
	知的障害	334	59.0	-	40.1	0.9
	発達障害	343	54.8	-	44.3	0.9

※1番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

(2) 医療機関を受診するときに困っていること（複数回答）

- ・医療機関を受診するときに困っていることについては、18歳以上・18歳未満ともに「特に困っていない」が4割以上と最も多くなっている。
- ・具体的に困っていることでは、18歳以上では「通院の交通手段が確保・利用しにくい（交通費負担が大きいなども含む）」が17.5%と多く、次いで「いくつもの医療機関に通わなければならない」（15.6%）、「医療費の負担が大きい」（12.7%）、「医師とのコミュニケーションができない」（11.1%）の順となっている。18歳未満では「医師とのコミュニケーションができない」が17.4%と最も多く、次いで「歯科など、特定の診療科目で治療を受けることが難しい」（15.5%）、「通院の交通手段が確保・利用しにくい（交通費負担が大きいなども含む）」（14.6%）、「専門的な医療機関が近くにない」（12.3%）となっている。



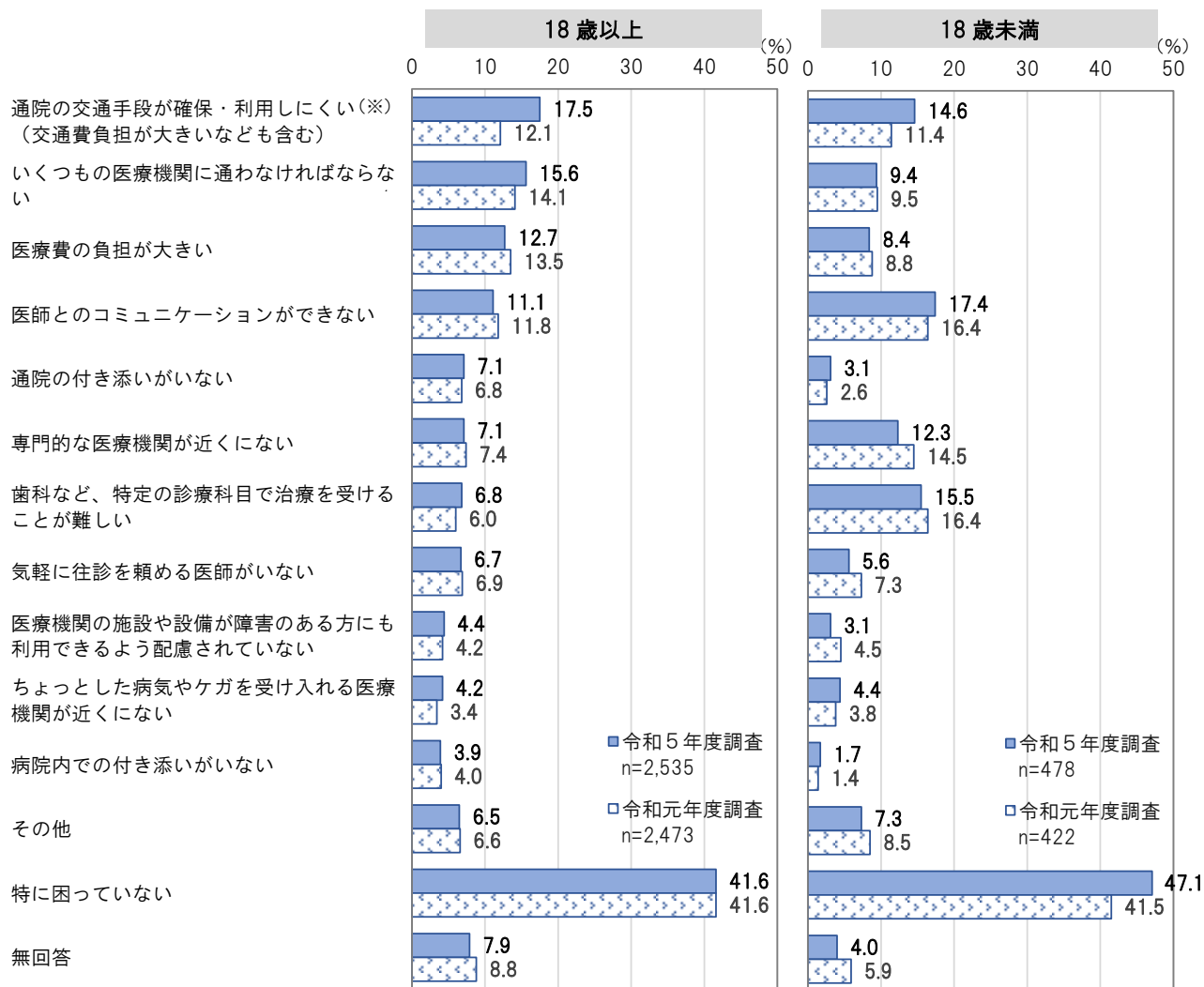
- ・障害種別にみると、いずれの障害においても「特に困っていない」の回答が多くなっている。
- ・具体的に困っていることでは、18歳以上の身体障害・難病・高次脳機能障害では「通院の交通手段が確保・利用しにくい（交通費負担が大きいなども含む）」、知的障害・発達障害では「医師とのコミュニケーションができない」、精神障害では「いくつもの医療機関に通わなければならない」、18歳未満では「専門的な医療機関が近くにない」や「歯科など、特定の診療科目で治療を受けることが難しい」などの回答がやや多くなっている。

		回答者（人）	通院の交通手段が確保・利用しにくい（交通費負担が大きいなども含む）	いくつもの医療機関に通わなければならない	医療費の負担が大きい	医師とのコミュニケーションができない	通院の付き添いがいない	専門的な医療機関が近くにない	歯科など、特定の診療科目で治療を受けることが難しい
18歳以上	身体障害	1,410	17.4	14.6	12.1	7.2	6.5	6.0	6.8
	難病	239	23.4	22.6	16.3	6.3	7.9	12.6	6.3
	高次脳機能障害	90	26.7	17.8	14.4	23.3	4.4	7.8	14.4
	知的障害	567	12.5	11.8	9.2	23.8	8.5	7.8	8.1
	発達障害	415	18.8	16.1	13.7	24.1	9.9	11.3	8.9
	精神障害	708	22.9	23.7	15.7	9.6	9.0	10.2	6.6
18歳未満	身体障害	49	30.6	32.7	12.2	10.2	2.0	14.3	18.4
	知的障害	334	15.0	9.9	9.0	21.6	3.3	14.1	17.1
	発達障害	343	14.9	8.5	9.3	19.0	2.9	14.6	15.7

		回答者（人）	気軽に往診を頼める医師がいない	医療機関の施設や設備が障害のある方にも利用できるよう配慮されていない	ちよつとした病気やケガを受け入れる医療機関が近くにない	病院内での付き添いがいない	その他	特に困っていない	無回答
18歳以上	身体障害	1,410	5.7	4.5	3.5	3.3	4.8	45.9	7.9
	難病	239	7.5	5.4	6.7	5.0	5.9	36.0	5.9
	高次脳機能障害	90	8.9	6.7	2.2	5.6	8.9	30.0	10.0
	知的障害	567	9.7	6.7	5.8	6.0	7.8	39.5	9.2
	発達障害	415	8.2	7.0	7.0	6.3	9.2	34.7	6.3
	精神障害	708	6.4	3.8	5.9	4.7	8.6	32.2	6.6
18歳未満	身体障害	49	6.1	6.1	14.3	2.0	12.2	40.8	-
	知的障害	334	6.9	3.6	4.8	1.2	8.1	41.6	3.3
	発達障害	343	6.4	2.9	3.8	1.2	7.9	44.3	2.9

※1番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

- ・令和元年度調査と比較すると、18歳以上・18歳未満ともに「通院の交通手段が確保・利用しにくい（交通費負担が大きいなども含む）」が増加している。

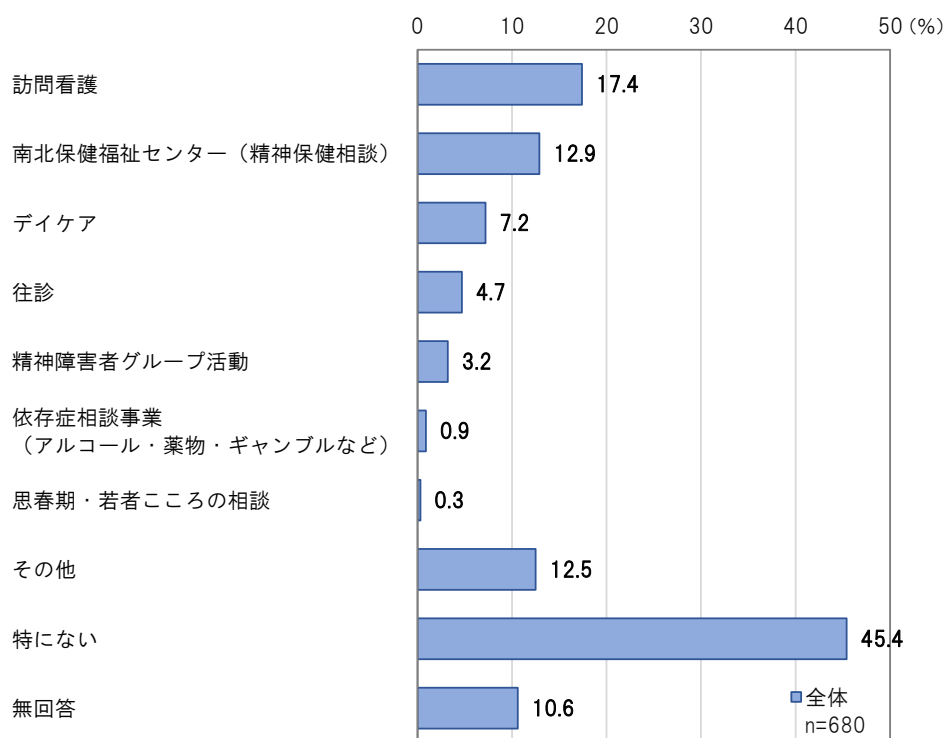


※「通院の交通手段が確保・利用しにくい（交通費負担が大きいなども含む）」は、令和元年度調査では「通院の交通手段が確保・利用しにくい」としていた。

(3) 現在、受けている支援（医療的な支援を含む）（複数回答）

※18歳以上の精神障害者保健福祉手帳所持者のみ

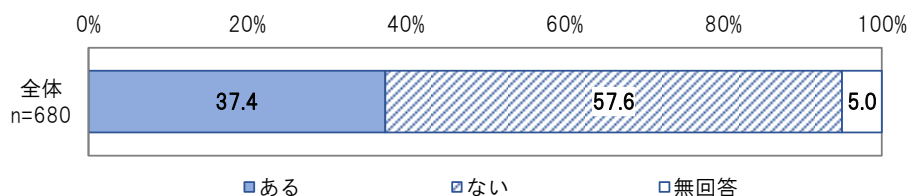
- 現在受けている医療的な支援については、「特にない」が4割以上（45.4%）と最も多くなっている。
- 具体的に受けている医療的な支援では、「訪問看護」が2割近く（17.4%）と多く、次いで「南北保健福祉センター（精神保健相談）」（12.9%）、「デイケア」（7.2%）となっている。



(4) 障害を理由とした入院の有無

※18歳以上の精神障害者保健福祉手帳所持者のみ

- 障害を理由とした入院の有無については、「ない」が6割近く（57.6%）を占め、「ある」は37.4%となっている。



- 等級別にみると、1級・2級で「ある」が「ない」を上回っている。
- 障害種別にみると、統合失調症・妄想性障害などでは6割以上（61.2%）を占め、その他の障害の種別と比べて高くなっている。

		回答者 (人)	ある	ない	無回答
等級	1級	46	50.0	39.1	10.9
	2級	321	48.9	47.7	3.4
	3級	267	21.7	74.2	4.1
障害 種類	統合失調症、妄想性障害など	201	61.2	35.3	3.5
	気分(感情)障害	292	29.5	66.4	4.1
	不安障害、ストレス関連障害等	104	26.0	68.3	5.8
	てんかん	45	48.9	44.4	6.7

※1番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」としている。

(4-1) 入院していた時の困りごとの内容 ※(4)で「ある」と回答した方のみ

- ・入院していた時の困りごとの内容では、隔離病棟・閉鎖病棟への入院や入院中の禁煙など「自由がなかったこと」が20件と最も多く、次いで、「患者同士の間関係」が16件、「医師・看護師とのコミュニケーション」が12件、「衛生面での管理（トイレ、風呂、洗濯、着替えなど）」が11件、「入院先が遠方の病院しかなかったこと」が10件の順となっている。

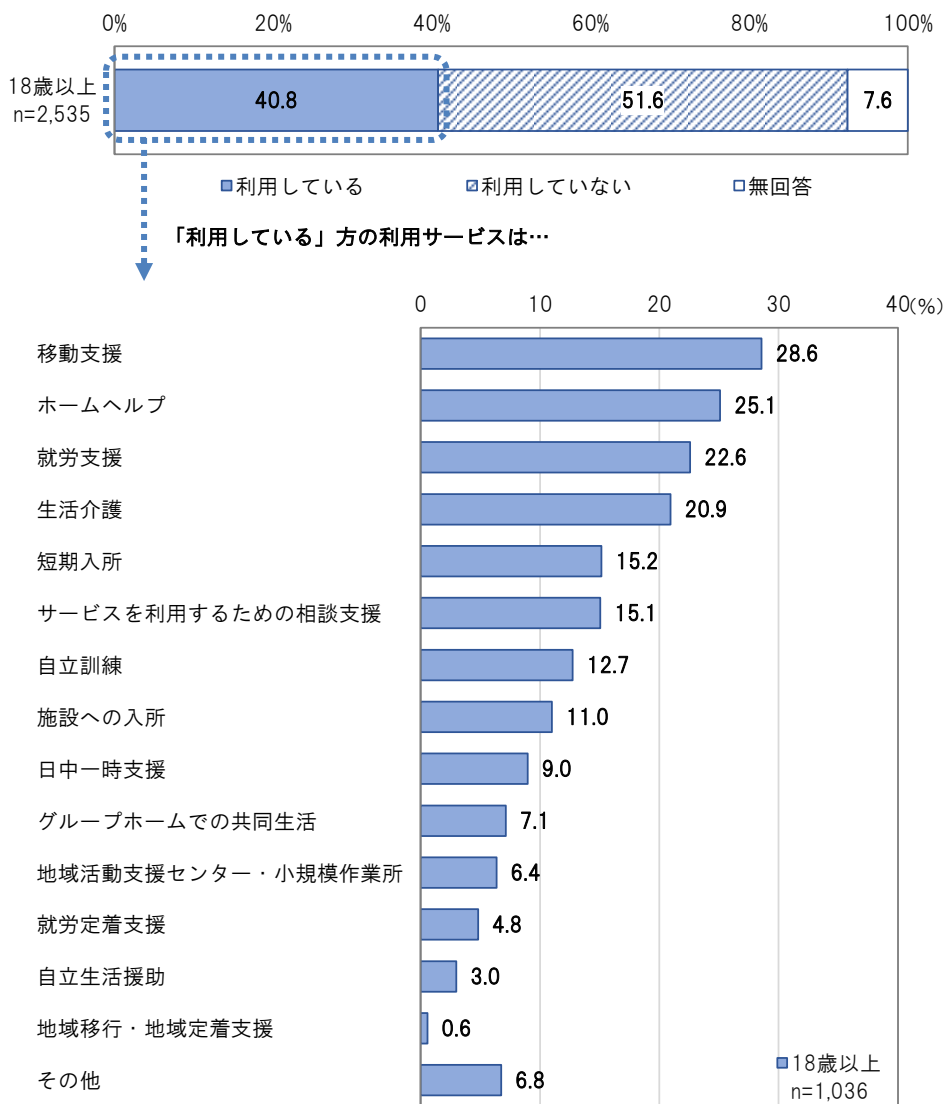
項目	件数
自由がなかったこと（隔離病棟・閉鎖病棟、禁煙など）	20
患者同士の間関係	16
医師・看護師とのコミュニケーション	12
衛生面での管理（トイレ、風呂、洗濯、着替えなど）	11
入院先が遠方の病院しかなかったこと	10
面会が許可されなかったこと（コロナ禍など）	8
外出の制限があったこと	7
入院費が高かったこと	7
一人暮らしのため必要なものが手に入らなかった	6
他の怪我や病気になった時の通院やりハビリが難しかった	4
日常の金銭管理	2
困った時の相談先が分からなかった	2
暇だったこと	2
付き添いがいなかったこと	2
漠然とした不安	2
その他・意見・要望など	16

3. 福祉サービス、相談支援について

(1) 現在利用している福祉サービス（複数回答）

《18歳以上》

- 18歳以上の現在利用している福祉サービスについては、「サービスは利用していない」が半数以上（51.6%）を占めて最も多くなっている。
- サービス利用者の中では、「移動支援」の利用が3割近く（28.6%）と最も高く、次いで、「ホームヘルプ」（25.1%）、「就労支援」（22.6%）、「生活介護」（20.9%）の順となっている。



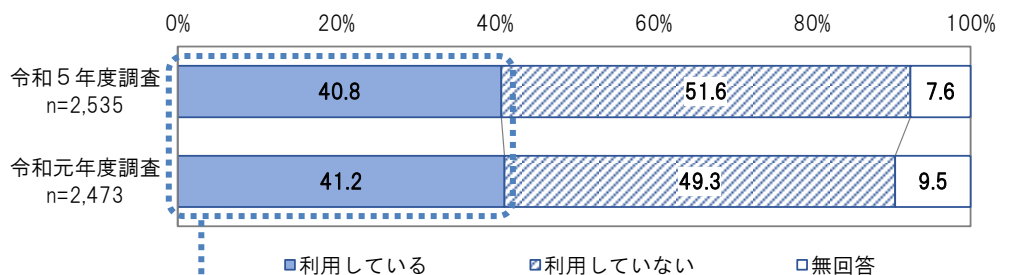
- ・利用しているサービスの内訳を障害種別にみると、身体障害・難病では「ホームヘルプ」が最も多く、知的障害・発達障害では「移動支援」が4割以上と最も多くなっている。
- ・また、知的障害では「生活介護」、知的障害・発達障害・精神障害では「就労支援」、知的障害・発達障害では「短期入所」、高次脳機能障害では「自立訓練」、精神障害では「地域活動支援センター・小規模作業所」などの利用がその他の障害に比べてやや多くなっている。

		回答者 (人)	移動 支援	ホーム ヘルプ	就労 支援	生活 介護	短期 入所	サー ビス を利用 する ための 相 談 支 援	自 立 訓 練	施 設 へ の 入 所
18歳 以上	身体障害	451	26.2	36.4	9.3	22.8	13.1	13.5	19.5	13.7
	難病	81	42.0	53.1	9.9	17.3	14.8	14.8	19.8	4.9
	高次脳機能障害	61	21.3	24.6	18.0	27.9	6.6	18.0	26.2	16.4
	知的障害	397	43.6	10.6	28.5	34.3	30.7	17.6	7.8	14.9
	発達障害	262	44.3	13.4	29.8	25.2	26.3	19.1	5.3	6.9
	精神障害	322	20.5	30.7	32.0	9.3	4.0	15.2	9.0	5.9

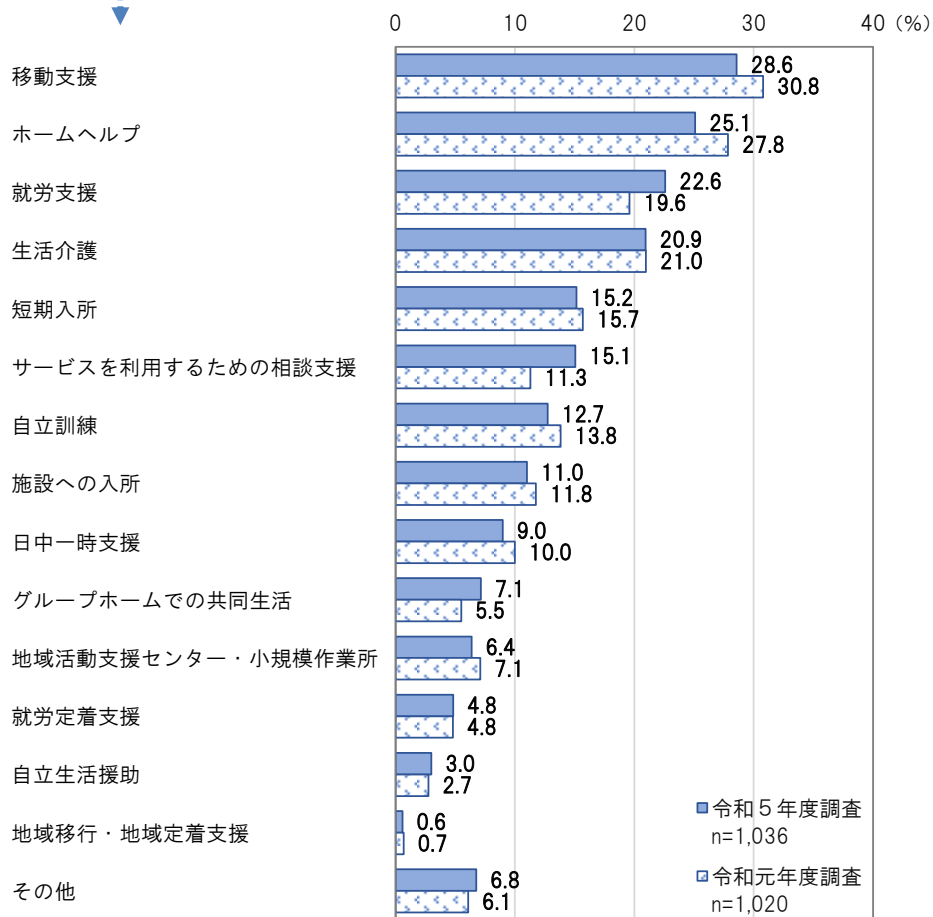
		回答者 (人)	日中 一時 支援	活 グル ープ ホーム での 共同 生	模 地域 作 活動 業 支 所 援 セ ン タ ー ・ 小 規	就 労 定 着 支 援	自 立 生 活 援 助	地 域 移 行 ・ 地 域 定 着 支 援	そ の 他
18歳 以上	身体障害	451	11.3	4.0	3.1	1.6	2.7	0.9	8.0
	難病	81	8.6	3.7	3.7	-	7.4	-	16.0
	高次脳機能障害	61	16.4	1.6	-	3.3	4.9	1.6	9.8
	知的障害	397	11.1	12.1	4.8	6.0	1.3	0.3	3.3
	発達障害	262	10.3	9.2	6.1	10.3	2.7	0.4	6.9
	精神障害	322	6.2	5.9	12.4	7.8	5.9	0.9	7.8

※1番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

- 令和元年度調査と比較すると、「利用している」はともに4割程度と、大きな差異はみられない。
- サービス利用者の中では、「就労支援」や「サービスを利用するための相談支援」、「グループホームでの共同生活」が、その他のサービスに比べて利用がやや増加している。
- 一方で、「移動支援」や「ホームヘルプ」などでは利用がやや減少している。

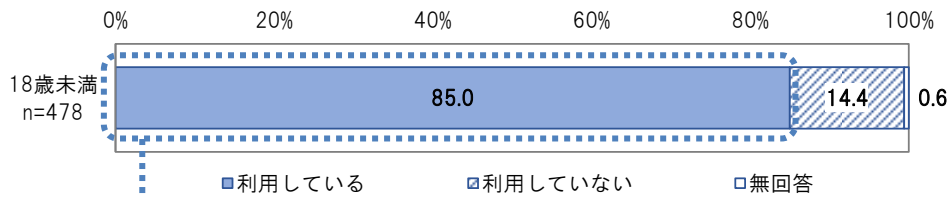


「利用している」方の利用サービスは…

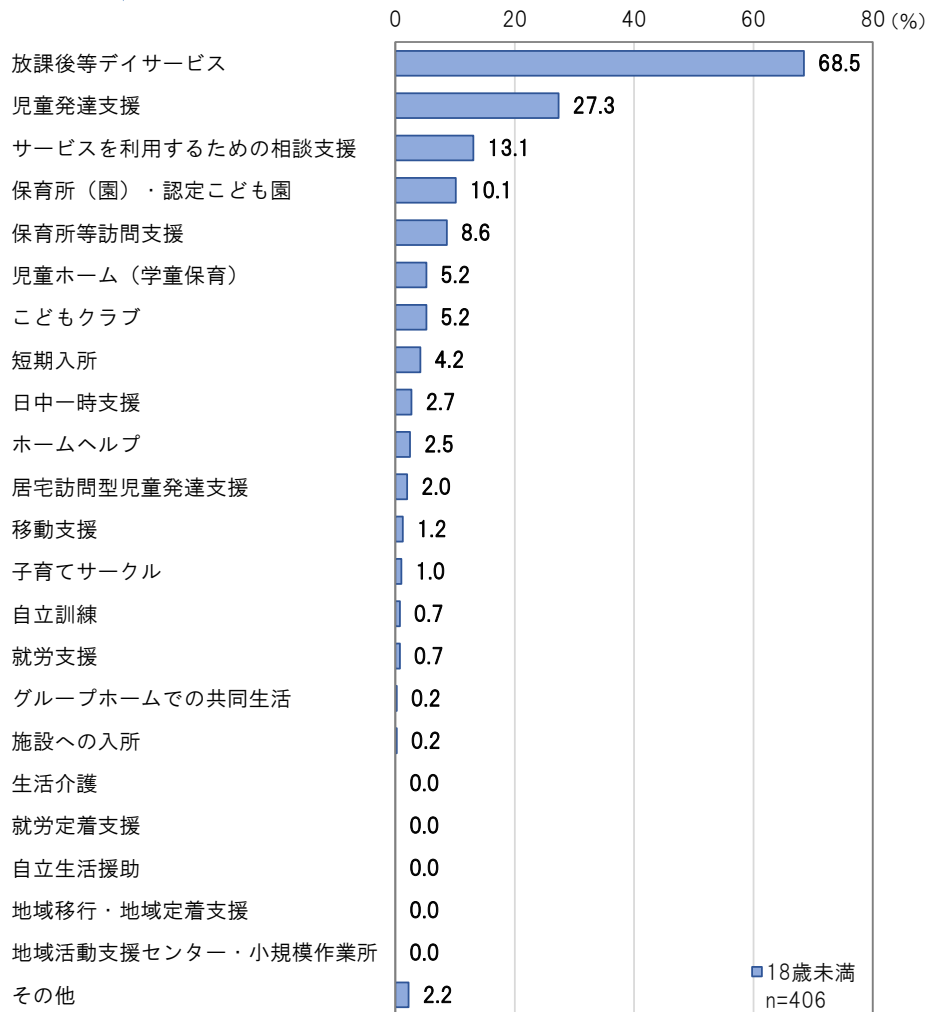


《18歳未満》

- 18歳未満の福祉サービスの利用状況については、「利用している」が8割以上（85.0%）を占める結果となっている。
- サービス利用者の中では、「放課後等デイサービス」が7割近く（68.5%）を占めて最も多く、次いで「児童発達支援」（27.3%）、「サービスを利用するための相談支援」（13.1%）の順となっている。



「利用している」方の利用サービスは…



- ・利用しているサービスの内訳を障害種別にみると、いずれの障害においても「放課後等デイサービス」の利用が最も多く、特に、知的障害・発達障害では、8割近くが利用している。
- ・また、身体障害では「サービスを利用するための相談支援」や「保育所等訪問支援」、「短期入所」、「ホームヘルプ」、「自立訓練」などの利用がその他の障害に比べてやや多くなっている。

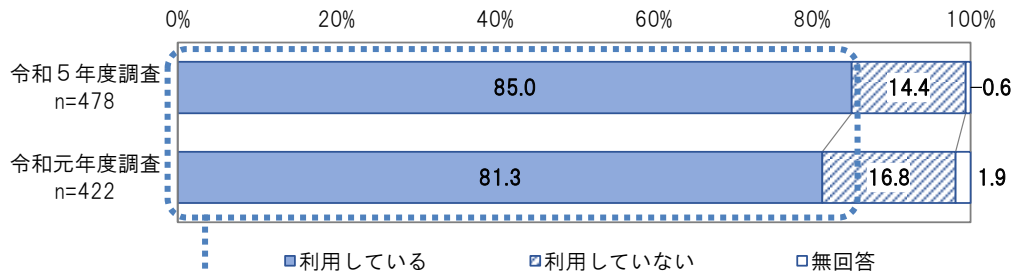
		回答者（人）	放課後等デイサービス	児童発達支援	サービスを利用するための相談支援	保育所（園）・認定こども園	保育所等訪問支援	児童ホーム（学童保育）	こどもクラブ	短期入所
18歳未満	身体障害	41	46.3	31.7	31.7	7.3	22.0	7.3	4.9	14.6
	知的障害	283	78.8	18.7	16.3	6.0	8.8	4.9	5.7	6.0
	発達障害	294	76.9	20.7	12.9	8.2	8.2	4.8	6.5	4.4

		回答者（人）	日中一時支援	ホームヘルプ	居宅訪問型児童発達支援	移動支援	子育てサークル	自立訓練	就労支援	グループホームでの共同生活
18歳未満	身体障害	41	4.9	22.0	4.9	4.9	-	7.3	-	2.4
	知的障害	283	3.9	2.1	1.8	1.8	1.1	0.7	0.4	0.4
	発達障害	294	3.1	1.0	1.4	1.4	1.0	0.7	0.7	0.3

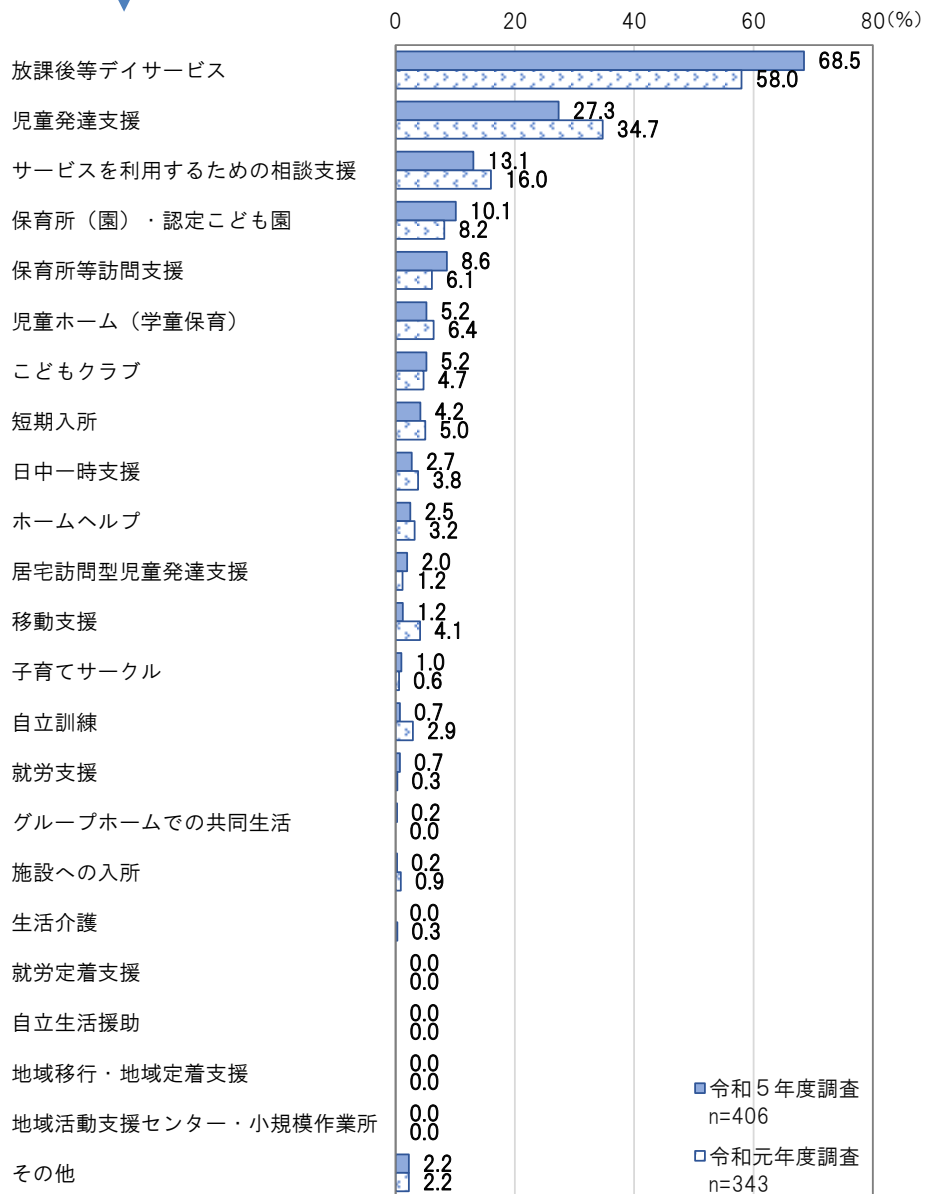
		回答者（人）	施設への入所	生活介護	就労定着支援	自立生活援助	地域移行・地域定着支援	地域活動支援センター・小規模作業所	その他
18歳未満	身体障害	41	-	-	-	-	-	-	4.9
	知的障害	283	0.4	-	-	-	-	-	4.9
	発達障害	294	0.3	-	-	-	-	-	2.1

※1番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

- 令和元年度調査と比較すると、「利用している」がやや多くなっている。
- 具体的な利用サービスでは、「放課後等デイサービス」や「保育所（園）・認定こども園」、「保育所等訪問支援」などで利用がやや増加している。一方で、「児童発達支援」や「サービスを利用するための相談支援」などで利用がやや減少している。

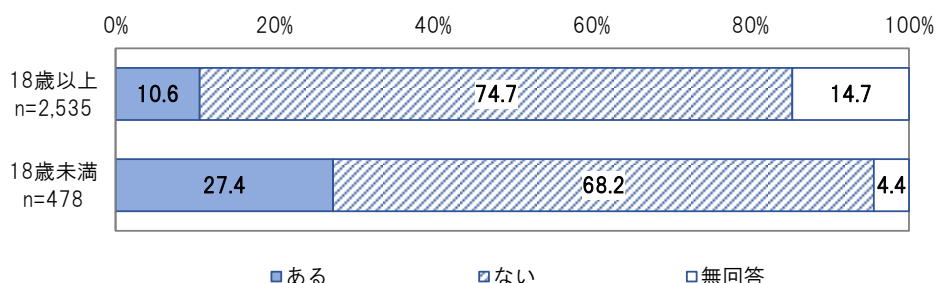


「利用している」方の利用サービスは…



(2) 福祉サービスを利用したいのに、利用できなかったことの有無

- 福祉サービスを利用したいのに、利用できなかったことについては、18歳以上・18歳未満ともに「ない」が7割程度を占めて多くなっている。
- 一方で、「ある」が18歳以上では約1割、18歳未満では3割近くとなっている。

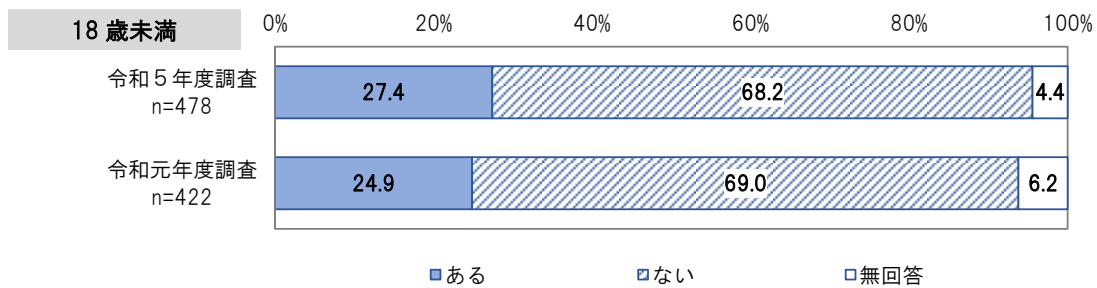
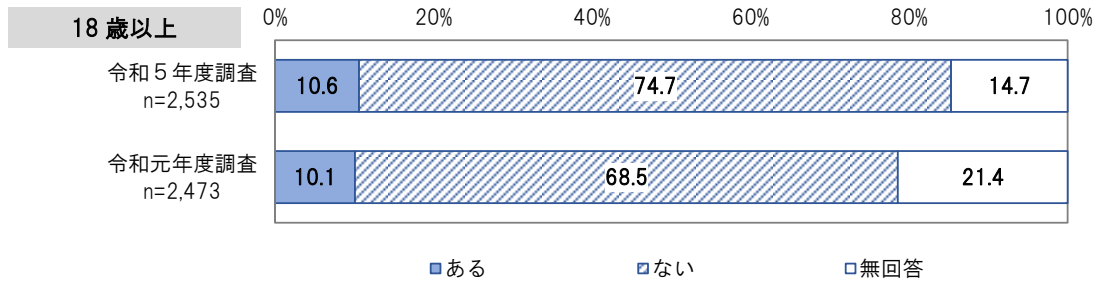


- 障害種別にみると、18歳以上では知的障害・発達障害で「ある」が2割程度と多くなっており、18歳未満では身体障害で3割以上と多くなっている。

		回答者 (人)	ある	ない	無回答
18歳以上	身体障害	1,410	7.2	77.1	15.7
	難病	239	11.3	74.1	14.6
	高次脳機能障害	90	11.1	74.4	14.4
	知的障害	567	19.9	65.3	14.8
	発達障害	415	21.2	67.5	11.3
	精神障害	708	15.0	74.4	10.6
18歳未満	身体障害	49	32.7	59.2	8.2
	知的障害	334	29.9	65.9	4.2
	発達障害	343	29.7	67.1	3.2

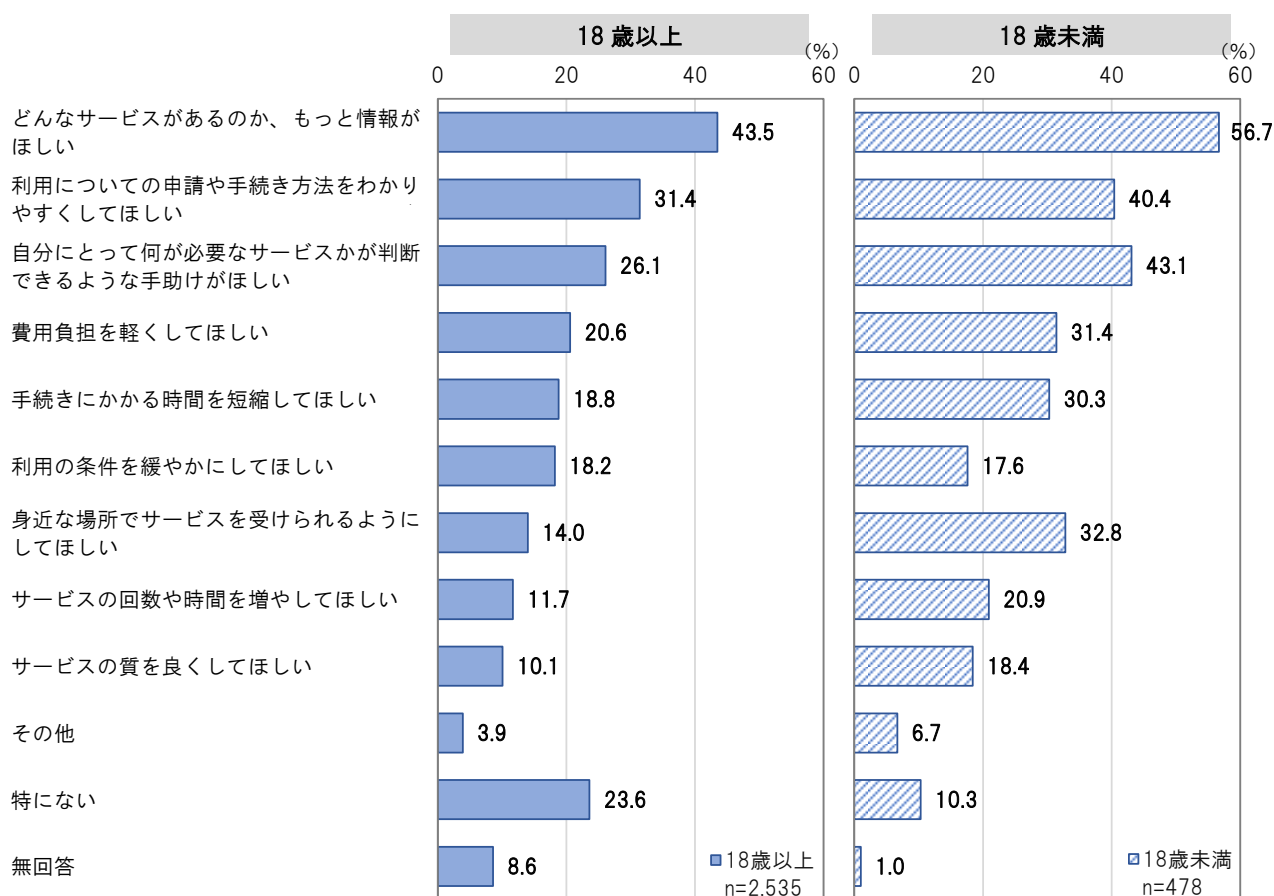
※1番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」としている。

- 令和元年度調査と比較すると、18歳以上では「ない」が大きく増加しているのに対し、18歳未満では、「ある」がやや増加している。



(3) 福祉サービスを利用するために必要な支援（複数回答）

- 福祉サービスを利用するために必要な支援については、18歳以上・18歳未満ともに「どんなサービスがあるのか、もっと情報がほしい」が最も多く、次いで「利用についての申請や手続き方法をわかりやすくしてほしい」や「自分にとって何が必要なサービスかが判断できるような手助けがほしい」などの回答が多くなっている。
- また、ほとんどの項目で18歳以上に比べて18歳未満の割合が高くなっており、特に「どんなサービスがあるのか、もっと情報がほしい」や「自分にとって何が必要なサービスかが判断できるような手助けがほしい」、「手続きにかかる時間を短縮してほしい」、「身近な場所でサービスを受けられるようにしてほしい」では10ポイント以上上回っている。
- 一方で、18歳以上では「利用の条件を緩やかにしてほしい」で18歳未満をやや上回る回答となっている。



- ・障害種別にみると、いずれの障害においても「どんなサービスがあるのか、もっと情報がほしい」の回答が多くなっている。
- ・また、18歳以上の発達障害・精神障害では「自分にとって何が必要なサービスかが判断できるような手助けがほしい」、高次脳機能障害では「サービスの回数や時間を増やしてほしい」、18歳未満の身体障害では「手続きにかかる時間を短縮してほしい」や「身近な場所でサービスを受けられるようにしてほしい」などの回答がやや多くなっている。

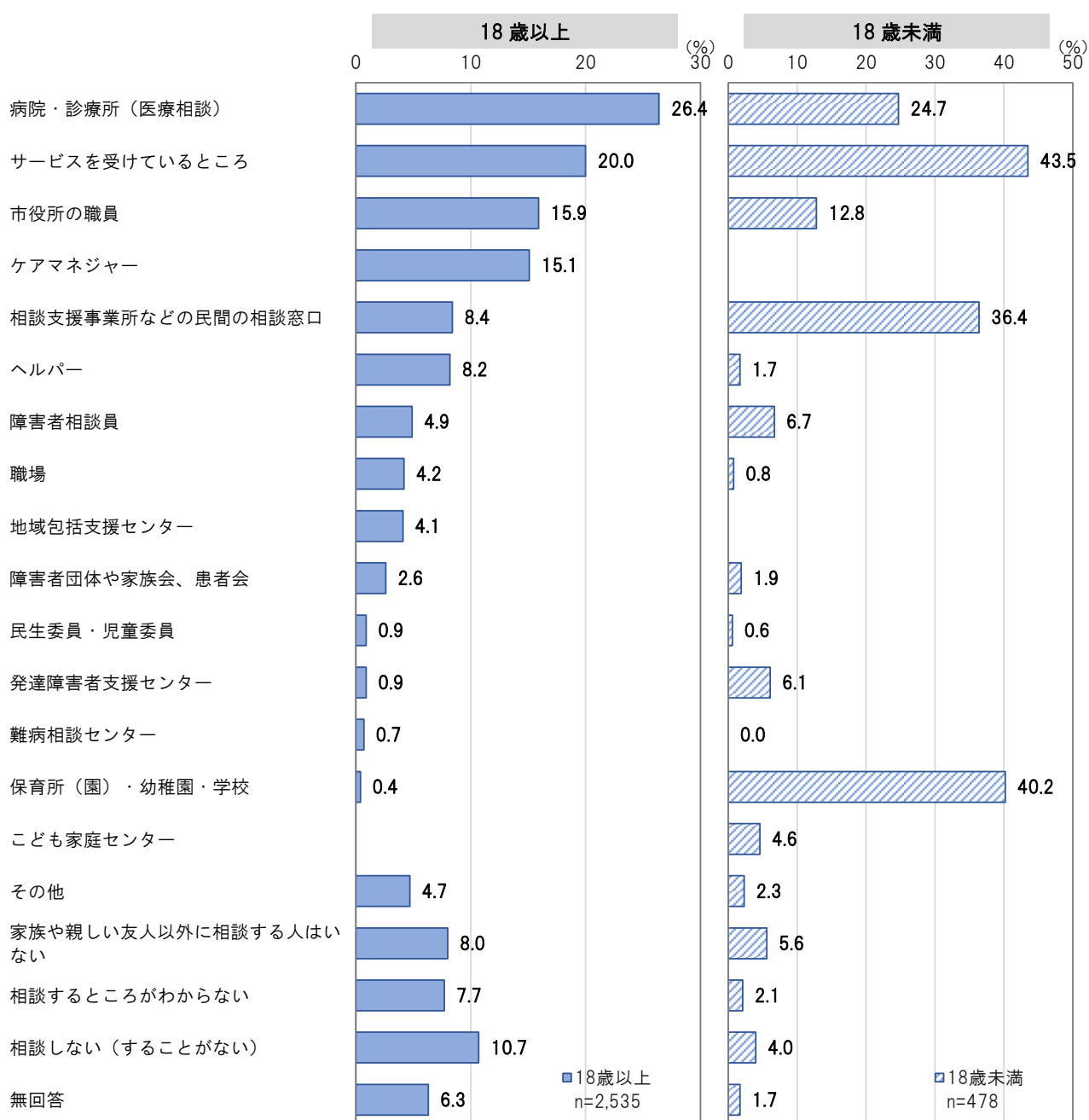
		回答者（人）	どんなサービスがあるのか、もっと情報がほしい	利用についての申請や手続き方法をわかりやすくしてほしい	自分にとって何が必要なサービスかが判断できるような手助けがほしい	費用負担を軽くしてほしい	手続きにかかる時間を短縮してほしい	利用の条件を緩やかにしてほしい
18歳以上	身体障害	1,410	41.7	29.3	20.1	20.6	15.5	16.0
	難病	239	44.8	33.5	26.8	25.9	18.0	19.2
	高次脳機能障害	90	38.9	31.1	27.8	30.0	24.4	21.1
	知的障害	567	37.7	29.6	28.2	14.8	19.2	19.9
	発達障害	415	47.7	38.8	38.1	18.3	27.5	25.1
	精神障害	708	51.7	38.4	38.6	23.9	28.1	24.7
18歳未満	身体障害	49	55.1	42.9	34.7	24.5	44.9	24.5
	知的障害	334	58.7	40.1	42.2	31.7	30.2	19.2
	発達障害	343	55.7	40.2	44.9	34.4	31.2	17.8

		回答者（人）	身近な場所でサービスを受けられるようにしてほしい	サービスの回数や時間を増やしてほしい	サービスの質を良くしてほしい	その他	特にない	無回答
18歳以上	身体障害	1,410	12.6	10.9	8.1	2.7	26.5	9.6
	難病	239	15.5	14.6	7.5	2.9	18.8	10.0
	高次脳機能障害	90	15.6	24.4	15.6	5.6	14.4	8.9
	知的障害	567	18.0	16.2	12.7	6.5	21.3	7.9
	発達障害	415	18.3	16.1	13.7	5.8	17.1	4.6
	精神障害	708	16.2	13.7	14.0	5.2	16.8	6.4
18歳未満	身体障害	49	40.8	26.5	20.4	10.2	10.2	4.1
	知的障害	334	32.3	24.6	19.5	5.1	10.2	0.6
	発達障害	343	30.9	21.0	19.2	6.4	10.8	0.6

※1番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

(4) 福祉サービスを利用する場合や支援を受ける場合の相談先（複数回答）

- ・福祉サービスを利用する場合や支援を受ける場合の相談先については、18歳以上では「病院・診療所（医療相談）」が2割以上（26.4%）と最も多く、次いで「サービスを受けているところ」（20.0%）、「市役所の職員」（15.9%）、「ケアマネジャー」（15.1%）の順となっている。
- ・18歳未満では、「サービスを受けているところ」が4割以上（43.5%）と最も多く、次いで「保育所（園）・幼稚園・学校」（40.2%）、「相談支援事業所などの民間の相談窓口」（36.4%）の順となっている。
- ・一方で、18歳以上では「家族や親しい友人以外に相談する人はいない」や「相談するところかわからない」、「相談しない（することがない）」がともに1割程度となっている。



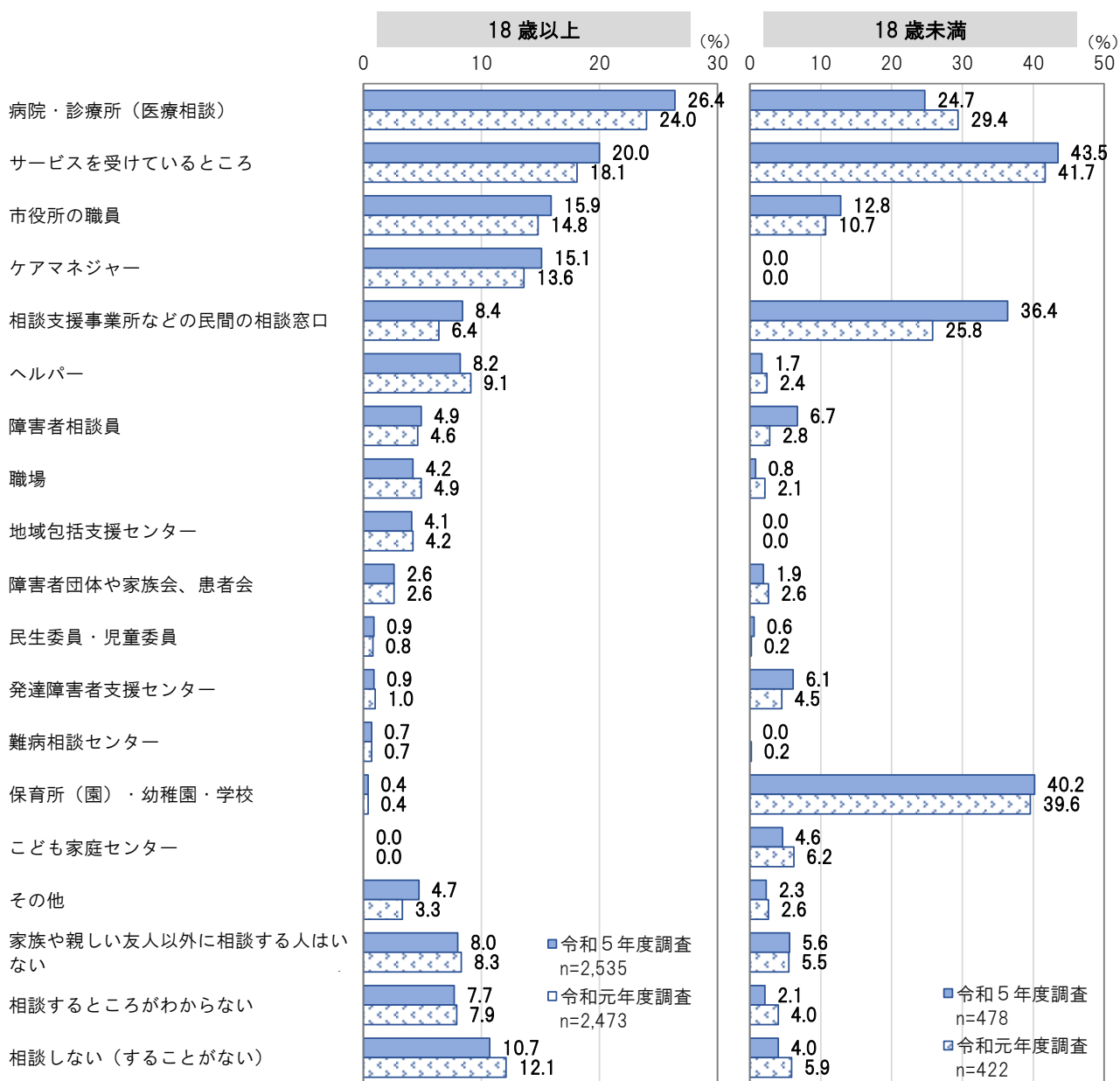
- ・障害種別にみると、知的障害・発達障害では、18歳未満・18歳以上ともに「サービスを受けているところ」、高次脳機能障害では「ケアマネジャー」、18歳未満の身体障害では「相談支援事業所などの民間の相談窓口」、その他の障害では「病院・診療所（医療相談）」が最も多くなっている。
- ・また、18歳以上の高次脳機能障害では「ケアマネジャー」や「ヘルパー」、18歳未満では「相談支援事業所などの民間の相談窓口」や「保育所（園）・幼稚園・学校」が多くなっている。

		回答者（人）	病院・診療所（医療相談）	サービスを受けているところ	市役所の職員	ケアマネジャー	相談支援事業所などの民間の相談窓口	ヘルパー	障害者相談員	職場	地域包括支援センター	障害者団体や家族会、患者会
18歳以上	身体障害	1,410	25.2	12.0	16.7	20.3	4.8	7.7	4.2	3.6	5.5	2.1
	難病	239	37.2	11.7	18.4	21.8	5.4	10.9	3.3	5.0	5.9	3.3
	高次脳機能障害	90	24.4	28.9	11.1	42.2	10.0	13.3	11.1	3.3	4.4	2.2
	知的障害	567	14.1	43.2	10.6	4.8	21.9	10.6	8.5	6.3	1.2	4.8
	発達障害	415	24.6	36.1	14.2	6.5	19.0	10.4	8.2	7.2	1.0	4.8
	精神障害	708	39.1	23.3	19.8	12.1	8.5	10.3	4.2	3.2	3.7	1.8
18歳未満	身体障害	49	34.7	32.7	16.3	0.0	40.8	8.2	12.2	-	0.0	10.2
	知的障害	334	24.3	44.6	11.4	0.0	39.2	1.5	6.3	0.6	0.0	2.1
	発達障害	343	24.8	44.6	10.8	0.0	36.2	1.5	6.7	0.9	0.0	0.9

		回答者（人）	民生委員・児童委員	発達障害者支援センター	難病相談センター	校保育所（園）・幼稚園・学校	こども家庭センター	その他	家族や親しい友人以外に相談する人はいない	相談するところがわからない	相談しない（することがない）	無回答
18歳以上	身体障害	1,410	1.1	0.3	1.2	0.1	0.0	3.4	7.9	8.4	12.6	7.3
	難病	239	0.8	-	5.9	-	0.0	2.9	5.0	9.6	6.3	7.9
	高次脳機能障害	90	-	1.1	2.2	-	0.0	3.3	4.4	3.3	4.4	2.2
	知的障害	567	0.4	2.6	0.2	1.2	0.0	6.3	7.4	5.5	8.1	4.4
	発達障害	415	1.0	4.3	0.2	1.9	0.0	8.2	9.9	5.5	5.3	2.2
	精神障害	708	1.0	1.1	0.6	0.8	0.0	6.5	7.5	6.9	7.1	5.1
18歳未満	身体障害	49	-	2.0	-	30.6	2.0	4.1	2.0	-	4.1	-
	知的障害	334	0.9	5.4	-	39.2	5.1	2.1	6.6	2.4	3.9	1.8
	発達障害	343	0.9	5.8	-	41.7	6.1	2.6	6.4	2.3	3.8	1.2

※1番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

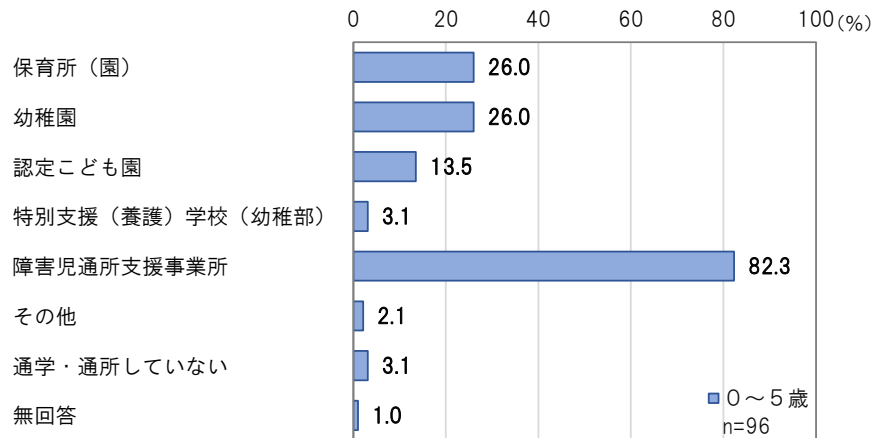
- ・令和元年度調査と比較すると、18歳以上ではほぼ同様の結果となっている。
- ・18歳未満では、ほとんどの項目で増加しており、特に「相談支援事業所などの民間の相談窓口」では10ポイント以上の増加がみられる。一方で、「病院・診療所（医療相談）」ではやや減少となっている。



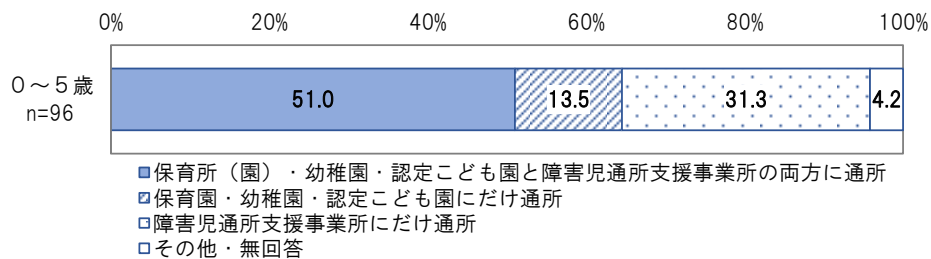
4. 療育・教育について

(1) 就学状況（複数回答） ※18歳未満の方のみ

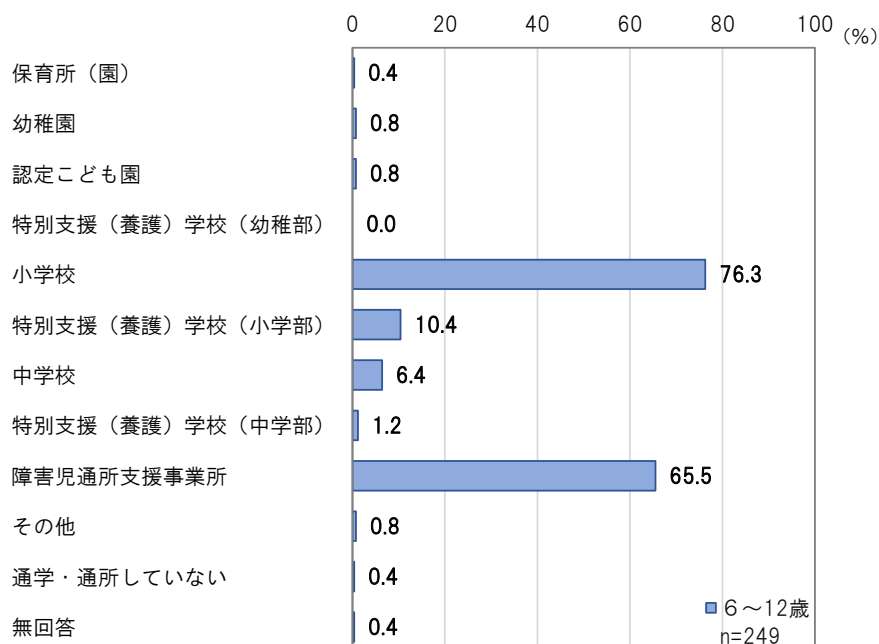
- 0～5歳の就学状況は、「障害児通所支援事業所」が8割以上（82.3%）を占めて最も多く、次いで「保育所（園）」および「幼稚園」（26.0%）、「認定こども園」（13.5%）の順となっている。



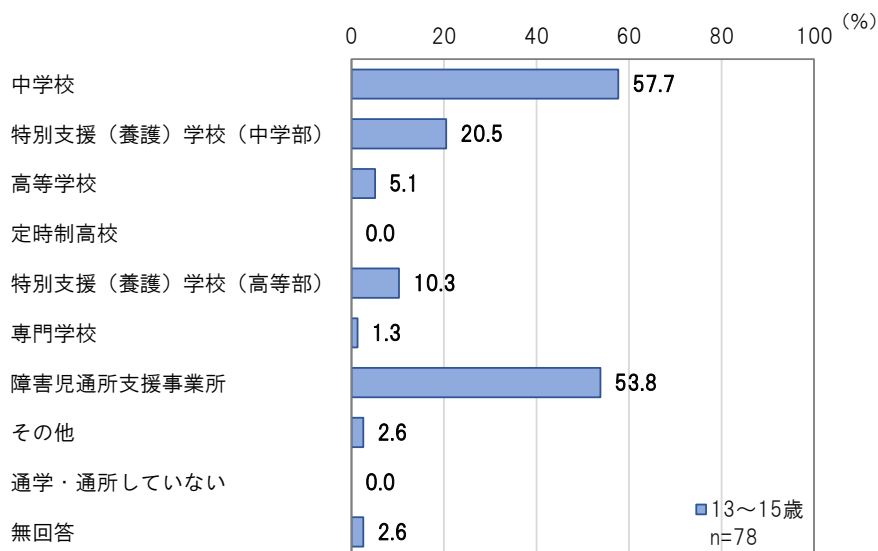
- 保育施設等と障害児通所支援事業所との重複利用の状況をみると、「保育所（園）・幼稚園・認定こども園と障害児通所支援事業所の両方に通所」が半数以上（51.0%）となっている。



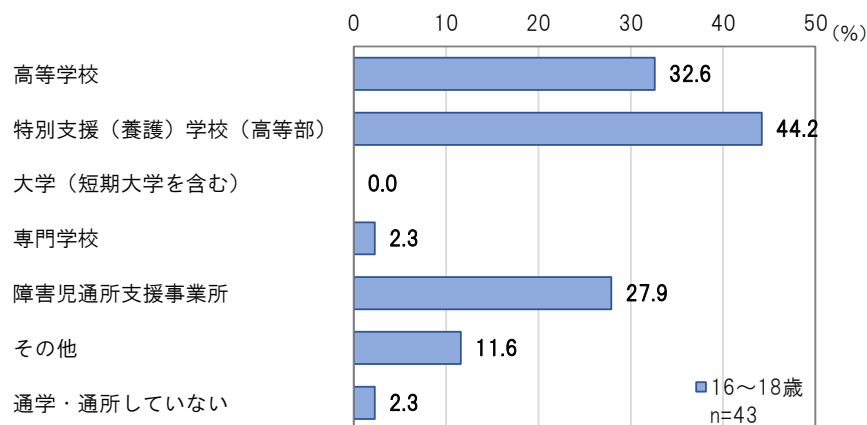
- 6～12歳の就学状況は、「小学校」が7割以上（76.3%）を占めて最も多く、次いで「障害児通所支援事業所」（65.5%）、「特別支援（養護）学校（小学部）」（10.4%）の順となっている。



- 13～15歳の就学状況は、「中学校」が6割近く（57.7%）を占めて最も多く、次いで「障害児通所支援事業所」（53.8%）、「特別支援（養護）学校（中学部）」（20.5%）の順となっている。



- 16～18歳の就学状況は、「特別支援（養護）学校（高等部）」が4割以上（44.2%）と最も多く、次いで「高等学校」（32.6%）、「障害児通所支援事業所」（27.9%）の順となっている。
- 小学生・中学生の間は通常の小中学校に通学している児童・生徒が多いのに対し、高等学校では、通常の「高等学校」に比べて「特別支援（養護）学校（高等部）」に通学する生徒が多くなっている。



- ・障害種別にみると、0～5歳では、いずれの障害においても「障害児通所支援事業所」が最も多くなっている。
- ・6～12歳では、いずれの障害においても「小学校」が最も多く、次いで「障害児通所支援事業所」が多くなっている。

		回答者(人)	保育所(園)	幼稚園	認定こども園	特別支援(養護)学校(幼稚部)	小学校	特別支援(養護)学校(小学部)	中学校	特別支援(養護)学校(中学部)	障害児通所支援事業所	その他	通学・通所していない	無回答
0～5歳	身体障害	16	18.8	18.8	6.3	12.5	-	-			56.3	-	12.5	-
	知的障害	40	22.5	25.0	5.0	5.0	-	-			92.5	2.5	-	2.5
	発達障害	46	30.4	26.1	8.7	2.2	-	-			93.5	2.2	-	2.2
6～12歳	身体障害	20	-	-	-	-	75.0	10.0	-	5.0	55.0	-	-	-
	知的障害	186	0.5	0.5	0.5	-	73.7	14.0	7.5	1.1	68.3	0.5	-	0.5
	発達障害	195	0.5	1.0	1.0	-	76.4	10.8	8.2	1.0	67.2	0.5	0.5	-

- ・13～15歳では、身体障害・知的障害では「障害児通所支援事業所」、発達障害では「中学校」が最も多くなっている。また、身体障害では「特別支援(養護)学校(中学部)」が4割近くを占めて、その他の障害に比べてやや多くなっている。
- ・16～18歳では、いずれの障害においても「特別支援(養護)学校(高等部)」が最も多く、次いで「高等学校」や「障害児通所支援事業所」が多くなっている。

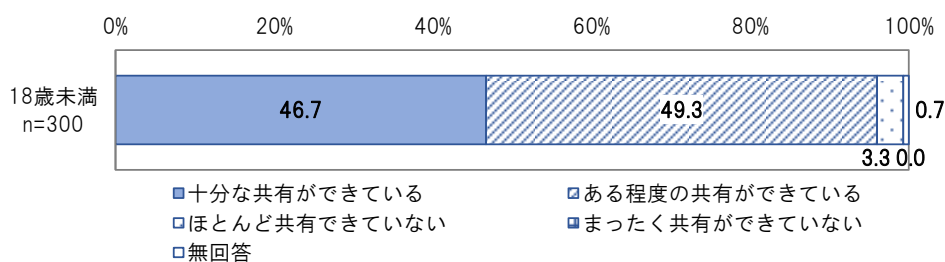
		回答者(人)	中学校	特別支援(養護)学校(中学部)	高等学校	定時制高校	特別支援(養護)学校(高等部)	大学(短期大学を含む)	専門学校	障害児通所支援事業所	その他	通学・通所していない	無回答
13～15歳	身体障害	8	37.5	37.5	-	-	12.5	-	-	62.5	12.5	-	-
	知的障害	67	53.7	22.4	6.0	-	11.9	-	1.5	55.2	1.5	-	3.0
	発達障害	62	59.7	21.0	3.2	-	9.7	-	1.6	56.5	1.6	-	3.2
16～18歳	身体障害	5	-	-	20.0	-	80.0	-	-	20.0	-	-	-
	知的障害	37	-	-	27.0	8.1	48.6	-	2.7	32.4	10.8	2.7	-
	発達障害	34	-	-	35.3	8.8	35.3	-	2.9	32.4	11.8	2.9	-

※1番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

(2) 受けている療育内容や支援時の様子の情報共有の状況

※(1)で「障害児通所支援事業所」と回答した方のみ

- 障害児通所支援事業所を利用している方の、療育内容や支援時の様子の情報共有の状況については、「十分な共有ができていない」が4割以上（46.7%）を占めて最も多く、「ある程度の共有ができていない」（49.3%）と合わせると、ほとんどの方が『共有ができていない』と回答している。

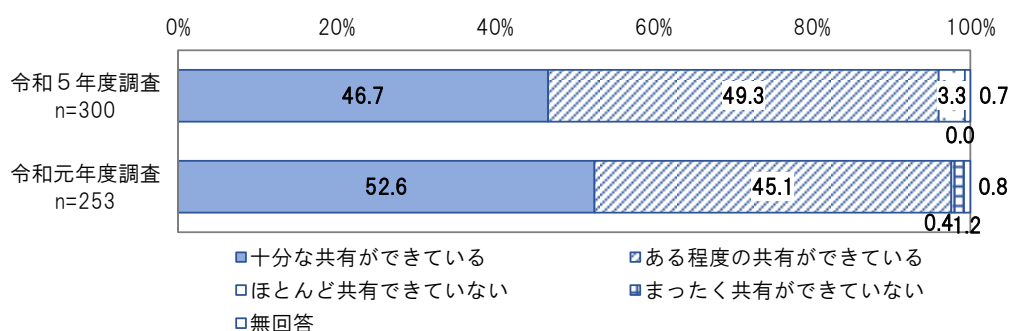


- 障害種別に見ると、共有の状況については大きな差異はみられない。

		回答者 (人)	十分な共有ができていない	ある程度の共有ができていない	ほとんど共有できていない	まったく共有ができていない	無回答
18歳未満	身体障害	26	50.0	46.2	-	-	3.8
	知的障害	215	45.1	51.2	3.3	-	0.5
	発達障害	223	45.7	49.3	4.5	-	0.4

※1番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

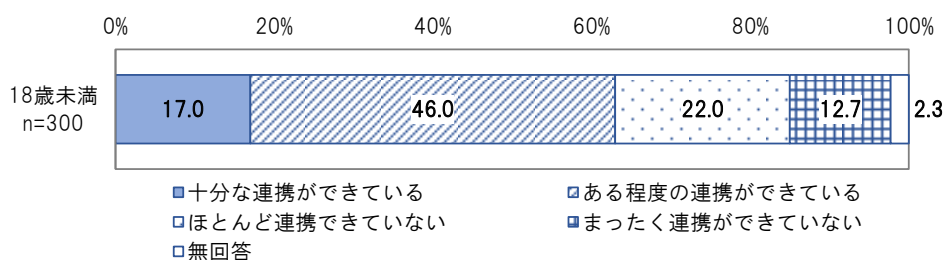
- 令和元年度調査と比較すると、「十分な共有ができていない」がやや減少しているものの、『共有ができていない』はほぼ同様の結果となっている。



(3) 通所している事業所と通学先、支援機関との間での情報の連携状況

※(1)で「障害児通所支援事業所」と回答した方のみ

- 障害児通所支援事業所を利用している方の、通所している事業所と通学先、支援機関との間での情報の連携状況については、「ある程度の連携ができていない」が4割以上(46.0%)と最も多く、「十分な連携ができていない」(17.0%)と合わせると、6割以上(63.0%)の方が『連携ができていない』と回答している。
- 一方で、「ほとんど連携ができていない」(22.0%)と「まったく連携ができていない」(12.7%)を合わせると、『連携ができていない』と回答した方が3割以上(34.7%)となっている。

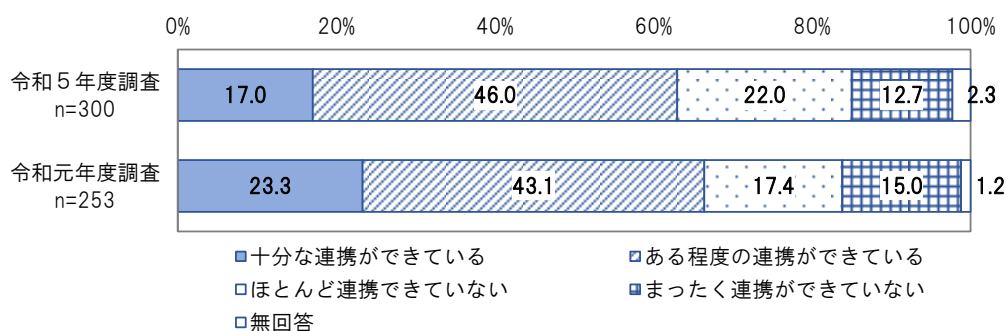


- 障害種別にみると、『連携ができていない』の回答割合は、発達障害(36.4%)、知的障害(34.9%)と、ともに3割以上で多くなっている。

	障害種別	回答者(人)	連携状況				無回答
			十分な連携ができていない	ある程度の連携ができていない	ほとんど連携ができていない	まったく連携ができていない	
18歳未満	身体障害	26	11.5	65.4	11.5	7.7	3.8
	知的障害	215	17.2	45.6	25.1	9.8	2.3
	発達障害	223	16.6	44.8	22.9	13.5	2.2

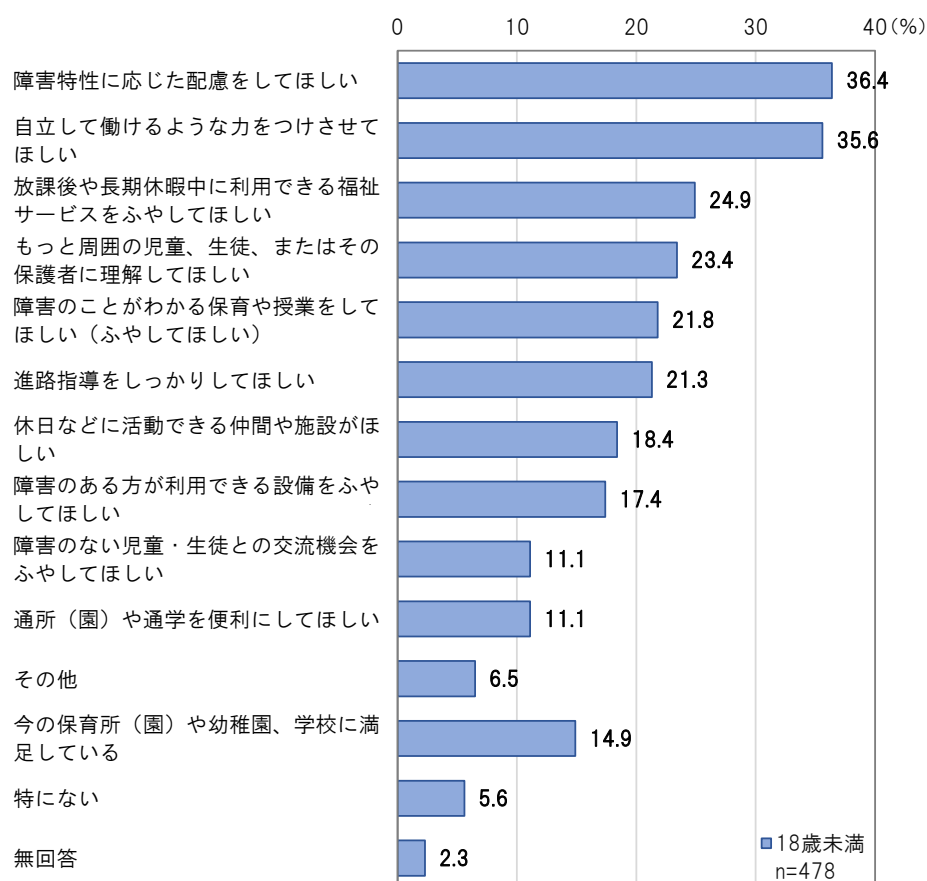
※1番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

- 令和元年度調査と比較すると、「十分な連携ができていない」が5ポイント以上減少しており、『連携ができていない』がやや減少している。



(4) 保育や療育について今後必要だと思うこと（複数回答） ※18歳未満の方のみ

- 保育や療育について今後必要だと思うことについては、「障害特性に応じた配慮をしてほしい」（36.4%）や「自立して働けるような力をつけさせてほしい」（35.6%）がともに3割を超えて多く、次いで、「放課後や長期休暇中に利用できる福祉サービスをふやしてほしい」（24.9%）、「もっと周囲の児童、生徒、またはその保護者に理解してほしい」（23.4%）、「障害のことがわかる保育や授業をしてほしい（ふやしてほしい）」（21.8%）、「進路指導をしっかりとしてほしい」（21.3%）の順となっている。



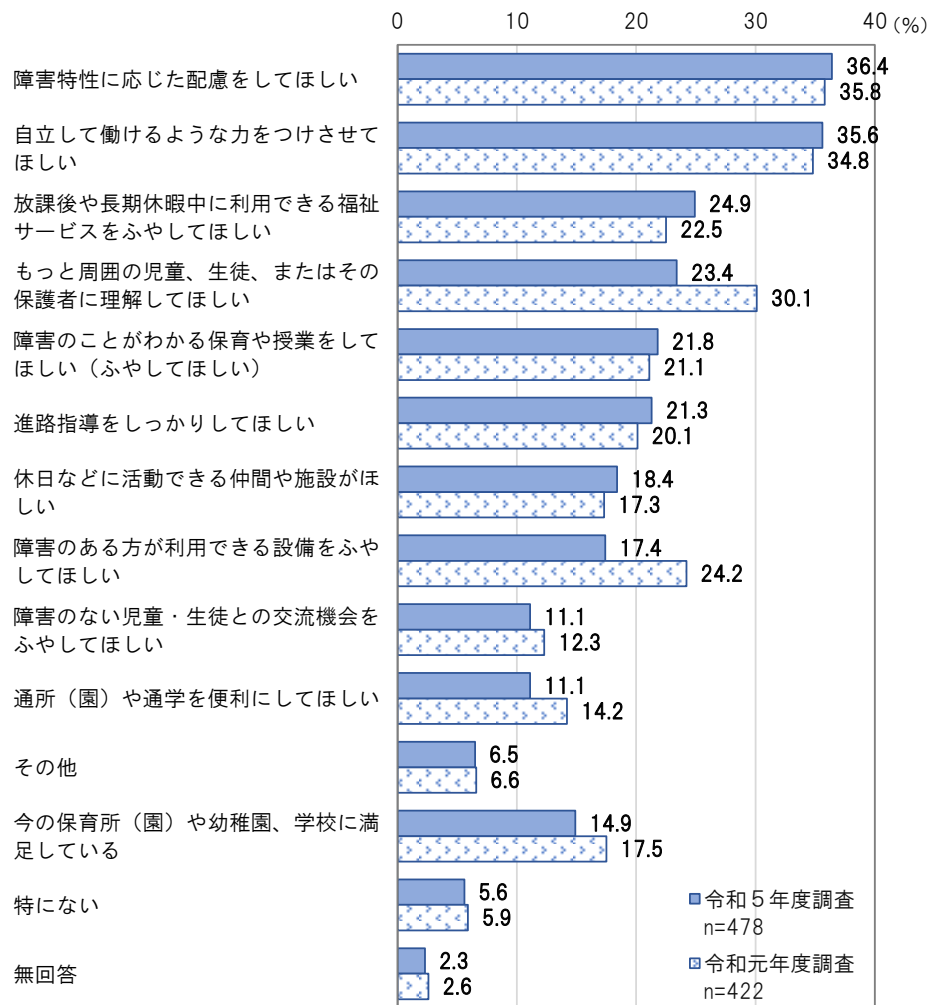
- ・障害種別にみると、身体障害・発達障害では、「障害特性に応じた配慮をしてほしい」が最も多く、次いで身体障害では「放課後や長期休暇中に利用できる福祉サービスをふやしてほしい」、発達障害では「自立して働けるような力をつけさせてほしい」となっているのに対し、知的障害では「自立して働けるような力をつけさせてほしい」が最も多く、次いで「障害特性に応じた配慮をしてほしい」となっている。
- ・また、身体障害では「障害のない児童・生徒との交流機会をふやしてほしい」や「通所（園）や通学を便利にしてほしい」、知的障害・発達障害では「もっと周囲の児童・生徒、またはその保護者に理解してほしい」や「障害のことがわかる保育や授業をしてほしい（ふやしてほしい）」、「進路指導をしっかりとしてほしい」などの回答も多くなっている。

		回答者（人）	障害特性に応じた配慮をしてほしい	自立して働けるような力をつけさせてほしい	放課後や長期休暇中に利用できる福祉サービスをふやしてほしい	もっと周囲の児童・生徒、またはその保護者に理解してほしい	障害のことがわかる保育や授業をしてほしい（ふやしてほしい）	進路指導をしっかりとしてほしい	休日などに活動できる仲間や施設がほしい
18歳未満	身体障害	49	34.7	16.3	28.6	14.3	20.4	8.2	14.3
	知的障害	334	38.0	41.3	27.2	23.7	23.1	24.3	20.7
	発達障害	343	40.8	38.8	26.2	24.8	23.9	25.1	19.8

		回答者（人）	障害のある方が利用できる設備をふやしてほしい	障害のない児童・生徒との交流機会をふやしてほしい	通所（園）や通学を便利にしてほしい	その他	今の保育所（園）や幼稚園、学校に満足している	特にない	無回答
18歳未満	身体障害	49	24.5	26.5	20.4	2.0	12.2	8.2	4.1
	知的障害	334	22.5	13.5	11.7	6.0	10.5	4.5	1.8
	発達障害	343	18.4	10.8	9.6	7.6	12.0	5.0	1.7

※1番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

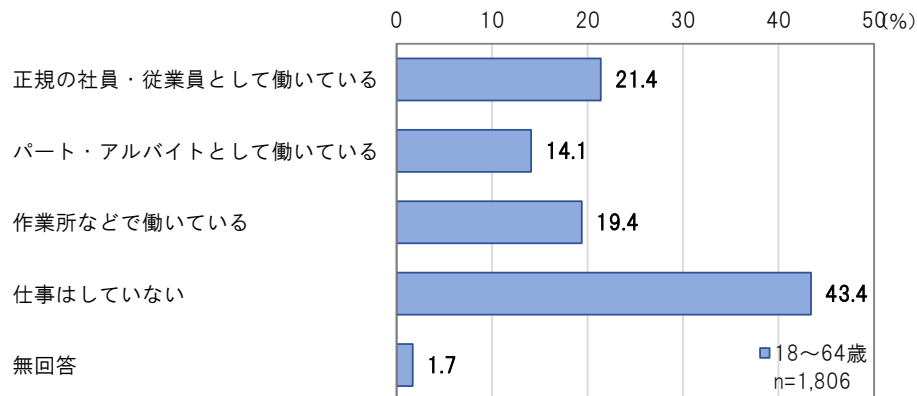
- 令和元年度調査と比較すると、「もっと周囲の児童・生徒、またはその保護者に理解してほしい」や「障害のある方が利用できる設備をふやしてほしい」などが大幅に減少している一方で、「放課後や長期休暇中に利用できる福祉サービスをふやしてほしい」でやや増加している。



5. 雇用・就労について

(1) 就労状況 ※18～64歳の方のみ

- 18～64歳の方の現在の就労状況については、「仕事はしていない」が4割以上（43.4%）を占めて最も多く、「正規の社員・従業員として働いている」（21.4%）と「作業所などで働いている」（19.4%）、「パート・アルバイトとして働いている」（14.1%）を合わせた『就労している』人は半数程度（54.9%）となっている。



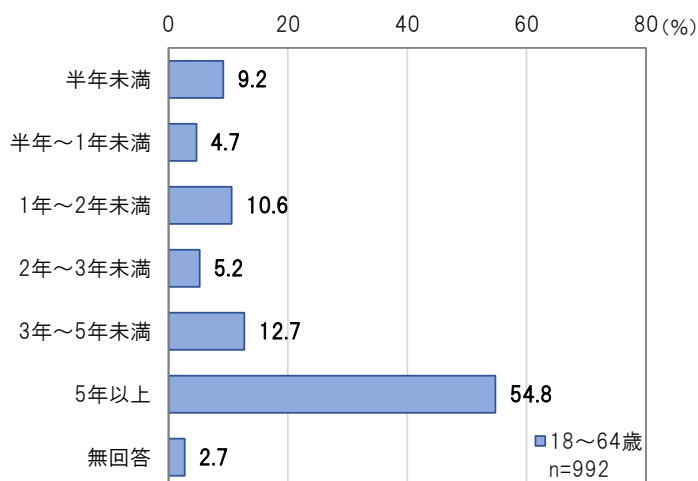
- 障害種別にみると、「正規の社員・従業員として働いている」では身体障害が3割以上、難病が2割以上となっている。また、知的障害・発達障害では、「作業所などで働いている」では3割以上となっており、それぞれ多くなっている。

		回答者 (人)	正規の社員・従業員として働いている	パート・アルバイトとして働いている	作業所などで働いている	仕事はしていない	無回答
18～64歳	身体障害	897	32.7	12.8	9.3	43.3	2.0
	難病	179	21.8	11.7	9.5	54.7	2.2
	高次脳機能障害	66	6.1	16.7	19.7	56.1	1.5
	知的障害	521	9.8	14.0	38.6	34.5	3.1
	発達障害	384	12.8	16.9	32.3	37.0	1.0
	精神障害	555	8.1	13.9	21.6	55.5	0.9

※1番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

(2) 現在の職場での就労期間 ※(1)で『就労している』と回答した方のみ

- ・就労している方の現在の職場での就労期間については、「5年以上」が半数以上（54.8%）を占めて最も多く、次いで「3年～5年未満」（12.7%）、「1年～2年未満」（10.6%）、「半年未満」（9.2%）の順となっており、『1年未満』の方が1割以上となっている。



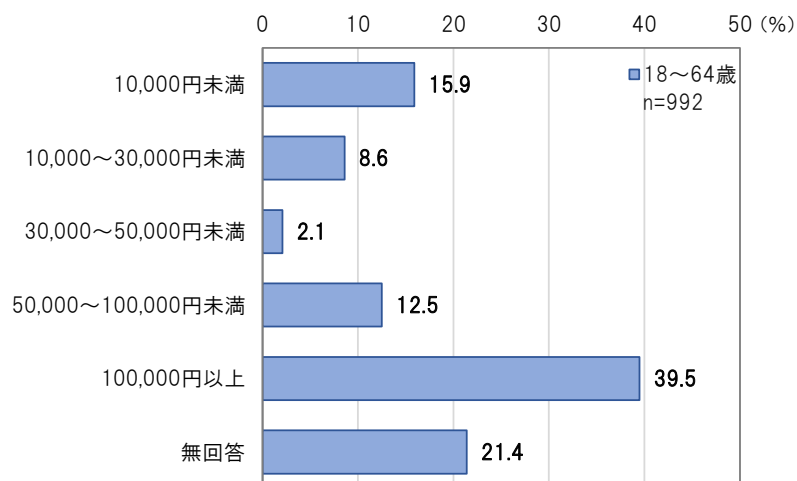
- ・障害種別にみると、いずれも「5年以上」が最も多く、特に身体障害では68.0%となっている。
- ・一方で、高次脳機能障害・発達障害・精神障害では「5年以上」が低く、「半年未満」と「半年～1年未満」を合わせた『1年未満』の就労期間である人が発達障害では約2割、精神障害では3割近くとなっており、特に精神障害では「半年未満」が2割近く（17.8%）と多くなっている。
- ・また、就労形態別にみると、正規の社員・従業員やパート・アルバイトで就労している一般就労、作業所などの福祉就労ともに、「5年以上」が最も多く、次いで「3年～5年未満」となっているものの、福祉就労の方がやや就労期間が短い結果となっている。

		回答者 (人)	半年 未満	半年 ～ 1年 未満	1年 ～ 2年 未満	2年 ～ 3年 未満	3年 ～ 5年 未満	5年 以上	無 回答
障害 種別	身体障害	491	4.9	3.3	7.7	3.1	11.0	68.0	2.0
	難病	77	6.5	1.3	11.7	2.6	14.3	62.3	1.3
	高次脳機能障害	28	3.6	3.6	17.9	7.1	21.4	42.9	3.6
	知的障害	325	9.2	2.2	8.9	6.5	14.8	55.1	3.4
	発達障害	238	14.7	4.6	10.9	9.2	17.2	41.6	1.7
	精神障害	242	17.8	10.3	16.5	9.9	13.2	29.8	2.5
就労 形態	一般就労	642	6.4	4.7	9.7	5.3	10.9	61.2	1.9
	福祉就労	350	14.3	4.9	12.3	5.1	16.0	43.1	4.3

※1番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

(3) 現在の職場での平均月収 ※(1)で『就労している』と回答した方のみ

- 就労している方の現在の職場での平均月収については、「100,000円以上」が約4割(39.5%)と最も多く、次いで「10,000円未満」(15.9%)、「50,000～100,000円未満」(12.5%)の順となっている。



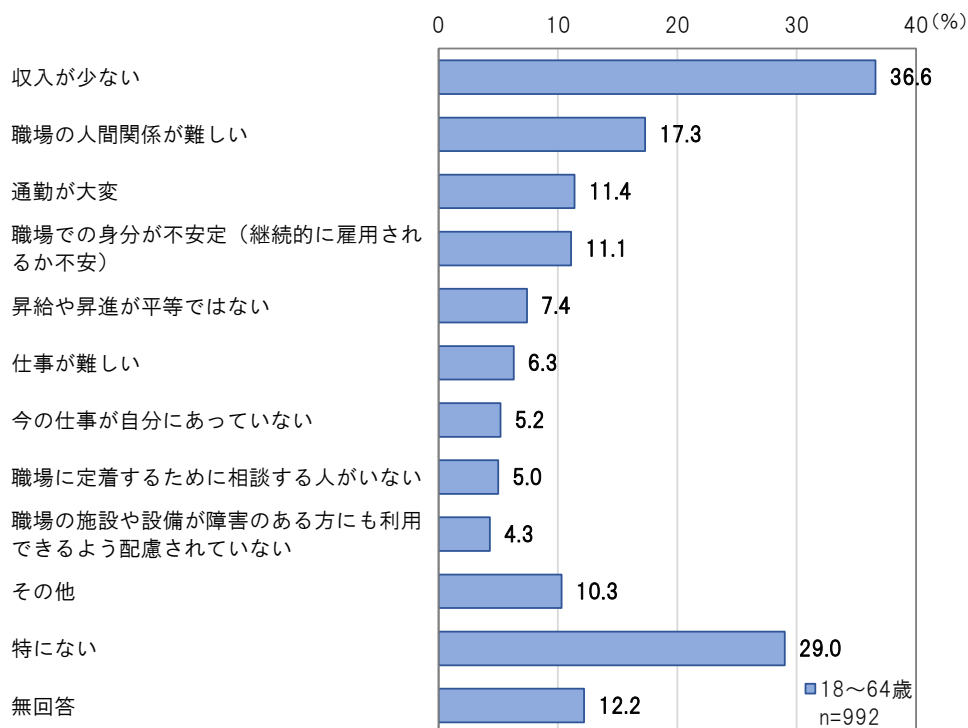
- 障害種別にみると、身体障害・難病では「100,000円以上」がともに4割以上と多くなっているのに対し、知的障害・発達障害では「10,000円未満」が3割前後で多くなっている。
- また、就労形態別にみると、一般就労では「100,000円以上」が約6割(60.1%)を占めて最も多くなっているのに対し、福祉就労では「10,000円未満」が約4割(40.9%)と最も多くなっている。

		回答者 (人)	10,000円未満	10,000～30,000円未満	30,000～50,000円未満	50,000～100,000円未満	100,000円以上	無回答
障害種別	身体障害	491	9.2	2.9	1.4	9.2	52.5	24.8
	難病	77	14.3	1.3	-	14.3	46.8	23.4
	高次脳機能障害	28	21.4	3.6	3.6	17.9	32.1	21.4
	知的障害	325	31.4	14.8	1.5	11.7	21.8	18.8
	発達障害	238	28.2	13.0	2.1	15.1	28.6	13.0
	精神障害	242	16.1	16.1	3.3	19.4	26.9	18.2
就労形態	一般就労	642	2.3	2.3	2.3	10.4	60.1	22.4
	福祉就労	350	40.9	20.0	1.7	16.3	1.7	19.4

※1番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

(4) 仕事をしている上で困っていること (複数回答) ※(1)で『就労している』と回答した方のみ

- ・就労している方の仕事をしている上で困っていることについては、「収入が少ない」が3割以上(36.6%)と最も多く、次いで「職場の人間関係が難しい」(17.3%)、「通勤が大変」(11.4%)、「職場での身分が不安定(継続的に雇用されるか不安)」(11.1%)との順となっている。



- ・障害種別にみると、いずれも「収入が少ない」が最も多く、特に難病・高次脳機能障害・精神障害で4割以上と最も高くなっている。
- ・また、高次脳機能障害・精神障害では「職場の人間関係が難しい」や「職場での身分が不安定（継続的に雇用されるか不安）」、難病では「通勤が大変」や「昇給や昇進が平等ではない」などの回答がそれぞれやや多くなっている。

		回答者（人）	収入が少ない	職場の人間関係が難しい	通勤が大変	職場での身分が不安定 （継続的に雇用されるか不安）	昇給や昇進が平等ではない	仕事が難しい
障害種別	身体障害	491	33.6	11.2	11.8	9.6	8.6	4.7
	難病	77	40.3	10.4	22.1	13.0	10.4	3.9
	高次脳機能障害	28	42.9	28.6	17.9	25.0	7.1	3.6
	知的障害	325	35.1	19.4	9.5	6.8	4.3	6.8
	発達障害	238	39.9	21.4	11.8	13.4	5.9	7.1
	精神障害	242	45.0	26.9	12.8	18.6	7.9	9.9

		回答者（人）	今の仕事が自分にあっていない	職場に定着するために相談する人がいない	職場の施設や設備が障害のある方にも利用できるよう配慮されていない	その他	特になし	無回答
障害種別	身体障害	491	4.9	3.3	5.3	10.4	31.4	13.4
	難病	77	5.2	5.2	10.4	18.2	22.1	7.8
	高次脳機能障害	28	3.6	10.7	10.7	10.7	17.9	14.3
	知的障害	325	3.7	4.3	3.4	9.2	30.8	12.6
	発達障害	238	5.5	6.7	4.2	11.3	24.8	11.3
	精神障害	242	7.4	7.9	3.3	13.2	19.0	11.6

※1番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

- 就労形態別にみると、「特にない」の回答を除いて、いずれも「収入が少ない」が多く、特に福祉就労では4割以上（43.1%）となっている。
- また、一般就労では「職場での身分が不安定（継続的に雇用されるか不安）」や「昇給や昇進が平等ではない」などの回答がやや多くなっている。

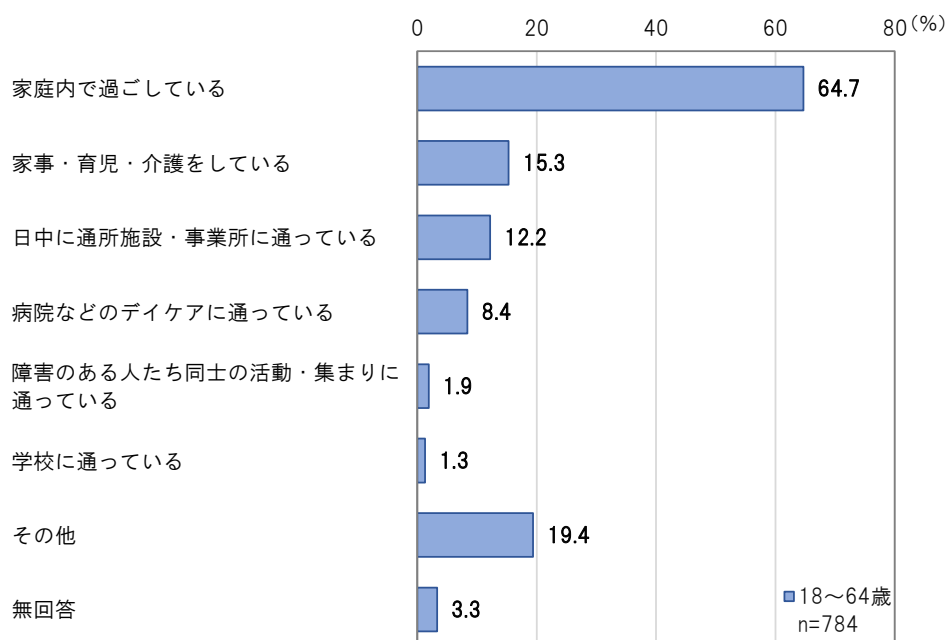
		回答者（人）	収入が少ない	職場の人間関係が難しい	通勤が大変	職場での身分が不安定 （継続的に雇用されるか不安）	昇給や昇進が平等ではない	仕事が難しい
就労 形態	一般就労	642	33.0	16.5	12.0	14.8	9.7	6.5
	福祉就労	350	43.1	18.9	10.3	4.3	3.1	5.7

		回答者（人）	今の仕事自分が自分にあっていない	職場に定着するために相談する人がいない	職場の施設や設備が障害のある方にも利用できるよう配慮されていない	その他	特にない	無回答
就労 形態	一般就労	642	6.2	5.9	5.3	10.3	30.7	12.3
	福祉就労	350	3.4	3.4	2.6	10.3	26.0	12.0

※1 番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

(5) 日中の過ごし方（複数回答） ※(1)で「仕事はしていない」と回答した方のみ

- ・就労していない方の日中の過ごし方については、「家庭内で過ごしている」が6割以上(64.7%)を占めて最も多く、次いで「家事・育児・介護をしている」(15.3%)、「日中に通所施設・事業所に通っている」(12.2%)の順となっている。



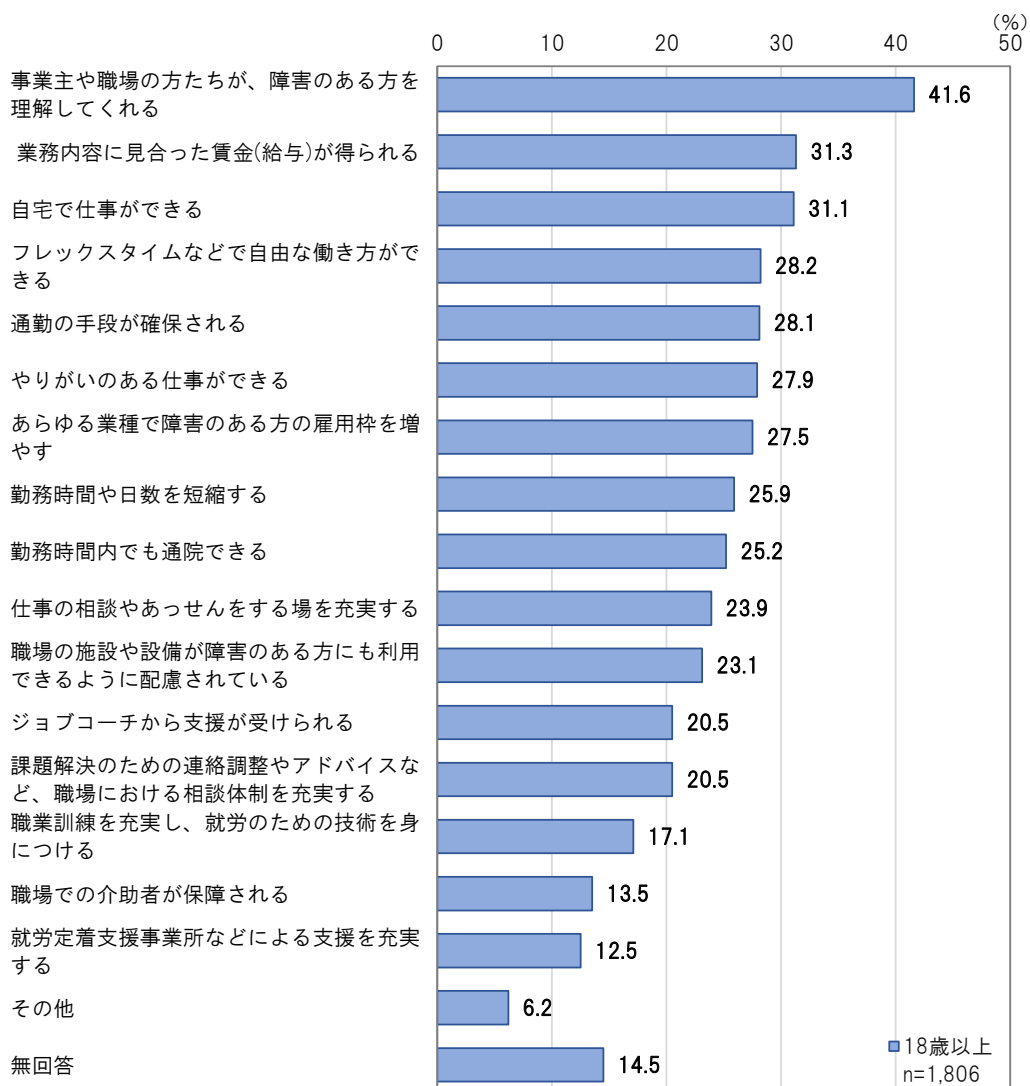
- ・障害種別にみると、いずれの障害でも「家庭内で過ごしている」が最も高くなっている。
- ・また、高次脳機能障害・知的障害・発達障害では「日中に通所施設・事業所に通っている」、それ以外の障害では「家事・育児・介護をしている」がやや多くなっている。その他、難病・高次脳機能障害では「病院などのデイケアに通っている」がやや多くなっている。

障害種別	回答者(人)	家庭内で過ごしている	家事・育児・介護をしている	日中に通所施設・事業所に通っている	病院などのデイケアに通っている	障害のある人たち同士の活動・集まりに通っている	学校に通っている	その他	無回答
		身体障害	388	65.2	17.0	8.8	9.3	1.8	1.0
難病	98	74.5	18.4	5.1	14.3	-	2.0	19.4	4.1
高次脳機能障害	37	51.4	5.4	24.3	16.2	5.4	2.7	32.4	-
知的障害	180	34.4	6.7	29.4	5.6	1.7	3.3	28.9	5.6
発達障害	142	51.4	10.6	23.2	5.6	2.8	2.8	24.6	2.1
精神障害	308	76.0	16.2	7.1	9.7	2.6	0.3	14.9	2.3

※1 番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

(6) 障害のある方が働きやすくなるために必要な条件や環境整備（複数回答） ※18～64歳の方のみ

・障害のある方が働きやすくなるために必要な条件や環境整備については、「事業主や職場の方たちが、障害のある方を理解してくれる」が4割以上（41.6%）と最も多く、次いで「業務内容に見合った賃金（給与）が得られる」（31.3%）、「自宅で仕事ができる」（31.1%）、「フレックスタイムなどで自由な働き方ができる」（28.2%）、「通勤の手段が確保される」（28.1%）の順となっている。



- ・障害種別にみると、いずれも「事業主や職場の方たちが、障害のある方を理解してくれる」が最も多くなっている。
- ・発達障害・精神障害では「業務内容に見合った賃金（給与）が得られる」、や「やりがいのある仕事ができる」、発達障害では「課題解決のための連絡調整やアドバイスなど、職場における相談体制を充実する」、難病・高次脳機能障害では「通勤の手段が確保される」、精神障害では「フレックスタイムなどで自由な働き方ができる」や「勤務時間や日数を短縮する」などがやや多くなっている。

		回答者（人）	事業主や職場の方たちが、障害のある方を理解してくれる	業務内容に見合った賃金（給与）が得られる	自宅で仕事ができる	フレックスタイムなどで自由な働き方ができる	通勤の手段が確保される	やりがいのある仕事ができる	あらゆる業種で障害のある方の雇用枠を増やす	勤務時間や日数を短縮する	勤務時間内でも通院できる
障害種別	身体障害	897	39.1	29.4	31.7	27.5	31.5	25.9	25.2	24.3	26.3
	難病	179	39.1	31.3	35.8	28.5	35.8	23.5	27.4	32.4	32.4
	高次脳機能障害	66	42.4	16.7	27.3	22.7	34.8	22.7	21.2	21.2	19.7
	知的障害	521	39.3	25.3	14.0	17.7	26.1	26.1	25.5	14.6	16.5
	発達障害	384	50.0	37.2	28.6	28.6	29.7	35.2	33.1	22.7	22.7
	精神障害	555	46.3	38.4	41.8	37.5	27.0	32.1	32.4	37.7	31.2

		回答者（人）	仕事の相談やあつせんをする場を充実する	職場の施設や設備が障害のある方にも利用できるように配慮されている	ジョブコーチから支援が受けられる	課題解決のための連絡調整やアドバイスなど、職場における相談体制を充実する	職業訓練を充実し、就労のための技術を身につける	職場での介助者が保障される	就労定着支援事業所などによる支援を充実する	その他	無回答
障害種別	身体障害	897	21.4	26.2	13.2	16.8	13.3	12.3	8.5	5.0	14.5
	難病	179	23.5	28.5	15.6	17.9	14.0	12.3	7.3	6.1	10.6
	高次脳機能障害	66	27.3	31.8	16.7	19.7	21.2	16.7	15.2	1.5	21.2
	知的障害	521	19.2	18.6	26.1	22.1	15.7	20.2	15.2	6.7	20.9
	発達障害	384	29.7	25.3	35.4	33.1	24.0	19.0	19.3	9.1	10.7
	精神障害	555	31.7	22.2	27.6	25.4	23.6	11.7	16.6	8.8	11.4

※1 番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

- 就労形態別にみると、いずれも「事業主や職場の方たちが、障害のある方を理解してくれる」が最も多くなっているものの、次いで、一般就労では「業務内容に見合った賃金(給与)が得られる」、福祉就労では「やりがいのある仕事ができる」、未就労では「自宅で仕事ができる」が多くなっている。
- また、一般就労では「勤務時間内でも通院できる」、福祉就労では「課題解決のための連絡調整やアドバイスなど、職場における相談体制を充実する」や「職業訓練を充実し、就労のための技術を身につける」、「職場での介助者が保障される」、「就労定着支援事業所などによる支援を充実する」、未就労では「勤務時間や日数を短縮する」などでやや多くなっている。

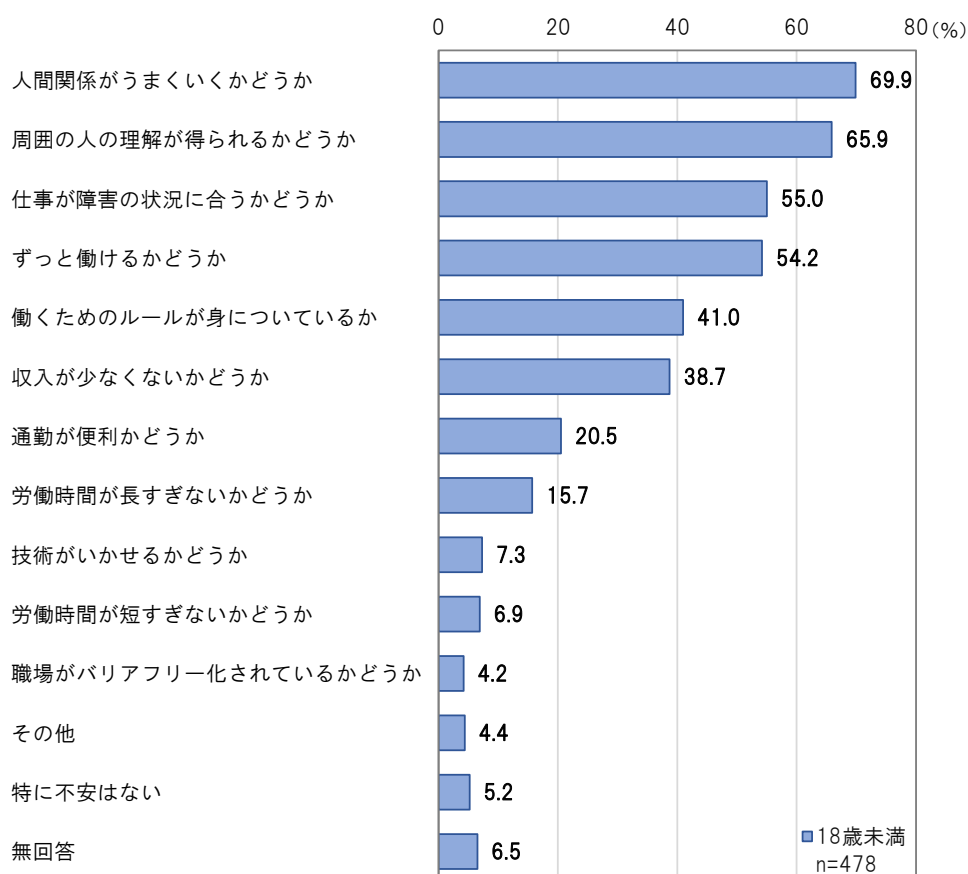
		回答者(人)	事業主や職場の方たちが、障害のある方を理解してくれる	業務内容に見合った賃金(給与)が得られる	自宅で仕事ができる	フレックスタイムなどで自由な働き方ができる	通勤の手段が確保される	やりがいのある仕事ができる	あらゆる業種で障害のある方の雇用枠を増やす	勤務時間や日数を短縮する	勤務時間内でも通院できる
就労形態	一般就労	642	44.4	34.6	29.9	31.6	25.9	29.9	29.8	24.6	28.0
	福祉就労	350	46.3	31.7	19.4	21.1	30.3	33.1	28.0	20.3	22.3
	未就労	784	38.4	29.2	38.0	29.3	29.7	24.5	26.0	30.2	24.7

		回答者(人)	仕事の相談やあっせんをする場を充実する	職場の施設や設備が障害のある方にも利用できるように配慮されている	ジョブコーチから支援が受けられる	課題解決のための連絡調整やアドバイスなど、職場における相談体制を充実する	職業訓練を充実し、就労のための技術を身につける	職場での介助者が保障される	就労定着支援事業所などによる支援を充実する	その他	無回答
就労形態	一般就労	642	22.7	24.0	16.7	20.7	16.8	8.3	9.8	5.3	7.8
	福祉就労	350	27.4	24.0	25.1	25.7	20.3	20.9	20.6	4.6	11.1
	未就労	784	24.1	22.4	22.1	18.6	16.2	14.9	11.5	7.9	19.0

※1 番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2 番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

(7) 将来仕事をするとき、仕事をしているなかで不安なこと（複数回答） ※18歳未満の方のみ

- 18歳未満の、将来仕事をするとき、仕事をしているなかで不安なことについては、「人間関係がうまくいくかどうか」が約7割（69.9%）を占めて最も多く、次いで「周囲の人の理解が得られるかどうか」（65.9%）、「仕事が障害の状況に合うかどうか」（55.0%）、「ずっと働けるかどうか」（54.2%）の順となっている。



- 障害種別にみると、身体障害では「周囲の人の理解が得られるかどうか」、知的障害・発達障害では「人間関係がうまくいくかどうか」が最も多くなっている。
- また、身体障害では「職場がバリアフリー化されているかどうか」、知的障害・発達障害では「ずっと働けるかどうか」や「働くためのルールが身についているか」、「収入が少なくないかどうか」などの回答も多くなっている。

		回答者（人）	人間関係がうまくいくかどうか	周囲の人の理解が得られるかどうか	仕事障害の状況に合うかどうか	ずっと働けるかどうか	働くためのルールが身についているか	収入が少なくないかどうか	通勤が便利かどうか
18歳未満	身体障害	49	51.0	67.3	57.1	49.0	26.5	30.6	24.5
	知的障害	334	71.9	71.0	62.0	59.0	43.7	42.5	25.7
	発達障害	343	77.3	71.7	59.8	58.3	45.5	43.4	21.9

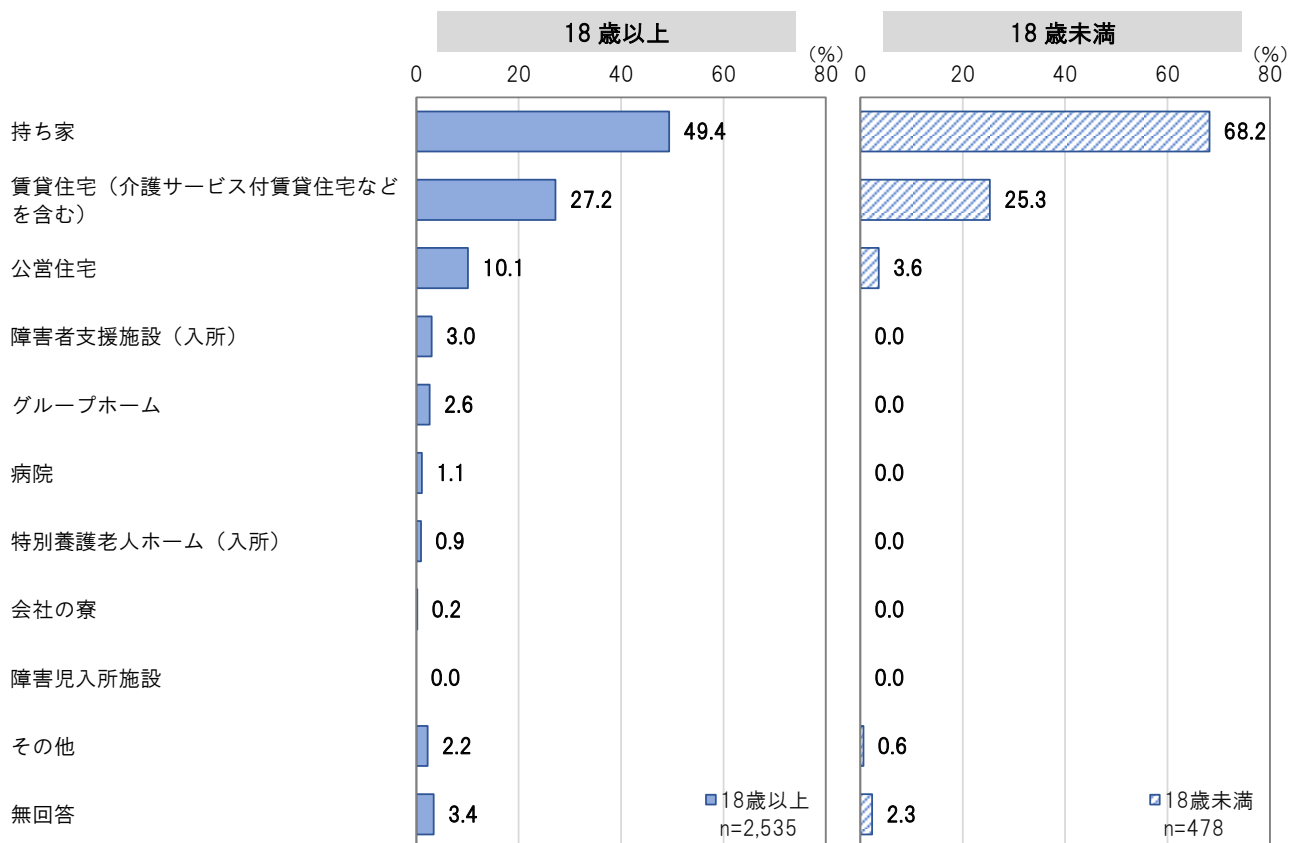
		回答者（人）	労働時間が長すぎないかどうか	技術がいかにせるかどうか	労働時間が短すぎないかどうか	職場がバリアフリー化されているかどうか	その他	特に不安はない	無回答
18歳未満	身体障害	49	16.3	4.1	2.0	22.4	6.1	2.0	14.3
	知的障害	334	18.3	8.7	8.7	3.6	5.1	3.6	4.5
	発達障害	343	19.0	9.3	8.2	2.9	4.7	4.1	4.1

※1番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

6. 生活環境、移動・交通について

(1) 普段の住まい・暮らしている場所

- ・普段の住まい・暮らしている場所については、18歳以上・18歳未満ともに「持ち家」が最も多く、次いで「賃貸住宅（介護サービス付賃貸住宅などを含む）」の順となっている。
- ・また、「グループホーム」や入所施設の利用は18歳以上では6.5%、18歳未満では0%となっている。



- ・障害種別にみると、18歳以上の知的障害では「障害者支援施設（入所）」や「グループホーム」の利用がその他の障害に比べてやや多くなっている。

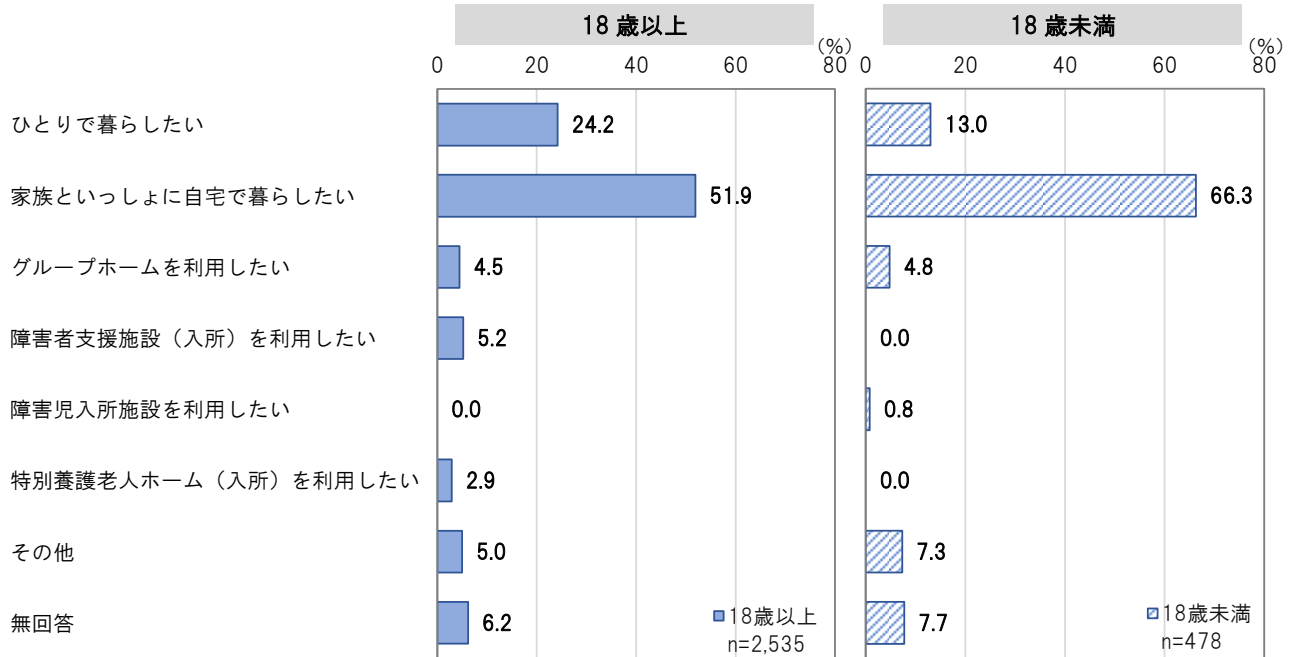
		回答者（人）	持ち家	賃貸住宅（介護サービス付賃貸住宅を含む）	公営住宅	障害者支援施設（入所）	グループホーム	病院
18歳以上	身体障害	1,410	55.3	24.6	10.2	2.4	0.9	1.0
	難病	239	54.0	29.7	10.9	0.4	-	0.8
	高次脳機能障害	90	54.4	25.6	2.2	3.3	1.1	4.4
	知的障害	567	45.5	19.0	9.9	10.2	7.8	0.4
	発達障害	415	46.7	28.2	9.4	4.3	5.1	0.2
	精神障害	708	37.3	38.7	11.3	1.1	2.5	1.6
18歳未満	身体障害	49	65.3	26.5	-	-	-	-
	知的障害	334	68.0	24.9	4.8	-	-	-
	発達障害	343	66.8	27.1	4.1	-	-	-

		回答者（人）	特別養護老人ホーム（入所）	会社の寮	障害児入所施設	その他	無回答
18歳以上	身体障害	1,342	0.9	0.2	-	1.8	2.6
	難病	280	0.8	-	-	1.3	2.1
	高次脳機能障害	65	3.3	1.1	-	3.3	1.1
	知的障害	587	-	0.2	-	3.0	4.1
	発達障害	338	0.5	-	-	2.4	3.1
	精神障害	690	1.1	0.1	-	2.8	3.4
18歳未満	身体障害	49	-	-	-	2.0	6.1
	知的障害	334	-	-	-	0.6	1.8
	発達障害	343	-	-	-	0.6	1.5

※1番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

(2) 今後の暮らしの希望

- 今後の暮らしの希望については、18歳以上・18歳未満ともに「家族といっしょに自宅で暮らしたい」が最も多く、次いで「ひとりで暮らしたい」の順となっている。
- また、「グループホーム」や入所施設の利用希望は18歳以上では12.6%、18歳未満では5.6%となっている。

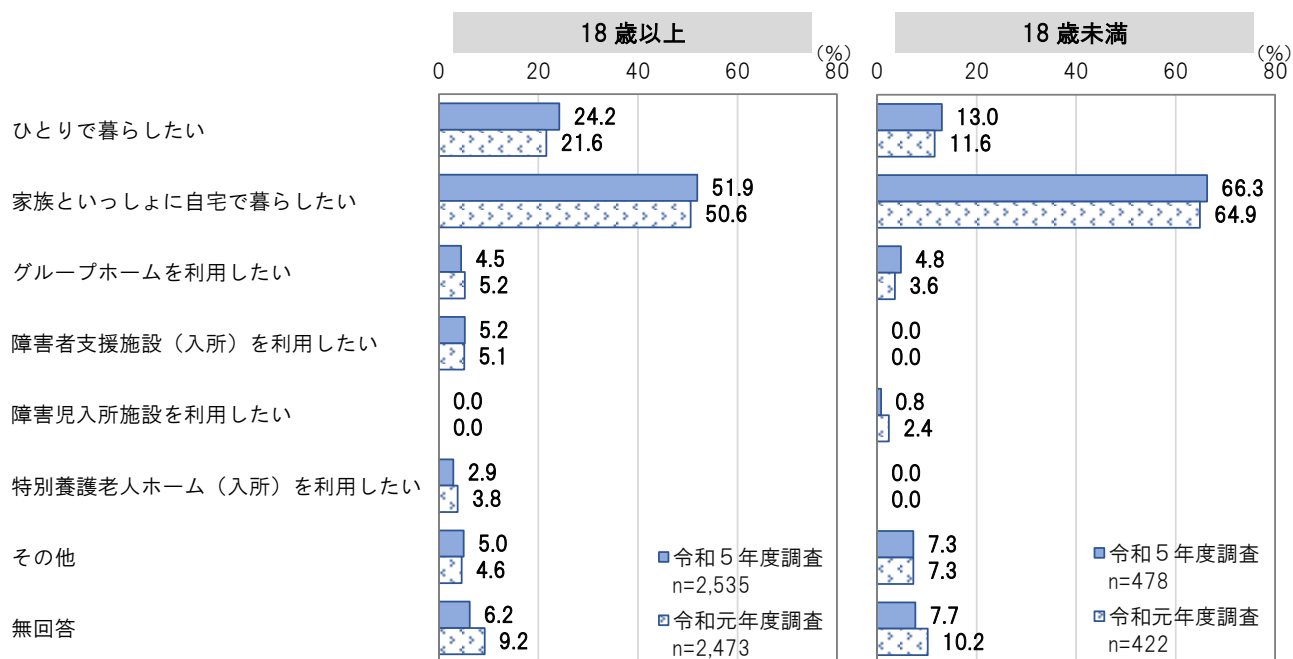


- 障害種別にみると、18歳以上の知的障害・発達障害では「グループホーム」や入所施設の利用希望がその他の障害に比べてやや多くなっている。

		回答者（人）	ひとりで暮らしたい	家族といっしょに自宅で暮らしたい	グループホームを利用したい	障害者支援施設（入所）を利用したい	障害児入所施設を利用したい	特別養護老人ホーム（入所）を利用したい	その他	無回答
18歳以上	身体障害	1,410	21.8	58.3	2.0	4.3	-	3.5	4.3	5.9
	難病	239	22.2	61.9	1.7	2.9	-	2.9	2.9	5.4
	高次脳機能障害	90	13.3	61.1	4.4	6.7	-	3.3	4.4	6.7
	知的障害	567	19.8	38.4	15.7	15.0	-	0.9	4.4	5.8
	発達障害	415	25.1	41.4	10.8	9.4	-	0.5	8.2	4.6
	精神障害	708	34.0	44.2	2.1	2.7	-	2.5	7.6	6.8
18歳未満	身体障害	49	4.1	77.6	8.2	-	-	-	4.1	6.1
	知的障害	334	12.9	66.2	6.9	-	1.2	-	6.6	6.3
	発達障害	343	14.3	65.9	5.2	-	0.9	-	7.3	6.4

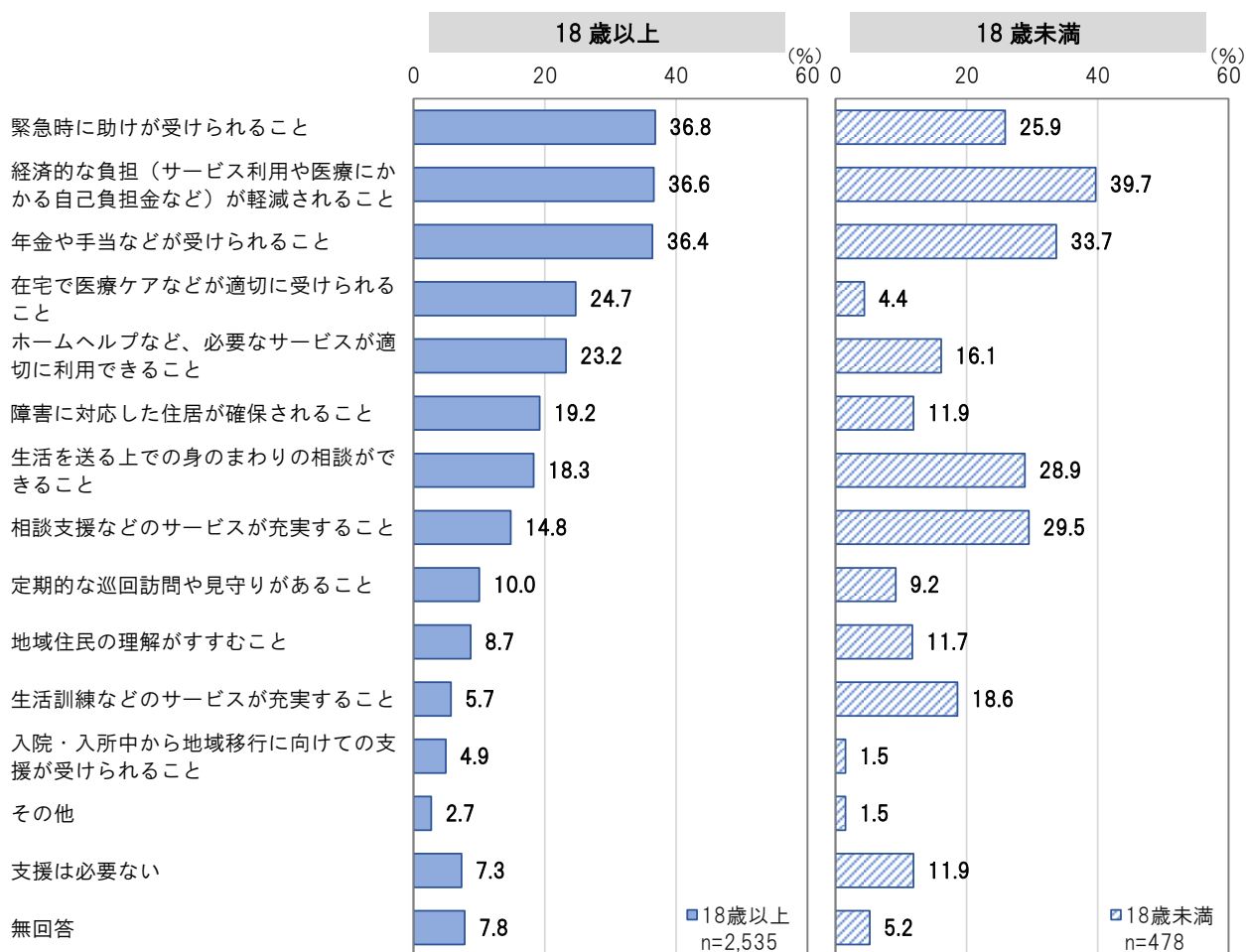
※1番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

- 令和元年度調査と比較すると、ほぼ同様の傾向となっているものの、18歳以上・18歳未満ともに、「ひとりで暮らしたい」や「家族といっしょに自宅で暮らしたい」がやや増加している。
- また、「グループホームを利用したい」が18歳以上ではやや減少し、18歳未満ではやや増加している。



(3) 在宅で生活するために必要な支援（複数回答：3つまで）

- 在宅で生活するために必要な支援については、18歳以上では「緊急時に助けが受けられること」が最も多く、次いで「経済的な負担（サービス利用や医療にかかる自己負担金など）が軽減されること」や「年金や手当などが受けられること」の回答が多くなっている。
- 18歳未満をみると、「経済的な負担（サービス利用や医療にかかる自己負担金など）が軽減されること」が最も多く、次いで「年金や手当などが受けられること」や「相談支援などのサービスが充実すること」の回答が多くなっている。
- また、18歳以上では「緊急時に助けが受けられること」や「在宅で医療ケアなどが適切に受けられること」、「障害に対応した住居が確保されること」などで18歳未満と比べて高い割合となっており、18歳未満では「生活を送る上での身のまわりの相談ができること」や「相談支援などのサービスが充実すること」、「生活訓練などのサービスが充実すること」などで18歳以上に比べて高い割合となっている。



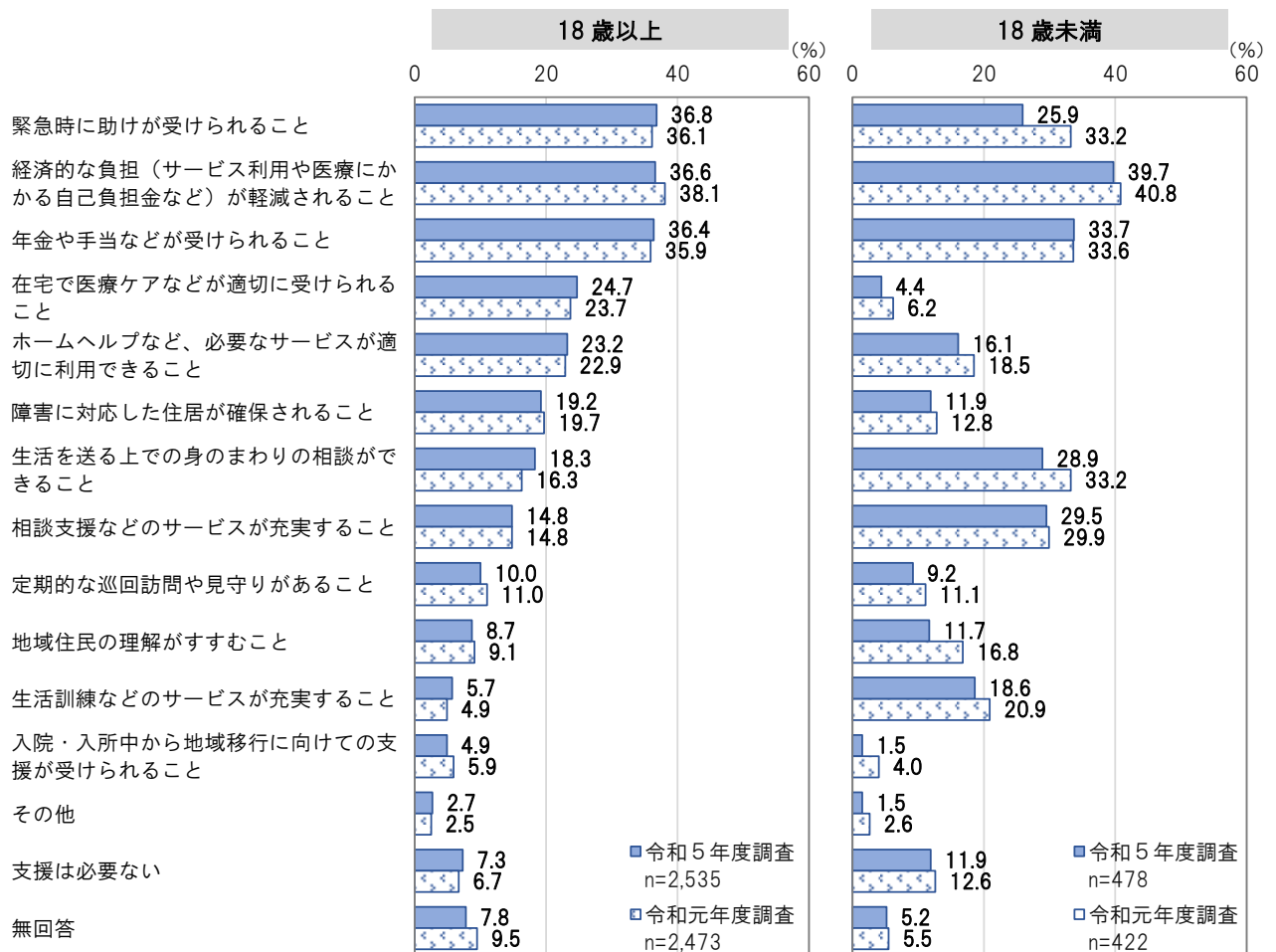
- ・障害種別にみると、18歳未満の知的障害・発達障害では「生活を送る上での身のまわりの相談ができること」や「相談支援などのサービスが充実すること」、「地域住民の理解がすすむこと」などがやや多くなっている。

		回答者（人）	緊急時に助けが受けられること	経済的な負担（サービス利用や医療にかかる自己負担金など）が軽減されること	年金や手当などが受けられること	在宅で医療ケアなどが適切に受けられること	ホームヘルプなど、必要なサービスが適切に利用できること	障害に対応した住居が確保されること	生活を送る上での身のまわりの相談ができること	相談支援などのサービスが充実すること
18歳以上	身体障害	1,410	37.0	37.0	33.0	30.7	24.2	20.5	13.8	12.0
	難病	239	41.0	39.7	35.6	33.5	22.6	24.3	18.8	11.7
	高次脳機能障害	90	38.9	38.9	37.8	37.8	26.7	18.9	20.0	15.6
	知的障害	567	39.7	27.5	32.8	16.4	29.8	21.9	26.6	19.8
	発達障害	415	43.6	39.3	46.0	14.5	25.5	23.9	31.1	23.6
	精神障害	708	36.2	42.2	47.5	21.5	18.9	17.8	23.9	17.5
18歳未満	身体障害	49	34.7	46.9	36.7	14.3	24.5	26.5	12.2	14.3
	知的障害	334	27.8	44.9	39.2	4.2	18.9	14.1	29.3	31.7
	発達障害	343	25.4	41.7	36.2	3.5	15.7	11.7	30.3	32.7

		回答者（人）	定期的な巡回訪問や見守りがあること	地域住民の理解がすすむこと	生活訓練などのサービスが充実すること	入院・入所中から地域移行に向けての支援が受けられること	その他	支援は必要ない	無回答
18歳以上	身体障害	1,410	9.7	6.2	4.8	4.6	1.8	7.9	6.9
	難病	239	8.8	6.7	4.6	4.2	4.2	3.3	5.9
	高次脳機能障害	90	7.8	7.8	13.3	11.1	3.3	5.6	4.4
	知的障害	567	11.8	15.0	8.3	4.8	4.6	5.8	10.6
	発達障害	415	11.1	15.4	9.6	5.5	3.9	3.9	5.1
	精神障害	708	10.3	9.0	5.8	6.1	4.2	5.4	7.1
18歳未満	身体障害	49	6.1	6.1	22.4	4.1	-	8.2	4.1
	知的障害	334	9.0	11.7	21.0	1.2	1.5	7.8	3.3
	発達障害	343	9.0	14.0	20.1	1.2	1.7	11.1	4.1

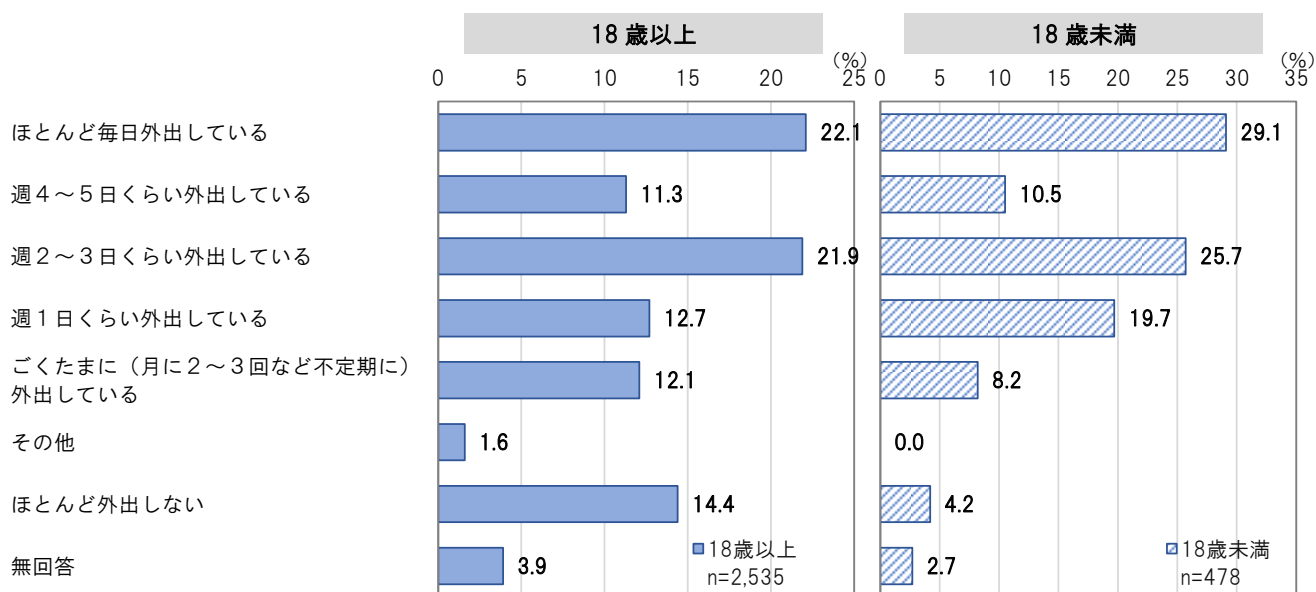
※1番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

・令和元年度調査と比較すると、18歳以上ではほぼ同様の結果となっている。18歳未満では「緊急時に助けが受けられること」や「生活を送る上での身のまわりの相談ができること」などがやや減少している。



(4) 外出の頻度

- ・通勤や通学、通院、事業所などへの通所以外の外出頻度については、18歳以上・18歳未満ともに「ほとんど毎日外出している」が最も多く、定期的に外出している人が多い結果となっている。
- ・一方で、「ごくたまに（月に2～3回など不定期に）外出している」と「ほとんど外出しない」を合わせると、外出頻度が少ない人が18歳以上では2割以上、18歳未満では1割以上となっている。

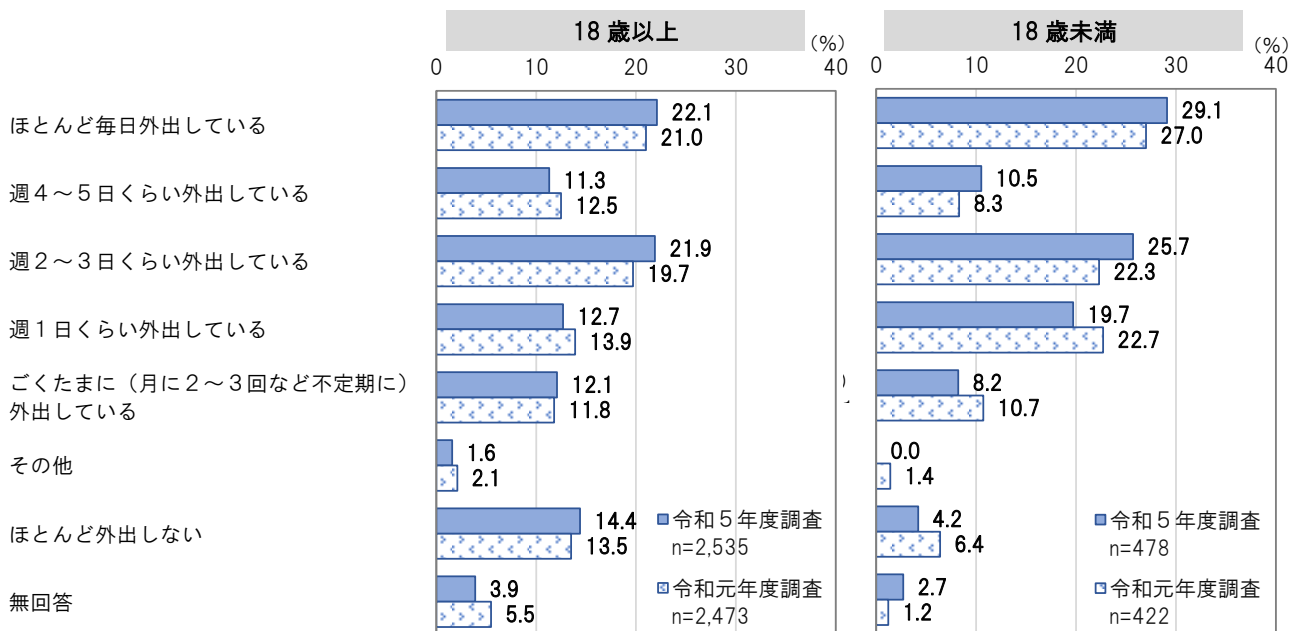


- ・障害種別にみると、18歳以上の高次脳機能障害では「ほとんど外出しない」が3割以上となっており、その他の障害に比べてやや多くなっている。

	回答者（人）	ほとんど毎日外出している	週4～5日くらい外出している	週2～3日くらい外出している	週1日くらい外出している	ごくたまに（月に2～3回など不定期に）外出している	その他	ほとんど外出しない	無回答
		割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)
18歳以上	身体障害	23.3	12.8	22.6	12.6	10.1	1.3	13.8	3.5
	難病	19.7	10.9	23.0	13.8	11.3	2.5	16.7	2.1
	高次脳機能障害	12.2	12.2	20.0	7.8	12.2	3.3	31.1	1.1
	知的障害	18.0	7.8	18.9	15.9	17.3	2.1	14.5	5.6
	発達障害	23.1	7.2	19.8	16.6	15.9	1.4	13.3	2.7
	精神障害	20.8	10.0	22.5	11.3	14.1	2.0	15.5	3.8
18歳未満	身体障害	28.6	8.2	20.4	28.6	12.2	-	2.0	-
	知的障害	30.2	8.7	24.6	19.8	9.0	-	5.1	2.7
	発達障害	30.3	10.8	25.9	17.2	9.0	-	4.4	2.3

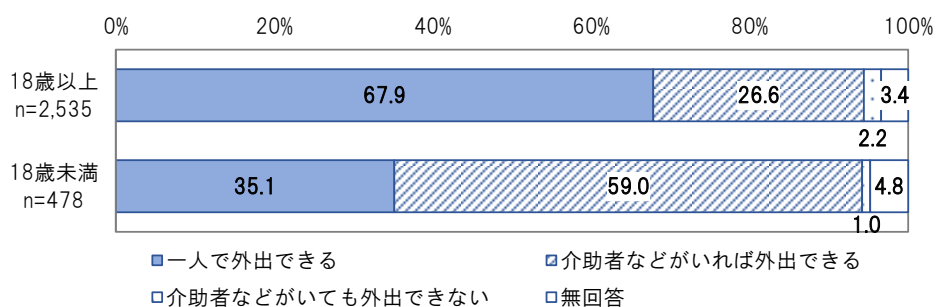
※1番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

- 令和元年度調査と比較すると、18歳以上・18歳未満ともに「ほとんど毎日外出している」がやや増加しており、特に18歳未満では「ほとんど外出しない」がやや減少し、外出頻度の増加がみられる。



(5) 一人での外出

- 一人での外出の可否については、18歳以上では「一人で外出できる」が7割近く（67.9%）を占めて最も多く、「介助者などがいれば外出できる」が2割以上（26.6%）となっている。
- 18歳未満では、「介助者などがいれば外出できる」が約6割（59.0%）を占めて最も多く、「一人で外出できる」が3割以上（35.1%）となっている。



- 障害種別に見ると、18歳未満では、いずれの障害においても「介助者などがいれば外出できる」が多くを占めているのに対し、18歳以上では、高次脳機能障害で「介助者などがいれば外出できる」が「一人で外出できる」を上回っている。

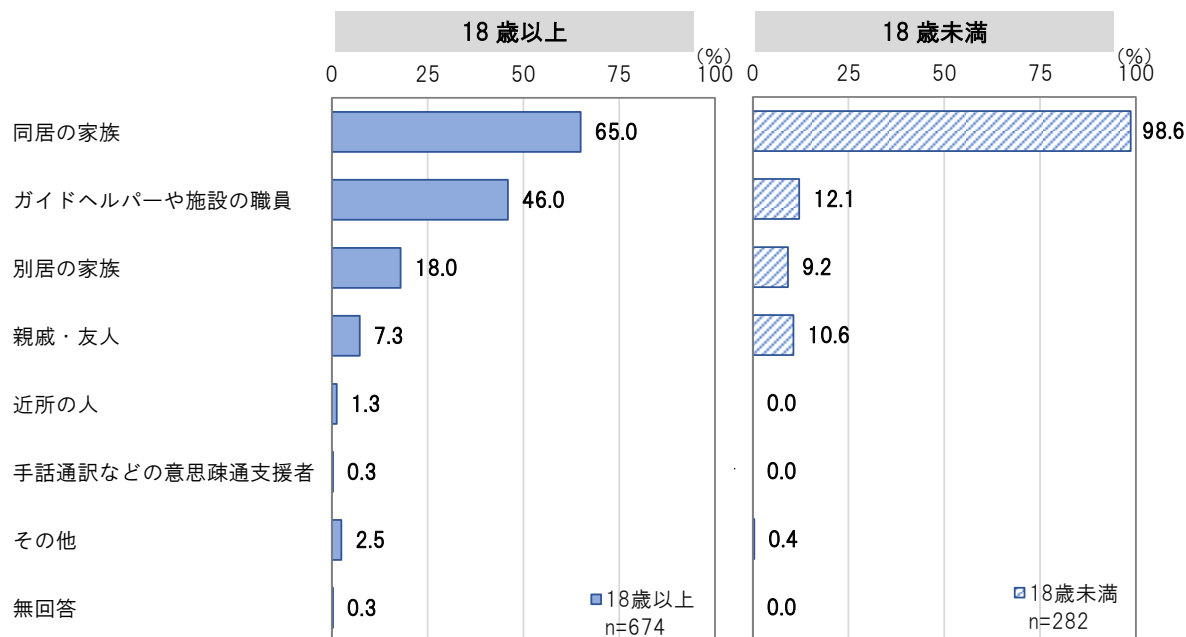
		回答者 (人)	一人で外出できる	介助者などがいれば外出できる	介助者などがいても外出できない	無回答
18歳以上	身体障害	1,410	70.6	24.4	2.6	2.4
	難病	239	65.7	28.9	2.5	2.9
	高次脳機能障害	90	43.3	46.7	7.8	2.2
	知的障害	567	48.3	46.4	1.4	3.9
	発達障害	415	60.2	35.7	1.0	3.1
	精神障害	708	72.7	21.8	1.6	4.0
18歳未満	身体障害	49	22.4	75.5	-	2.0
	知的障害	334	32.3	63.2	1.2	3.3
	発達障害	343	37.6	57.4	1.5	3.5

※1番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

(6) 外出する際の主な同伴者や必要な支援者（複数回答：3つまで）

※（5）で「介助者などがいれば外出できる」と回答した方のみ

- ・外出する際の主な同伴者や必要な支援者については、18歳以上・18歳未満ともに「同居の家族」が最も多く、特に18歳未満ではほぼ全員となっている。
- ・次いで、18歳以上・18歳未満ともに「ガイドヘルパーや施設の職員」、「別居の家族」、「親戚・友人」などの回答が多くなっている。



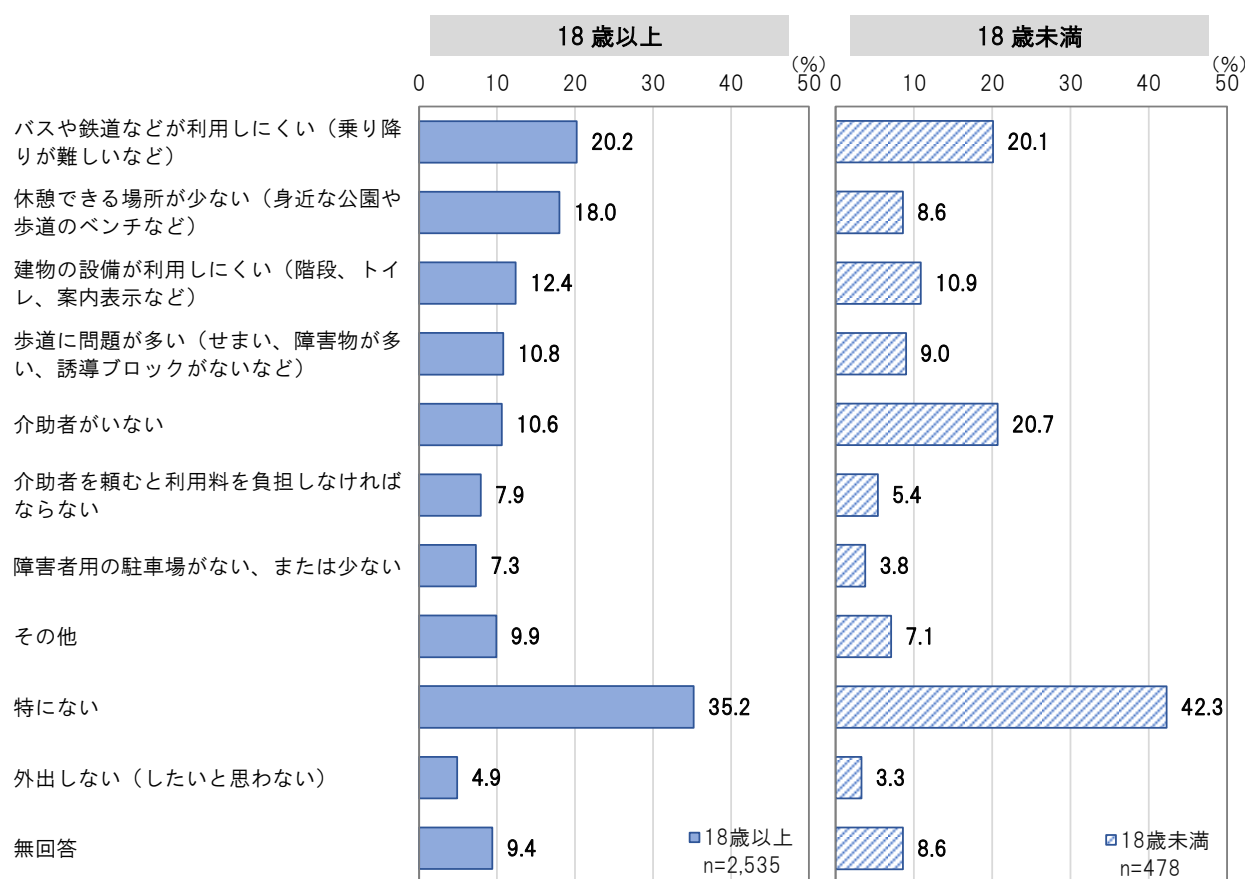
- ・障害種別に見ると、18歳以上の知的障害では「ガイドヘルパーや施設の職員」が最も多くなっている。

		回答者（人）	同居の家族	設の職員 ガイドヘルパーや施	別居の家族	親戚・友人	近所の人	疎通支援者 手話通訳などの意思	その他	無回答
18歳以上	身体障害	344	63.7	39.8	20.3	7.6	1.2	0.3	3.8	0.3
	難病	69	72.5	27.5	27.5	11.6	1.4	-	4.3	-
	高次脳機能障害	42	64.3	38.1	23.8	4.8	-	-	-	-
	知的障害	263	65.4	72.6	11.8	6.8	0.4	-	0.8	0.8
	発達障害	148	70.9	65.5	12.2	10.1	1.4	-	0.7	0.7
	精神障害	154	59.7	34.4	20.1	9.7	3.2	0.6	2.6	0.6
18歳未満	身体障害	37	97.3	5.4	8.1	5.4	-	-	-	-
	知的障害	211	98.1	12.8	10.4	10.4	-	-	0.5	-
	発達障害	197	98.0	12.7	10.7	11.2	-	-	0.5	-

※1番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

(7) 外出のときに困ることや、外出をとりやめるときの内容（複数回答）

- 外出のときに困ることや、外出をとりやめるときの内容については、18歳以上・18歳未満ともに「特にない」が最も多くなっている。
- 具体的に困ることでは、18歳以上では「バスや鉄道などが利用しにくい（乗り降りが難しいなど）」が約2割（20.2%）と多く、次いで「休憩できる場所が少ない（身近な公園や歩道のベンチなど）」（18.0%）、「建物の設備が利用しにくい（階段、トイレ、案内表示など）」（12.4%）の順となっている。
- 18歳未満では「介助者がいない」（20.7%）および「バスや鉄道などが利用しにくい（乗り降りが難しいなど）」（20.1%）がともに約2割と多く、次いで「建物の設備が利用しにくい（階段、トイレ、案内表示など）」（10.9%）の順となっている。



- ・障害種別にみると、ほとんどの障害で「特にない」が最も多くなっているものの、18歳以上の難病・高次脳機能障害、18歳未満の身体障害では「バスや鉄道などが利用しにくい（乗り降りが難しいなど）」が最も多く、その他「建物の設備が利用しにくい（階段、トイレ、案内表示など）」や「歩道に問題が多い（せまい、障害物が多い、誘導ブロックがないなど）」などの回答が多くなっている。

		回答者（人）	バスや鉄道などが利用しにくい（乗り降りが難しいなど）	休憩できる場所が少ない（身近な公園や歩道のベンチなど）	建物の設備が利用しにくい（階段、トイレ、案内表示など）	歩道に問題が多い（せまい、障害物が多い、誘導ブロックがないなど）	介助者がいない	介助者を頼むと利用料を負担しなければならない
18歳以上	身体障害	1,410	22.4	19.2	16.6	14.5	9.2	7.7
	難病	239	33.1	28.0	23.8	18.0	11.3	10.0
	高次脳機能障害	90	35.6	21.1	18.9	22.2	15.6	13.3
	知的障害	567	16.9	13.8	9.7	6.3	19.6	10.6
	発達障害	415	19.8	17.3	10.4	6.5	15.7	10.1
	精神障害	708	21.0	19.8	8.5	8.3	7.8	7.6
18歳未満	身体障害	49	38.8	20.4	36.7	30.6	24.5	8.2
	知的障害	334	23.4	9.0	11.4	9.3	25.1	6.6
	発達障害	343	21.3	7.9	7.6	7.0	23.3	6.7

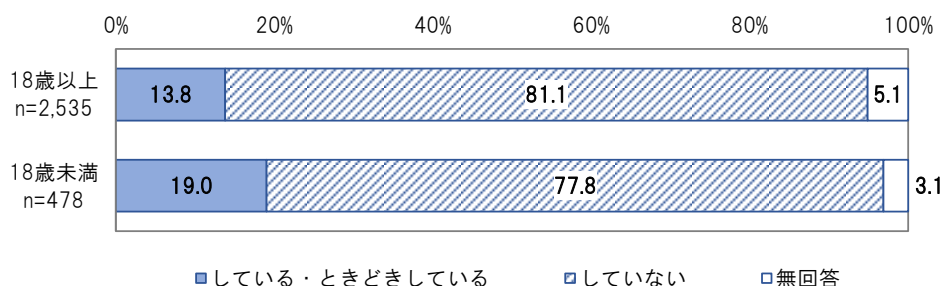
		回答者（人）	障害者用の駐車場がない、または少ない	その他	特にない	外出しない（したいと思わない）	無回答
18歳以上	身体障害	1,410	10.8	7.6	35.0	3.3	8.5
	難病	239	12.6	9.2	21.3	3.3	9.2
	高次脳機能障害	90	12.2	7.8	21.1	5.6	7.8
	知的障害	567	5.1	10.6	35.3	3.5	9.7
	発達障害	415	3.9	13.7	34.9	5.3	5.8
	精神障害	708	3.1	14.8	32.9	8.6	10.6
18歳未満	身体障害	49	22.4	-	22.4	2.0	4.1
	知的障害	334	4.2	6.9	37.4	3.3	7.5
	発達障害	343	3.2	7.0	42.9	3.2	7.6

※1番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

7. 生涯学習活動（スポーツ・文化、社会参加活動）について

（1）生涯学習活動の実施状況

- 生涯学習活動の実施状況については、18歳以上・18歳未満ともに「していない」が8割程度を占めて多くなっている。一方で、「している・ときどきしている」が18歳以上では1割程度（13.8%）、18歳未満では約2割（19.0%）となっている。

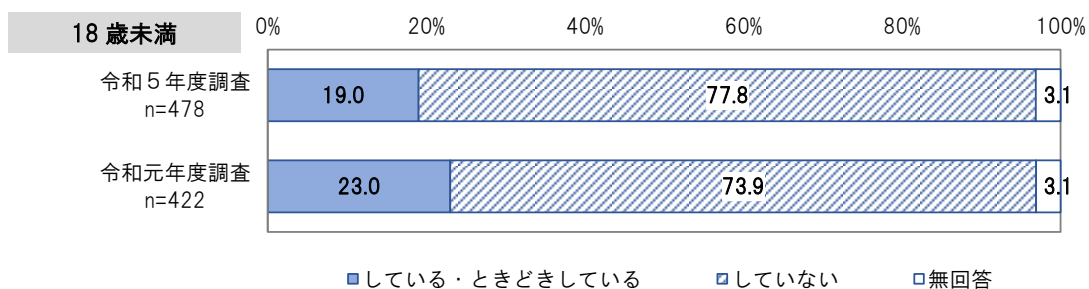
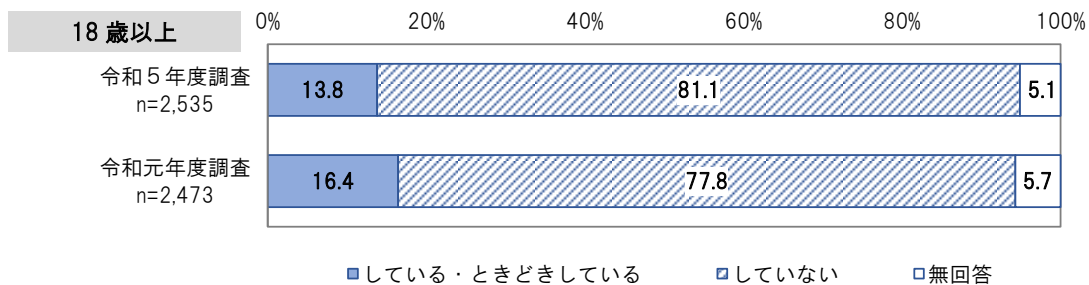


- 障害種別にみると、いずれの障害においても「していない」が大半を占めている。
- また、「している・ときどきしている」と回答した人をみると、18歳以上では発達障害、18歳未満では身体障害でやや高い割合となっている。

		回答者 (人)	している ・ ときどき	していない	無回答
18歳 以上	身体障害	1,410	14.2	80.8	5.0
	難病	239	14.2	80.3	5.4
	高次脳機能障害	90	11.1	83.3	5.6
	知的障害	567	13.9	80.1	6.0
	発達障害	415	19.8	76.6	3.6
	精神障害	708	14.1	82.2	3.7
18歳 未満	身体障害	49	20.4	77.6	2.0
	知的障害	334	18.6	79.0	2.4
	発達障害	343	18.4	78.7	2.9

※1番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」としている。

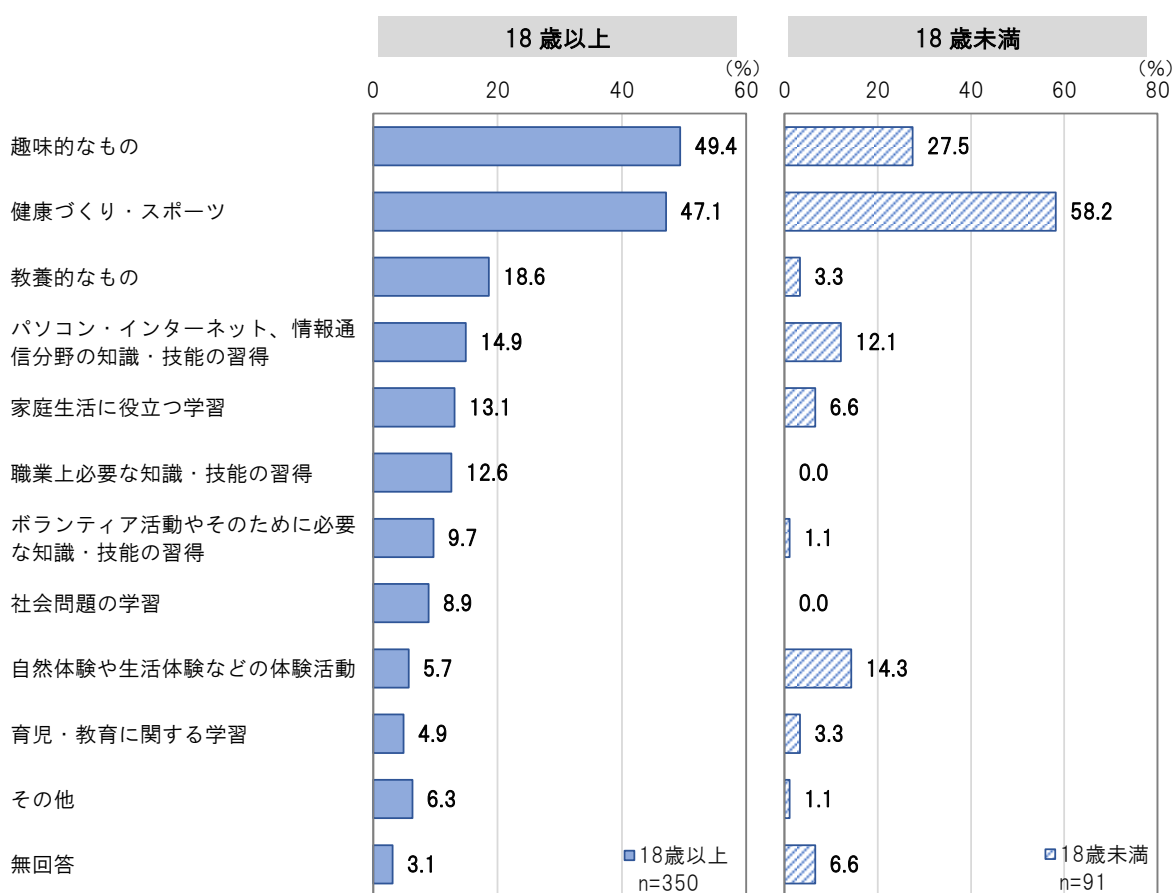
・令和元年度調査と比較すると、18歳未満・18歳以上ともに「している・ときどきしている」がやや減少し、「していない」がやや増加している。



(2) 実施している生涯学習活動の内容（複数回答）

※（1）で「している・ときどきしている」と回答した方のみ

- ・実施している生涯学習活動の内容については、18歳以上では「趣味的なもの」が約半数(49.4%)を占めて最も多く、次いで「健康づくり・スポーツ」(47.1%)、「教養的なもの」(18.6%)、「パソコン・インターネット、情報通信分野の知識・技能の習得」(14.9%)、「家庭生活に役立つ学習」(13.1%)の順となっている。
- ・18歳未満をみると、「健康づくり・スポーツ」が6割近く(58.2%)を占めて最も多く、次いで「趣味的なもの」(27.5%)、「自然体験や生活体験などの体験活動」(14.3%)、「パソコン・インターネット、情報通信分野の知識・技能の習得」(12.1%)の順となっている。



- ・障害種別にみると、18歳以上の身体障害・知的障害、18歳未満の知的障害・発達障害では「健康づくり・スポーツ」が最も多く、その他の障害では「趣味的なもの」が最も多くなっている。

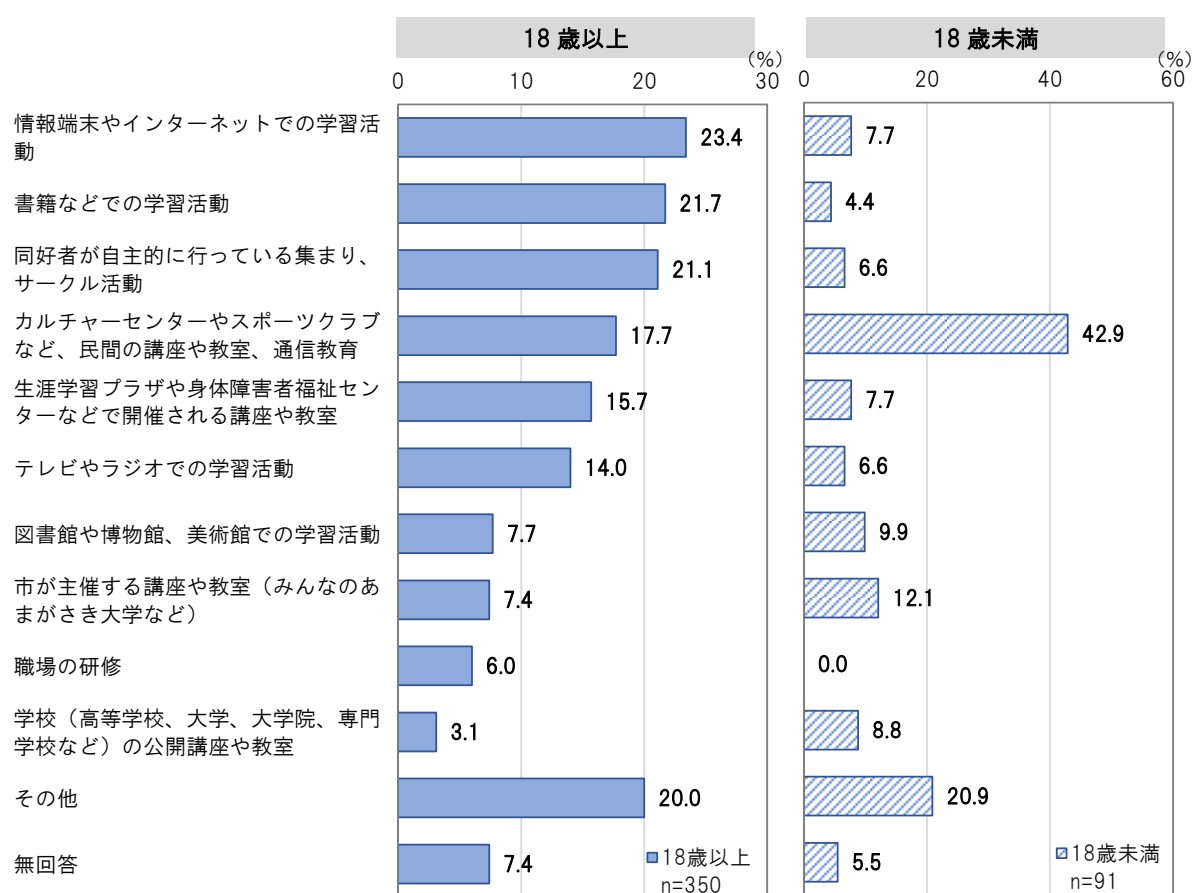
		回答者(人)	趣味的なもの	健康づくり・スポーツ	教養的なもの	パソコン・インターネット、情報通信分野の知識・技能の習得	家庭生活に役立つ学習	職業上必要な知識・技能の習得
18歳以上	身体障害	200	49.5	50.5	17.5	16.5	11.5	16.0
	難病	34	52.9	41.2	35.3	26.5	14.7	32.4
	高次脳機能障害	10	60.0	50.0	20.0	30.0	10.0	20.0
	知的障害	79	51.9	54.4	10.1	6.3	11.4	2.5
	発達障害	82	50.0	45.1	20.7	18.3	17.1	12.2
	精神障害	100	53.0	26.0	28.0	21.0	23.0	15.0
18歳未満	身体障害	10	60.0	30.0	10.0	10.0	-	-
	知的障害	62	32.3	61.3	3.2	9.7	8.1	-
	発達障害	63	27.0	61.9	3.2	12.7	9.5	-

		回答者(人)	ボランティア活動やそのために必要な知識・技能の習得	社会問題の学習	自然体験や生活体験などの体験活動	育児・教育に関する学習	その他	無回答
18歳以上	身体障害	200	11.0	9.5	5.5	4.5	6.0	1.5
	難病	34	11.8	11.8	5.9	11.8	-	-
	高次脳機能障害	10	10.0	-	-	-	10.0	10.0
	知的障害	79	2.5	5.1	13.9	6.3	10.1	1.3
	発達障害	82	8.5	9.8	13.4	8.5	6.1	2.4
	精神障害	100	11.0	12.0	4.0	6.0	5.0	4.0
18歳未満	身体障害	10	10.0	-	10.0	10.0	-	-
	知的障害	62	-	-	12.9	1.6	1.6	6.5
	発達障害	63	-	-	17.5	-	1.6	6.3

※1番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

(3) 生涯学習の活動場所（複数回答） ※(1)で「している・ときどきしている」と回答した方のみ

- 生涯学習の活動場所については、18歳以上では「情報端末やインターネットでの学習活動」が2割以上（23.4%）と最も多く、次いで「書籍などでの学習活動」（21.7%）、「同好者が自主的に行っている集まり、サークル活動」（21.1%）、「カルチャーセンターやスポーツクラブなど、民間の講座や教室、通信教育」（17.7%）の順となっている。
- 18歳未満をみると、「カルチャーセンターやスポーツクラブなど、民間の講座や教室、通信教育」が4割以上（42.9%）と最も多く、次いで「市が主催する講座や教室（みんなのあまがさき大学など）」（12.1%）、「図書館や博物館、美術館での学習活動」（9.9%）、「学校（高等学校、大学、大学院、専門学校など）の公開講座や教室」（8.8%）の順となっている。



- ・障害種別にみると、18歳以上の知的障害では「カルチャーセンターやスポーツクラブなど、民間の講座や教室、通信教育」、18歳以上の難病・高次脳機能障害・発達障害・精神障害では「書籍などでの学習活動」や「情報端末やインターネットでの学習活動」が、その他の障害に比べて多くなっている。

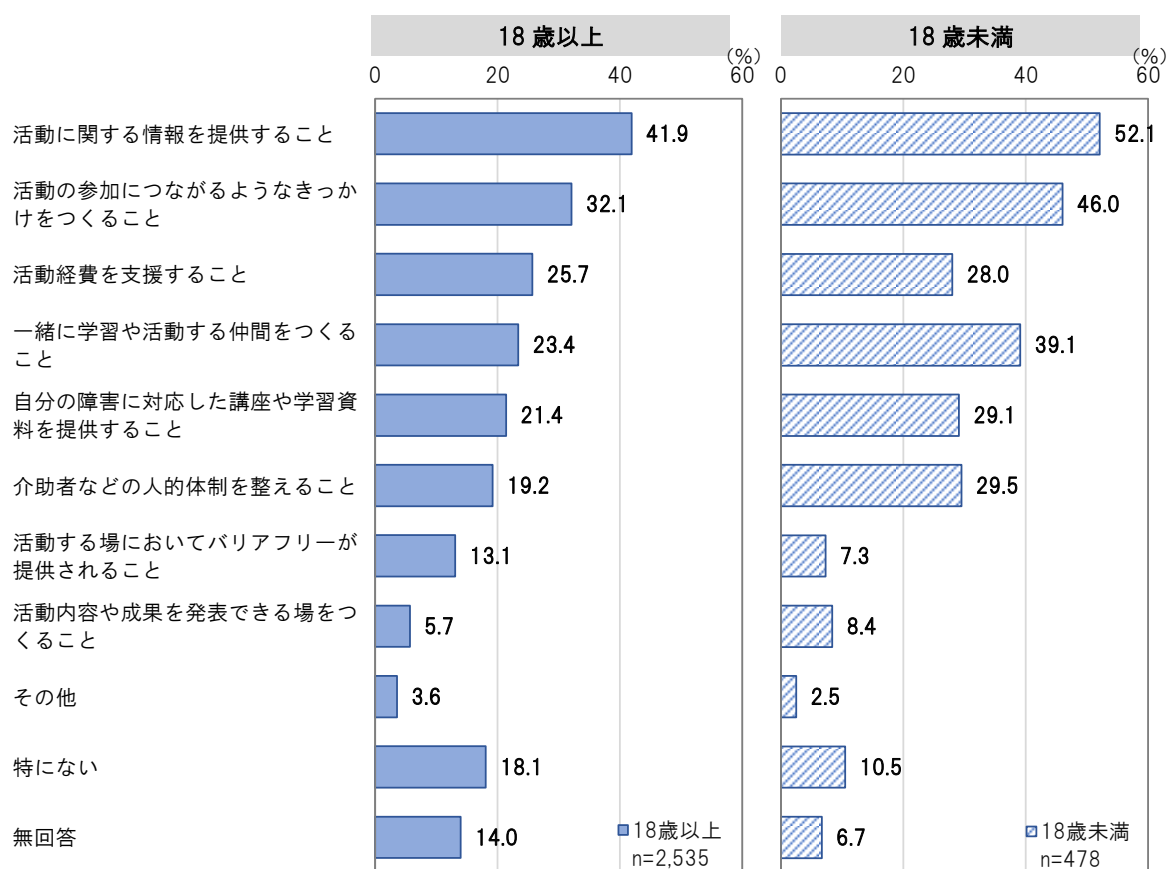
		回答者（人）	情報端末やインターネットでの学習活動	書籍などでの学習活動	同好者が自主的に集まり、サークル活動	カルチャーセンターやスポーツクラブなど、民間の講座や教室、通信教育	生涯学習プラザや身体障害者福祉センターなどで開催される講座や教室	テレビやラジオでの学習活動
18歳以上	身体障害	200	21.0	21.0	24.5	18.5	21.5	12.0
	難病	34	41.2	41.2	17.6	20.6	20.6	26.5
	高次脳機能障害	10	40.0	40.0	20.0	-	30.0	20.0
	知的障害	79	8.9	8.9	16.5	21.5	12.7	11.4
	発達障害	82	28.0	20.7	19.5	19.5	12.2	17.1
	精神障害	100	39.0	36.0	17.0	11.0	8.0	25.0
18歳未満	身体障害	10	10.0	10.0	10.0	40.0	10.0	20.0
	知的障害	62	6.5	3.2	6.5	46.8	6.5	3.2
	発達障害	63	6.3	3.2	7.9	46.0	7.9	3.2

		回答者（人）	図書館や博物館、美術館での学習活動	市が主催する講座や教室（みんなのあまがさき大学など）	職場の研修	学校（高等学校、大学、大学院、専門学校など）の公開講座や教室	その他	無回答
18歳以上	身体障害	200	7.0	10.5	8.0	2.5	13.5	8.0
	難病	34	17.6	14.7	8.8	2.9	8.8	-
	高次脳機能障害	10	-	-	10.0	-	20.0	-
	知的障害	79	5.1	5.1	2.5	2.5	30.4	10.1
	発達障害	82	8.5	3.7	2.4	4.9	25.6	6.1
	精神障害	100	13.0	5.0	6.0	4.0	24.0	6.0
18歳未満	身体障害	10	-	10.0	-	10.0	30.0	-
	知的障害	62	11.3	11.3	-	9.7	22.6	6.5
	発達障害	63	12.7	11.1	-	9.5	20.6	6.3

※1番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

(4) 生涯学習活動を推進するために必要な支援（複数回答）

- 生涯学習の活動場所については、18歳以上・18歳未満ともに「活動に関する情報を提供すること」が最も多くなっている。
- 次いで、18歳以上では「活動の参加につながるようなきっかけをつくること」（32.1%）、「活動経費を支援すること」（25.7%）となっている。
- 18歳未満では「活動の参加につながるようなきっかけをつくること」（46.0%）、「一緒に学習や活動する仲間をつくること」（39.1%）、「介助者などの人的体制を整えること」（29.5%）、「自分の障害に対応した講座や学習資料を提供すること」（29.1%）となっている。また、ほとんどの項目で18歳以上に比べて高い割合となっており、18歳未満の生涯学習活動推進への関心の高さが伺える結果となっている。



- ・障害種別にみると、いずれの障害においても「活動に関する情報を提供すること」が最も多くなっている。
- ・また、18歳未満の知的障害・発達障害では「自分の障害に対応した講座や学習資料を提供すること」がやや多くなっている。

		回答者（人）	活動に関する情報を提供すること	活動の参加につながるようなきっかけをつくること	活動経費を支援すること	一緒に学習や活動する仲間をつくること	自分の障害に対応した講座や学習資料を提供すること	介助者などの人的体制を整えること
18歳以上	身体障害	1,410	41.6	29.6	24.6	22.3	20.6	18.1
	難病	239	41.0	33.1	31.4	23.8	25.5	20.9
	高次脳機能障害	90	42.2	38.9	28.9	24.4	30.0	41.1
	知的障害	567	35.8	32.8	20.6	26.3	18.5	28.9
	発達障害	415	45.8	40.7	29.6	33.0	28.4	27.7
	精神障害	708	46.2	37.0	31.6	24.4	27.4	16.8
18歳未満	身体障害	49	59.2	44.9	36.7	44.9	24.5	40.8
	知的障害	334	55.4	47.9	30.5	39.5	32.9	32.9
	発達障害	343	52.5	47.8	28.6	38.8	31.5	29.2

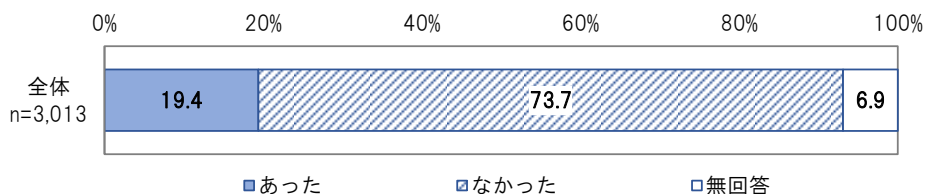
		回答者（人）	活動する場においてバリアフリーが提供されること	活動内容や成果を発表できる場をつくること	その他	特になし	無回答
18歳以上	身体障害	1,410	16.7	4.6	2.8	18.4	14.0
	難病	239	18.0	4.6	4.2	13.4	11.3
	高次脳機能障害	90	14.4	4.4	2.2	12.2	7.8
	知的障害	567	8.5	6.7	3.4	17.3	17.8
	発達障害	415	10.1	9.4	5.8	14.5	10.4
	精神障害	708	10.2	7.9	6.4	16.5	12.1
18歳未満	身体障害	49	24.5	6.1	-	8.2	6.1
	知的障害	334	7.2	9.0	3.3	8.4	6.0
	発達障害	343	6.1	8.5	3.2	9.0	6.7

※1番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

8. 安全・安心について

(1) 近年の地震や台風などの災害時に困ったことの有無

- 近年の地震や台風などの災害時に困ったことについては、「なかった」が7割以上（73.7%）を占めているものの、「あった」が約2割（19.4%）となっている。

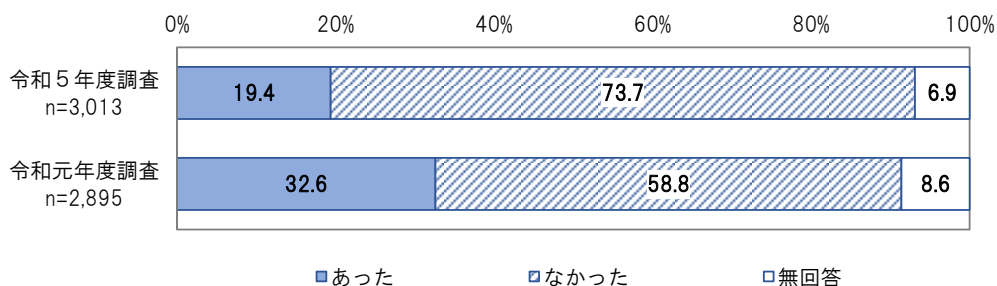


- 障害種別に見ると、いずれの障害においても「なかった」が6割以上を占めている。
- また、「あった」と回答した人をみると、難病・精神障害で、その他の障害に比べてやや高い割合となっている。

		回答者 (人)	あ っ た	な か っ た	無 回 答
全体	身体障害	1,459	19.1	74.0	6.9
	難病	239	27.2	66.9	5.9
	高次脳機能障害	90	15.6	80.0	4.4
	知的障害	901	17.2	75.6	7.2
	発達障害	758	19.3	76.1	4.6
	精神障害	708	26.0	68.1	5.9

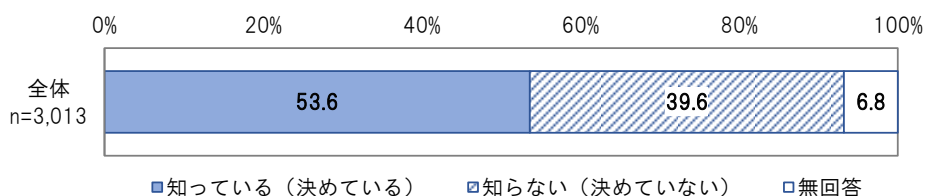
※1番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」としている。

- 令和元年度調査と比較すると、「なかった」が大きく増加しており、「あった」が大きく減少している。



(2) 地震や台風などの災害時に避難する場所の認知度

- 近年の地震や台風などの災害時に避難する場所の認知度については、「知っている(決めている)」が半数以上(53.6%)を占めているものの、「知らない(決めていない)」が約4割(39.6%)となっている。

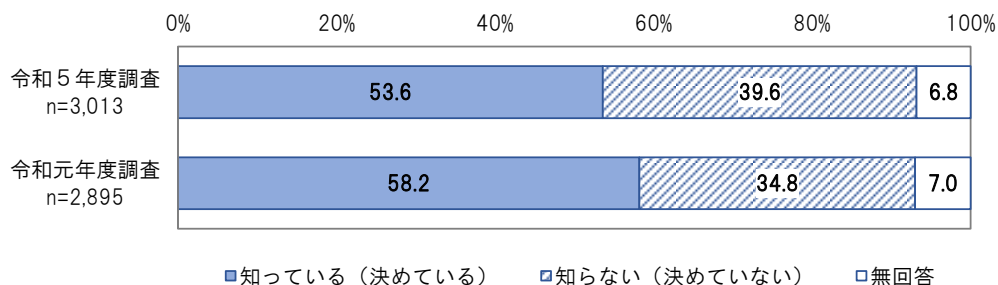


- 障害種別にみると、高次脳機能障害では「知っている(決めている)」と「知らない(決めていない)」が同数となっているものの、その他の障害においては、「知っている(決めている)」が「知らない(決めていない)」を上回っている。
- また、精神障害では「知らない(決めていない)」が、高次脳機能障害に次いで高い割合となっている。
- 調査回答者別にみると、「知っている(決めている)」は介助者回答に比べて本人回答で高くなっている。

		回答者(人)	知っている(決めている)	知らない(決めていない)	無回答
全体	身体障害	1,459	56.1	37.4	6.6
	難病	239	54.4	40.2	5.4
	高次脳機能障害	90	45.6	45.6	8.9
	知的障害	901	50.4	41.7	7.9
	発達障害	758	53.8	41.8	4.4
	精神障害	708	49.0	44.9	6.1
調査回答者	本人回答	1,190	58.3	37.4	4.3
	介助者回答	845	51.4	41.2	7.5

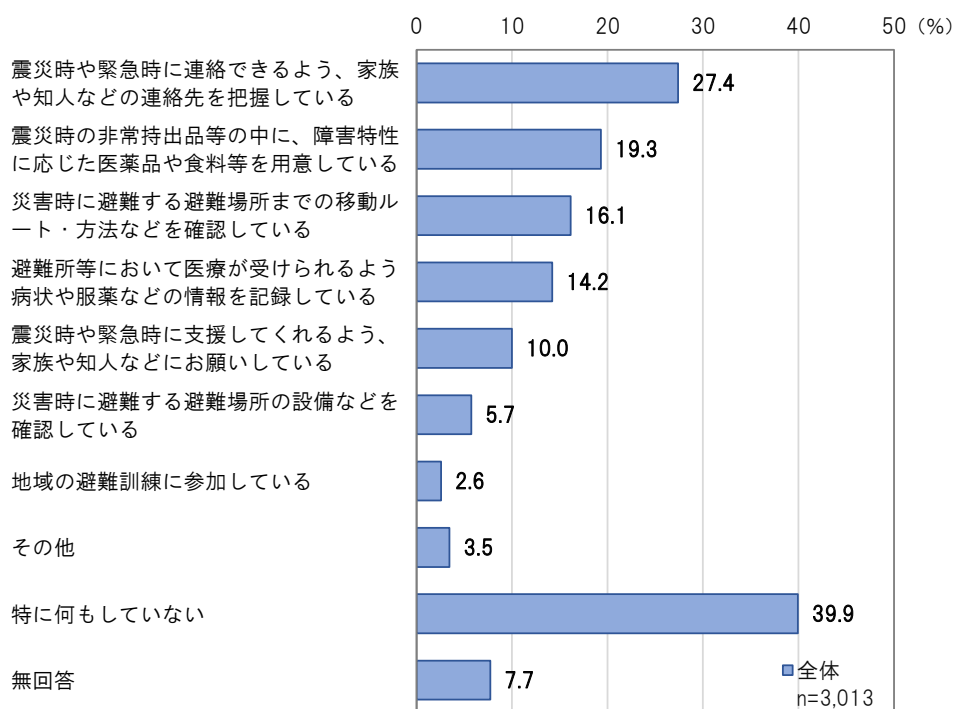
※1 番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」としている。

- 令和元年度調査と比較すると、「知っている（決めている）」が減少しており、「知らない（決めていない）」が増加している。

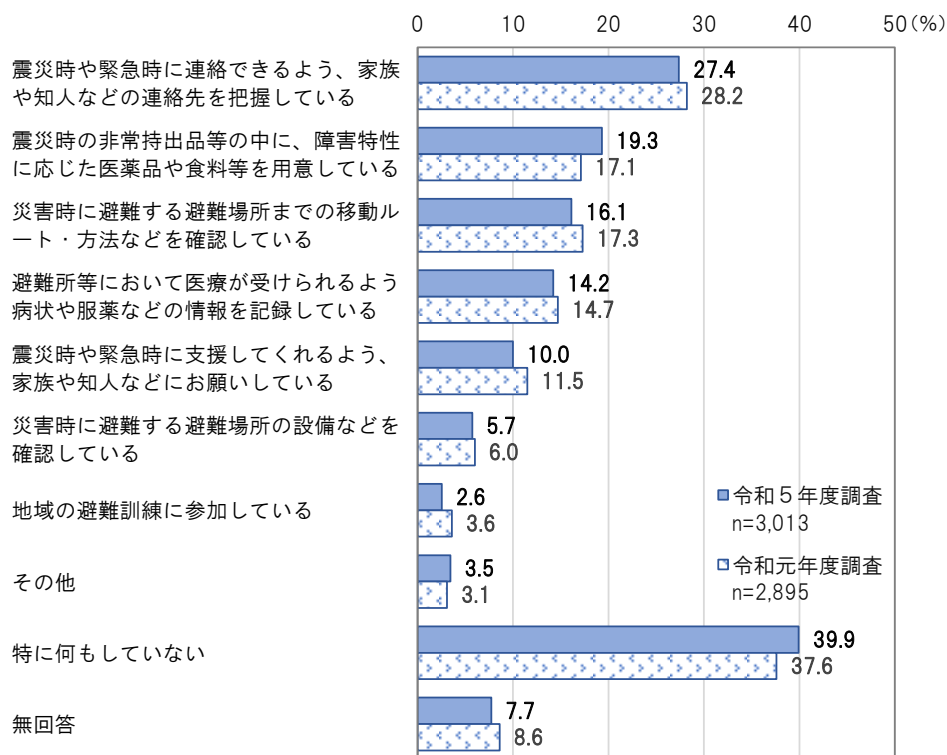


（3）地震や台風などの災害時に備えて日頃から心がけている・準備していること（複数回答）

- 地震や台風などの災害時に備えて日頃から心がけている・準備していることについては、「特に何もしていない」が約4割（39.9%）と最も多くなっている。
- 具体的な準備等については、「震災時や緊急時に連絡できるよう、家族や知人などの連絡先を把握している」が3割近く（27.4%）と多く、次いで「震災時の非常持出品等の中に、障害特性に応じた医薬品や食料等を用意している」（19.3%）、「災害時に避難する避難場所までの移動ルート・方法などを確認している」（16.1%）、「避難所等において医療が受けられるよう病状や服薬などの情報を記録している」（14.2%）の順となっている。



- 令和元年度調査と比較すると、大きな差異はみられないものの、「特に何もしていない」がやや増加している。
- 具体的な対策では、「震災時の非常持出品等の中に、障害特性に応じた医薬品や食料等を用意している」がやや増加しているものの、その他の項目ではやや減少している。



- ・障害種別にみると、すべての障害で「特に何もしていない」が最も多くなっている。
- ・また、身体障害・難病では「震災時の非常持出品等の中に、障害特性に応じた医薬品や食料等を用意している」、難病では「避難所等において医療が受けられるよう病状や服薬などの情報を記録している」がやや多くなっている。

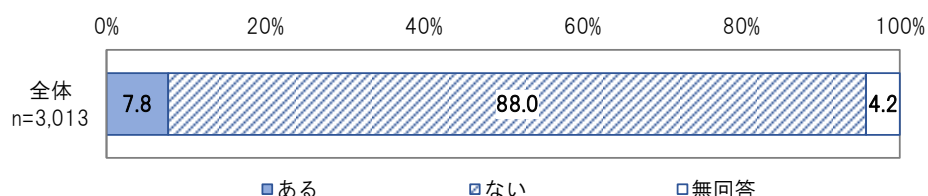
		回答者（人）	震災時や緊急時に連絡できるよう、家族や知人などの連絡先を把握している	震災時の非常持出品等の中に、障害特性に応じた医薬品や食料等を用意している	震災時の非常持出品等の中に、障害特性に応じた医薬品や食料等を用意している	災害時に避難する避難場所までの移動ルート・方法などを確認している	避難所等において医療が受けられるよう病状や服薬などの情報を記録している	震災時や緊急時に支援してくれるよう、家族や知人などをお願いしている
全体	身体障害	1,459	30.6	22.8	15.3	17.3	10.1	
	難病	239	31.8	26.8	14.2	24.7	13.8	
	高次脳機能障害	90	27.8	13.3	14.4	16.7	15.6	
	知的障害	901	22.1	16.8	17.4	8.5	11.9	
	発達障害	758	24.5	17.8	18.7	9.6	11.7	
	精神障害	708	27.3	18.5	15.0	17.2	7.1	

		回答者（人）	災害時に避難する避難場所の設備などを確認している	地域の避難訓練に参加している	その他	特に何もしていない	無回答
全体	身体障害	1,459	6.2	2.3	2.9	36.7	7.7
	難病	239	4.6	2.5	3.8	35.1	4.6
	高次脳機能障害	90	4.4	4.4	1.1	38.9	10.0
	知的障害	901	5.8	3.1	5.2	40.6	8.0
	発達障害	758	6.6	3.6	4.0	41.8	5.5
	精神障害	708	4.9	1.7	3.7	44.2	7.2

※1番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

(4) 悪徳商法などの消費者トラブルに巻き込まれたことの有無

- 悪徳商法などの消費者トラブルに巻き込まれたことの有無については、「ない」が9割近く（88.0%）を占めている。一方で、「ある」が1割近く（7.8%）となっている。

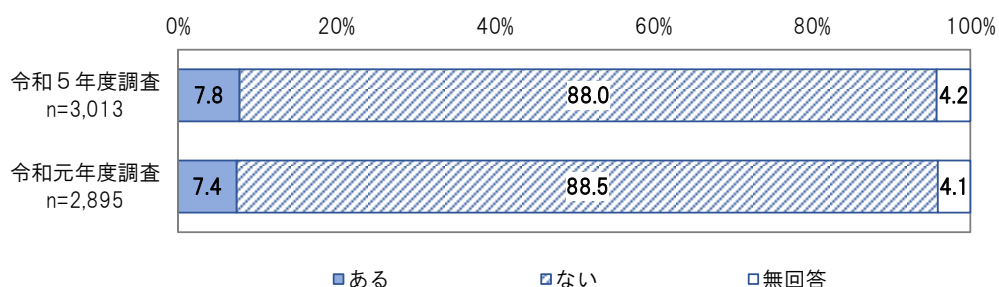


- 障害種別にみると、難病・精神障害では「ある」が1割以上となっており、その他の障害に比べてやや多くなっている。

		回答者 (人)	ある	ない	無回答
全体	身体障害	1,459	6.6	89.8	3.6
	難病	239	13.8	83.7	2.5
	高次脳機能障害	90	8.9	86.7	4.4
	知的障害	901	4.4	91.5	4.1
	発達障害	758	6.9	90.6	2.5
	精神障害	708	16.4	79.2	4.4

※1番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」としている。

- 令和元年度調査と比較すると、大きな差異はみられない。



(4-1) 消費者トラブルの内容 ※(4)で「ある」と回答した方のみ

- ・消費者トラブルの内容では、インターネットを介したクリック詐欺などの「電子商取引」が46件と最も多く、次いで、訪問販売による布団や着物、宝石などの高額商品の購入などの「家庭訪販」が35件、「紹介販売」が16件、「電話勧誘」が13件の順となっている。

項目	件数
電子商取引	46
家庭訪販	35
紹介販売	16
電話勧誘	13
ネガティブオプション	8
利殖商法	8
キャッチセールス	6
身分詐称	5
開運商法	4
点検商法	3
その他・意見・要望など	75

※消費者トラブルの名称について

電子商取引：オンラインショッピング、インターネット等のネットワーク上で行う取引

家庭訪販：販売員が消費者の家庭を訪問し、商品・サービスを販売するもの

紹介販売：商品・サービスを購入した人に、知人など他の人を紹介させて販売を拡大する販売システム

電話勧誘：販売員が消費者の職場や家庭等へ電話で勧誘し、商品・サービスを販売するもの

ネガティブオプション：商品を一方的に送りつけ、消費者が受け取った以上、支払わなければならないと勘違いして支払うことを狙った商法

利殖商法：「高利回り」など利殖になることを強調して投資や出資を勧誘する商法

キャッチセールス：駅や繁華街の路上で呼び止めて喫茶店や営業所に連れて行き、応じるまで解放しない雰囲気の中で商品・サービスの契約をさせるもの

身分詐称（かたり商法）：あたかも公的機関や有名企業の職員、関係者であるかのように装い売りつける商法

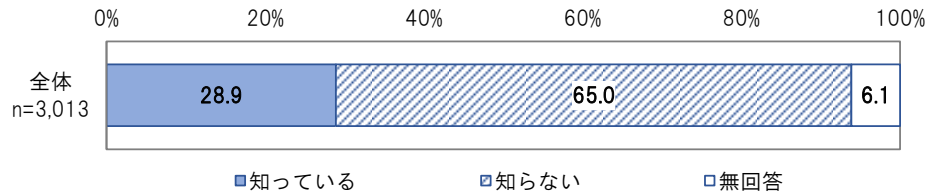
開運商法：「購入しなければ不幸になる」などと不安をあおり、それを解消するために必要と、商品（つぼや珠数）や祈禱などを契約させる商法

点検商法：「点検に来た」といって来訪し、「布団にダニがいる」「工事をしないと危険」などと、事実と異なることを言い、商品や別の商品・サービス等を契約させる商法

9. 権利擁護、啓発・差別の解消について

(1) 虐待を受けた時・発見した時の通報先の認知度

- 虐待を受けた時・発見した時の通報先の認知度については、「知らない」が6割以上（65.0%）を占めており、「知っている」は3割近く（28.9%）となっている。

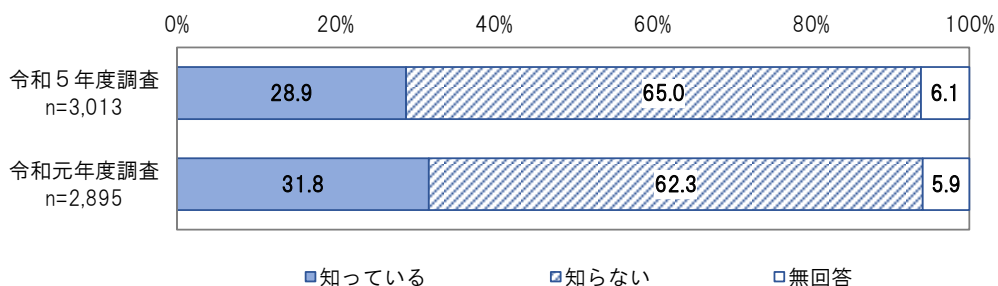


- 障害種別にみると、いずれの障害においても「知らない」が最も多く、特に身体障害・難病では「知っている」が3割未満となっている。
- 調査回答者別にみると、本人回答で「知っている」がやや高くなっているものの、大きな差異はみられない。

		回答者 (人)	知っている	知らない	無回答
全体	身体障害	1,459	28.9	65.0	6.1
	難病	239	28.4	65.9	5.6
	高次脳機能障害	90	30.1	65.3	4.6
	知的障害	901	31.1	65.6	3.3
	発達障害	758	30.7	62.3	7.0
	精神障害	708	32.7	62.9	4.4
調査 回答者	本人回答	1,190	31.5	65.1	3.4
	介助者回答	845	29.1	64.9	6.0

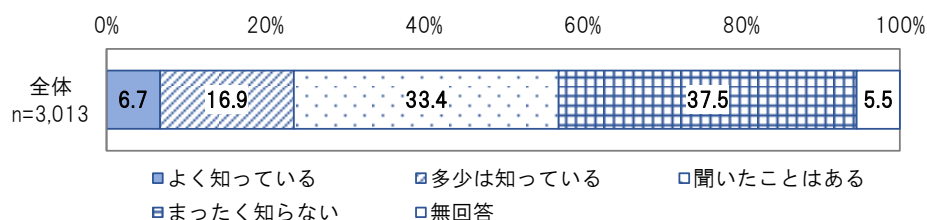
※1番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」としている。

- 令和元年度調査と比較すると、「知っている」がやや減少しており、「知らない」がやや増加している。



(2) 「成年後見制度」の認知度

- 成年後見制度の認知度については、「まったく知らない」が37.5%と最も多くなっている。一方で、「よく知っている」(6.7%)と「多少は知っている」(16.9%)を合わせた『知っている』方の割合は、2割程度(23.6%)となっている。

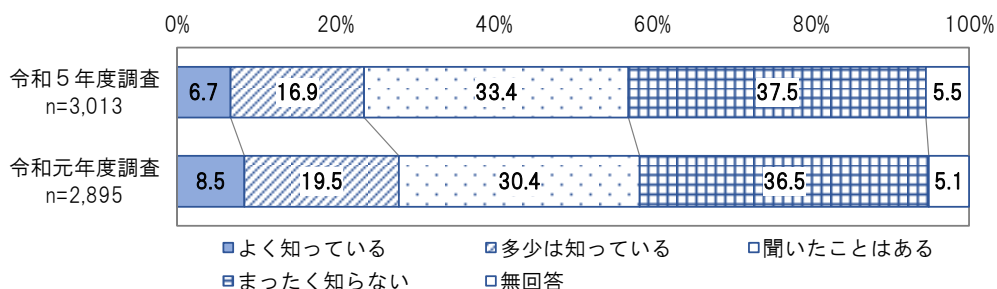


- 障害種別に見ると、身体障害・難病・高次脳機能障害・精神障害では「聞いたことはある」、知的障害・発達障害では「まったく知らない」が最も多くなっている。
- また、「よく知っている」と「多少は知っている」を合わせた『知っている』方の割合をみると、難病で3割を超えており、その他の障害に比べてやや多くなっている。
- 調査回答者別にみると、『知っている』は介助者回答に比べて本人回答で高くなっている。また、介助者回答では「まったく知らない」が4割以上と高くなっている。

		回答者 (人)	よく 知っ てい る	多 少 は 知 っ て い る	聞 い た こ と は あ る	ま っ た く 知 ら な い	無 回 答
18歳 以上	身体障害	1,459	8.2	19.4	36.1	31.7	4.6
	難病	239	9.6	24.3	36.8	26.8	2.5
	高次脳機能障害	90	6.7	17.8	36.7	33.3	5.6
	知的障害	901	5.8	14.5	26.1	46.8	6.8
	発達障害	758	4.6	13.6	31.5	46.0	4.2
	精神障害	708	5.4	16.4	39.4	34.3	4.5
調査 回答者	本人回答	1,190	6.9	19.3	38.8	32.6	2.4
	介助者回答	845	6.6	15.5	30.7	41.9	5.3

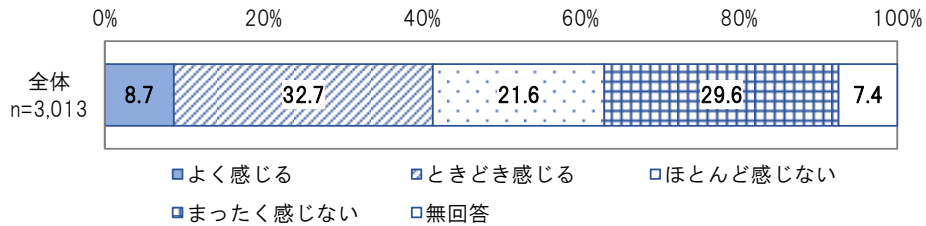
※1番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

- 令和元年度調査と比較すると、「よく知っている」と「多少は知っている」を合わせた『知っている』方の割合が4.4ポイントの減少となっている。



(3) 日常生活において障害があるために差別や偏見を感じることの有無

- 日常生活において障害があるために差別や偏見を感じることの有無については、「ときどき感じる」が3割以上（32.7%）と最も多く、「よく感じる」（8.7%）と合わせると、差別や偏見を『感じる』方の割合は4割以上となっている。
- 一方で、「ほとんど感じない」（21.6%）と「まったく感じない」（29.6%）を合わせると、差別や偏見を『感じない』方が半数以上を占めている。

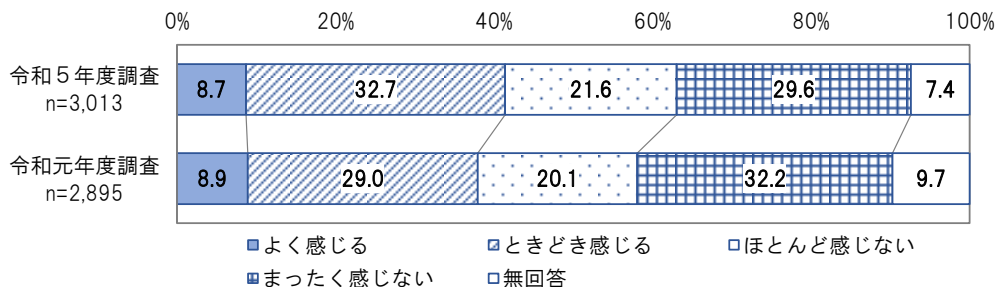


- 障害種別に見ると、身体障害では「まったく感じない」が最も多くなっているのに対し、その他の障害では「ときどき感じる」が最も多くなっている。

		回答者 (人)	よく感じる	ときどき感じる	ほとんど感じない	まったく感じない	無回答
全体	身体障害	1,459	6.8	26.6	24.0	36.0	6.6
	難病	239	9.2	29.3	28.9	27.2	5.4
	高次脳機能障害	90	7.8	33.3	25.6	23.3	10.0
	知的障害	901	12.1	41.7	16.2	21.2	8.8
	発達障害	758	12.4	43.8	17.7	21.5	4.6
	精神障害	708	11.3	38.8	21.0	22.6	6.2

※1番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」としている。

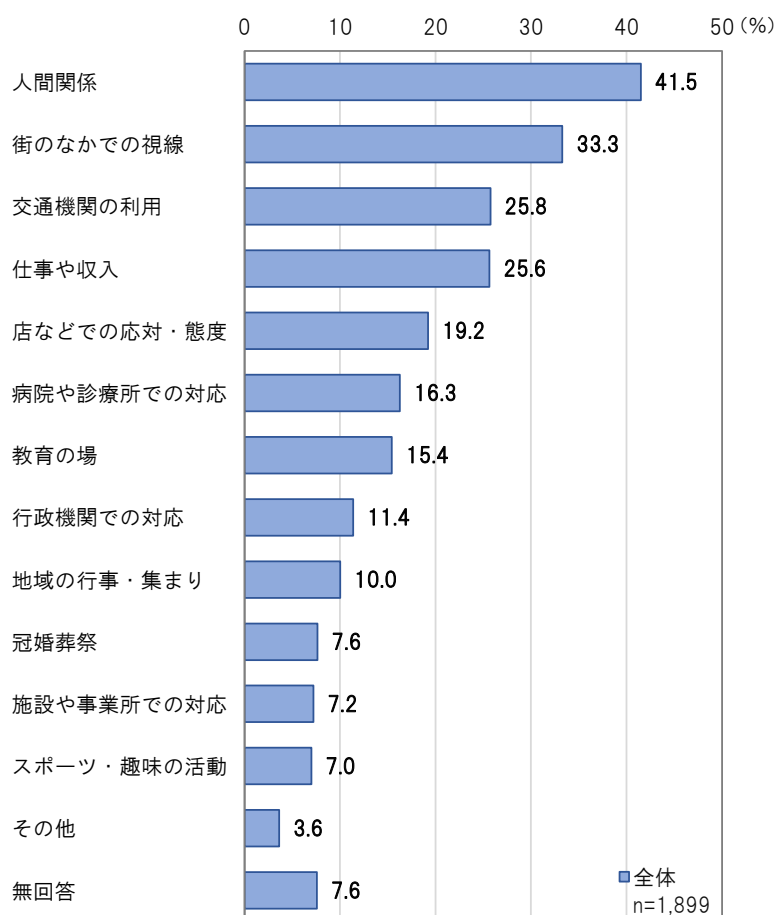
- 令和元年度調査と比較すると、「ときどき感じる」が増加しており、「よく感じる」と合わせた『感じる』方が3.5ポイントの増加となっている。



(4) 日常生活において障害があるために差別や偏見を感じる場面（複数回答）

※(3)で「よく感じる」、「ときどき感じる」、「ほとんど感じない」のいずれかを回答した方のみ

- 日常生活において障害があるために差別や偏見を感じる可能性がある方の感じた場面については、「人間関係」が4割以上（41.5%）と最も多く、次いで「街のなかでの視線」（33.3%）、「交通機関の利用」（25.8%）、「仕事や収入」（25.6%）の順となっている。



- ・障害種別にみると、身体障害・難病では「街のなかでの視線」、その他の障害では「人間関係」が最も多くなっている。
- ・また、知的障害・発達障害では「店などでの対応・態度」や「教育の場」、「地域の行事・集まり」、精神障害では「仕事や収入」などで、それぞれその他の障害に比べてやや多くなっている。

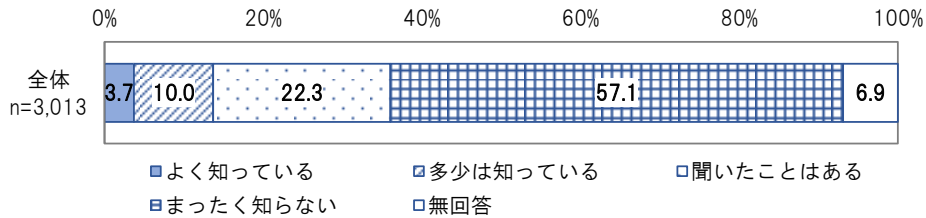
		回答者 (人)	人間関係	街のなかでの視線	交通機関の利用	仕事や収入	店などでの対応・態度	病院や診療所での対応	教育の場
全体	身体障害	837	29.7	31.4	29.3	23.1	18.8	13.9	7.0
	難病	161	29.8	32.3	29.2	26.7	15.5	16.8	7.5
	高次脳機能障害	60	43.3	33.3	31.7	23.3	16.7	15.0	6.7
	知的障害	631	44.1	42.9	29.0	21.1	25.0	18.7	26.9
	発達障害	560	50.5	39.5	28.2	26.6	23.8	18.2	31.1
	精神障害	504	57.7	28.8	19.0	37.5	15.5	20.6	9.1

		回答者 (人)	行政機関での対応	地域の行事・集まり	冠婚葬祭	施設や事業所での対応	スポーツ・趣味の活動	その他	無回答
全体	身体障害	837	11.4	8.2	7.3	6.5	7.6	3.3	11.1
	難病	161	13.0	5.0	8.7	7.5	6.2	5.6	12.4
	高次脳機能障害	60	13.3	10.0	10.0	8.3	8.3	3.3	5.0
	知的障害	631	9.5	14.6	11.3	7.9	6.2	1.7	3.5
	発達障害	560	12.9	13.0	10.5	7.9	8.2	3.2	2.5
	精神障害	504	15.7	8.9	6.3	9.5	6.2	6.3	5.0

※1番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

(5) 「障害者差別解消法」の認知度

- 障害者差別解消法の認知度については、「まったく知らない」が6割近く（57.1%）を占めて最も多くなっている。一方で、「よく知っている」（3.7%）と「多少は知っている」（10.0%）を合わせた『知っている』方の割合は、1割程度となっている。

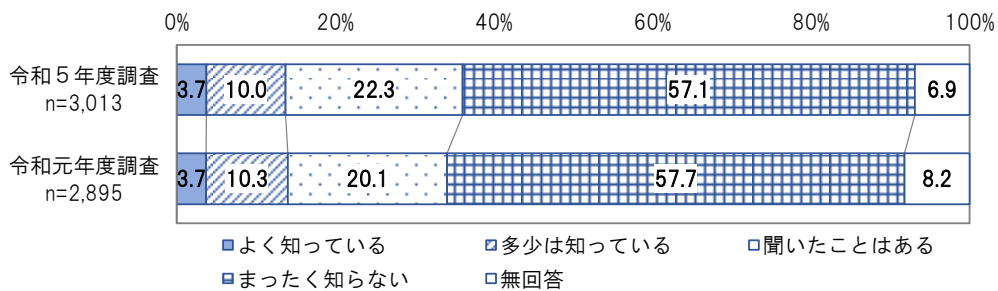


- 障害種別にみると、いずれの障害においても「まったく知らない」が最も多く、特に精神障害で6割以上（61.9%）となっている。

		回答者 (人)	よく 知 っ て い る	少 少 は 知 っ て い る	聞 い た こ と は あ る	ま っ た く 知 ら な い	無 回 答
全体	身体障害	1,459	4.3	10.3	26.0	53.3	6.1
	難病	239	5.0	11.3	24.3	54.4	5.0
	高次脳機能障害	90	4.4	12.2	21.1	52.2	10.0
	知的障害	901	3.4	10.8	19.6	57.8	8.3
	発達障害	758	4.2	11.9	19.5	59.2	5.1
	精神障害	708	2.8	9.2	20.2	61.9	5.9

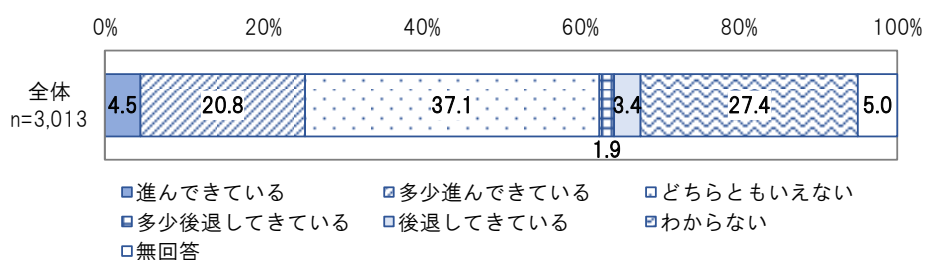
※1番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

- 令和元年度調査と比較すると、ほぼ同様の結果となっている。



(6) 障害に対する市民の理解の浸透

- 障害に対する市民の理解の浸透については、「どちらともいえない」や「わからない」が多くなっているものの、「進んできている」(4.5%)と「多少進んできている」(20.8%)を合わせた『進んできている』と思う方の割合は2割以上となっており、「多少後退してきている」(1.9%)と「後退してきている」(3.4%)を合わせた『後退してきている』を大幅に上回っている。

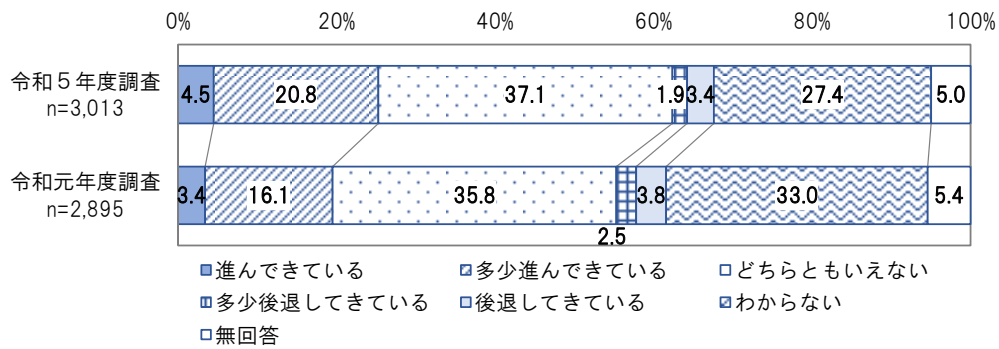


- 障害種別にみると、『進んできている』の割合は身体障害・難病では3割近くを占めて多くなっている。一方で、発達障害・精神障害では『後退してきている』が1割近くとなっており、その他の障害に比べてやや多くなっている。

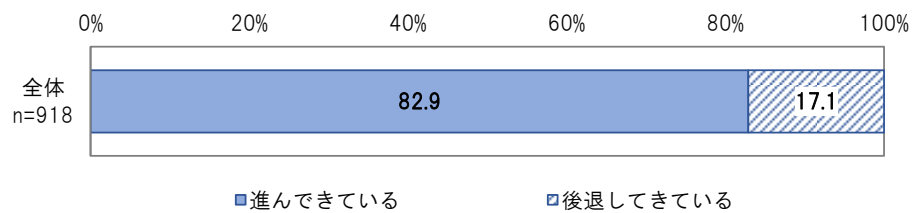
		回答者 (人)	進ん でき てい る	多 少 進 ん で き て い る	ど ち ら と も い え な い	多 少 後 退 し て き て い る	後 退 し て き て い る	わ か ら な い	無 回 答
全体	身体障害	1,459	5.7	22.2	39.5	1.8	2.6	24.3	3.9
	難病	239	4.6	24.3	41.0	1.3	4.2	21.8	2.9
	高次脳機能障害	90	2.2	22.2	33.3	1.1	3.3	32.2	5.6
	知的障害	901	3.3	19.9	34.3	2.6	3.9	30.6	5.4
	発達障害	758	2.9	20.8	37.6	2.2	5.1	28.5	2.8
	精神障害	708	4.0	19.9	35.2	2.0	5.2	29.5	4.2

※1番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

- 令和元年度調査と比較すると、「進んでいる」と「多少進んでいる」を合わせた『進んでいる』と思う方の割合が、令和元年度調査の約2割（19.5%）から 5.8 ポイント増加している。



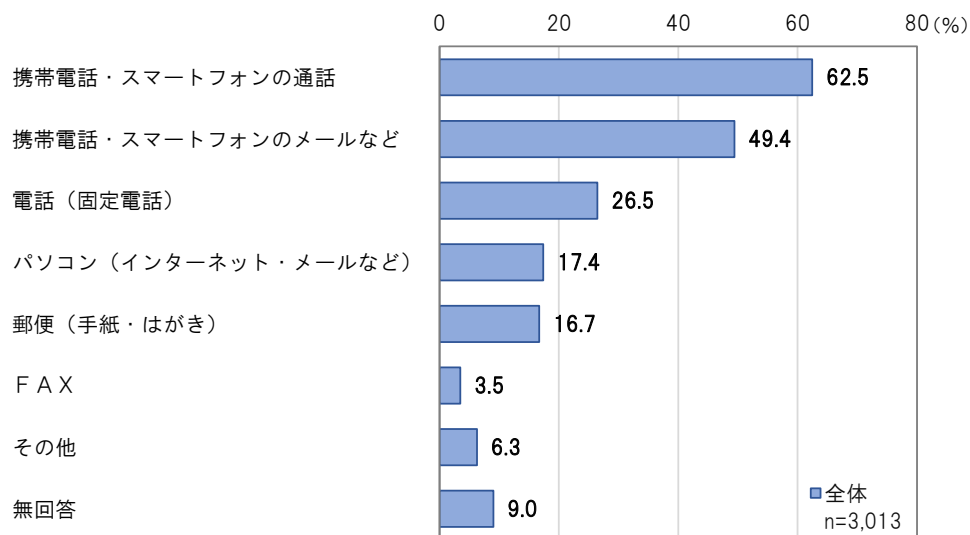
- 無回答や「どちらともいえない」、「わからない」の回答の方を除いて、市民の理解の浸透状況に対する評価をみると、『進んでいる』（「進んでいる」＋「多少進んでいる」）が8割以上（82.9%）を占めている。



10. 情報・コミュニケーション、行政等における配慮について

(1) ふだん使っている通信手段（複数回答）

- ・ふだん使っている通信手段については、「携帯電話・スマートフォンの通話」が6割以上(62.5%)を占めて最も多く、次いで「携帯電話・スマートフォンのメールなど」(49.4%)、「電話（固定電話）」(26.5%)の順となっている。



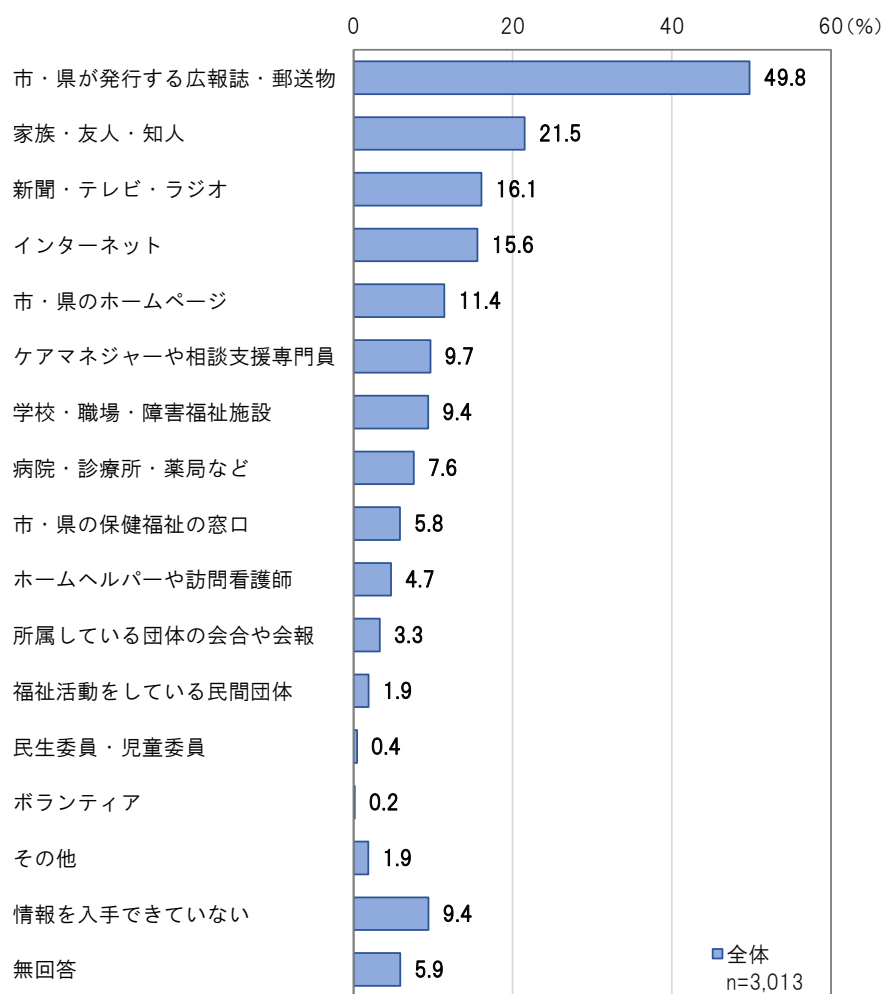
- ・障害種別にみると、いずれの障害においても「携帯電話・スマートフォンの通話」が最も多くなっている。

		回答者（人）	携帯電話・スマートフォンの通話	携帯電話・スマートフォンのメールなど	電話（固定電話）	パソコン（インターネット・メールなど）	郵便（手紙・はがき）	FAX	その他	無回答
全体	身体障害	1,459	65.2	51.6	31.2	20.5	18.6	5.4	3.9	6.2
	難病	239	72.0	58.6	32.2	21.8	23.4	6.3	2.9	5.0
	高次脳機能障害	90	53.3	34.4	22.2	12.2	15.6	2.2	11.1	13.3
	知的障害	901	52.1	39.0	19.0	9.2	11.2	1.6	12.4	16.6
	発達障害	758	60.0	49.5	17.7	16.6	12.4	1.3	10.0	12.7
	精神障害	708	67.8	57.5	26.8	20.3	22.2	2.5	4.1	5.1

※1番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

(2) 市役所からのお知らせやサービス利用などの生活に関する情報の入手先（複数回答）

・市役所からのお知らせやサービス利用などの生活に関する情報の入手先については、「市・県が発行する広報誌・郵送物」が約半数（49.8%）を占めて最も多く、次いで「家族・友人・知人」（21.5%）、「新聞・テレビ・ラジオ」（16.1%）、「インターネット」（15.6%）の順となっている。



- ・障害種別にみると、いずれの障害においても「市・県が発行する広報誌・郵送物」が最も多くなっている。
- ・高次脳機能障害・知的障害・発達障害では「家族・友人・知人」、高次脳機能障害では「ケアマネジャーや相談支援専門員」、知的障害・発達障害では「学校・職場・障害福祉施設」、精神障害では「市・県の保健福祉の窓口」などでその他の障害に比べてやや多くなっている。
- ・また、身体障害・難病では「情報を入手できていない」が1割未満となっているのに対し、その他の障害では1割を超えて多くなっている。

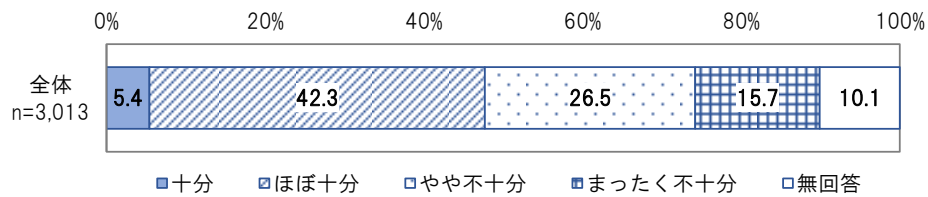
		回答者（人）	市・県が発行する広報誌・郵送物	家族・友人・知人	新聞・テレビ・ラジオ	インターネット	市・県のホームページ	ケアマネジャーや相談支援専門員	学校・職場・障害福祉施設	病院・診療所・薬局など	市・県の保健福祉の窓口
全体	身体障害	1,459	58.0	17.9	21.4	15.8	13.2	10.1	4.8	8.2	4.9
	難病	239	65.7	18.8	22.2	21.3	17.6	13.4	4.2	10.0	7.5
	高次脳機能障害	90	40.0	35.6	21.1	8.9	6.7	21.1	3.3	10.0	5.6
	知的障害	901	35.1	32.7	8.0	12.1	7.2	10.3	20.6	4.4	4.6
	発達障害	758	39.7	31.4	7.8	18.6	10.0	11.1	19.0	5.5	5.7
	精神障害	708	48.9	18.1	16.9	16.8	12.9	8.3	5.2	11.9	10.2

		回答者（人）	ホームヘルパーや訪問看護師	所属している団体の会合や会報	福祉活動をしている民間団体	民生委員・児童委員	ボランティア	その他	情報を入手できていない	無回答
全体	身体障害	1,459	5.3	3.8	1.8	0.5	0.3	1.4	6.9	4.5
	難病	239	10.0	2.9	0.4	0.8	0.8	0.4	5.4	2.9
	高次脳機能障害	90	11.1	3.3	2.2	2.2	1.1	1.1	10.0	7.8
	知的障害	901	3.4	4.7	2.6	0.1	0.0	2.6	11.8	7.7
	発達障害	758	4.4	3.3	2.5	0.3	0.1	2.6	11.7	5.1
	精神障害	708	8.1	1.3	1.8	0.8	0.3	2.3	10.6	4.4

※1番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

(3) 市役所から発信される情報の取得状況

- 市役所から発信される情報の取得状況については、「ほぼ十分」が4割以上（42.3%）を占めて最も多く、「十分」（5.4%）と合わせると、情報の入手が『十分』得られている方が半数近くを占めている。
- 一方で、「やや不十分」（26.5%）と「まったく不十分」（15.7%）を合わせた情報の入手が『不十分』の方が4割以上となっている。

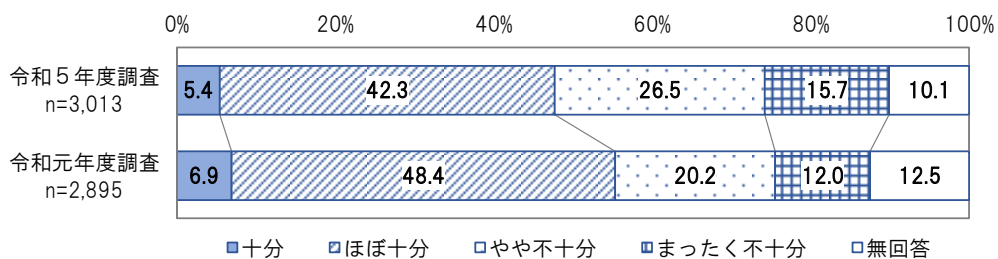


- 障害種別にみると、身体障害・難病・発達障害では「ほぼ十分」が4割を超えているのに対し、高次脳機能障害・知的障害・精神障害では4割未満となっており、やや低くなっている。

		回答者 (人)	十分	ほぼ十分	やや不十分	まったく不十分	無回答
全体	身体障害	1,459	5.1	44.8	26.9	13.9	9.2
	難病	239	5.0	43.9	31.4	13.8	5.9
	高次脳機能障害	90	3.3	37.8	30.0	16.7	12.2
	知的障害	901	6.5	39.0	22.2	19.5	12.8
	発達障害	758	5.0	40.5	26.8	19.7	8.0
	精神障害	708	4.9	38.3	31.8	16.5	8.5

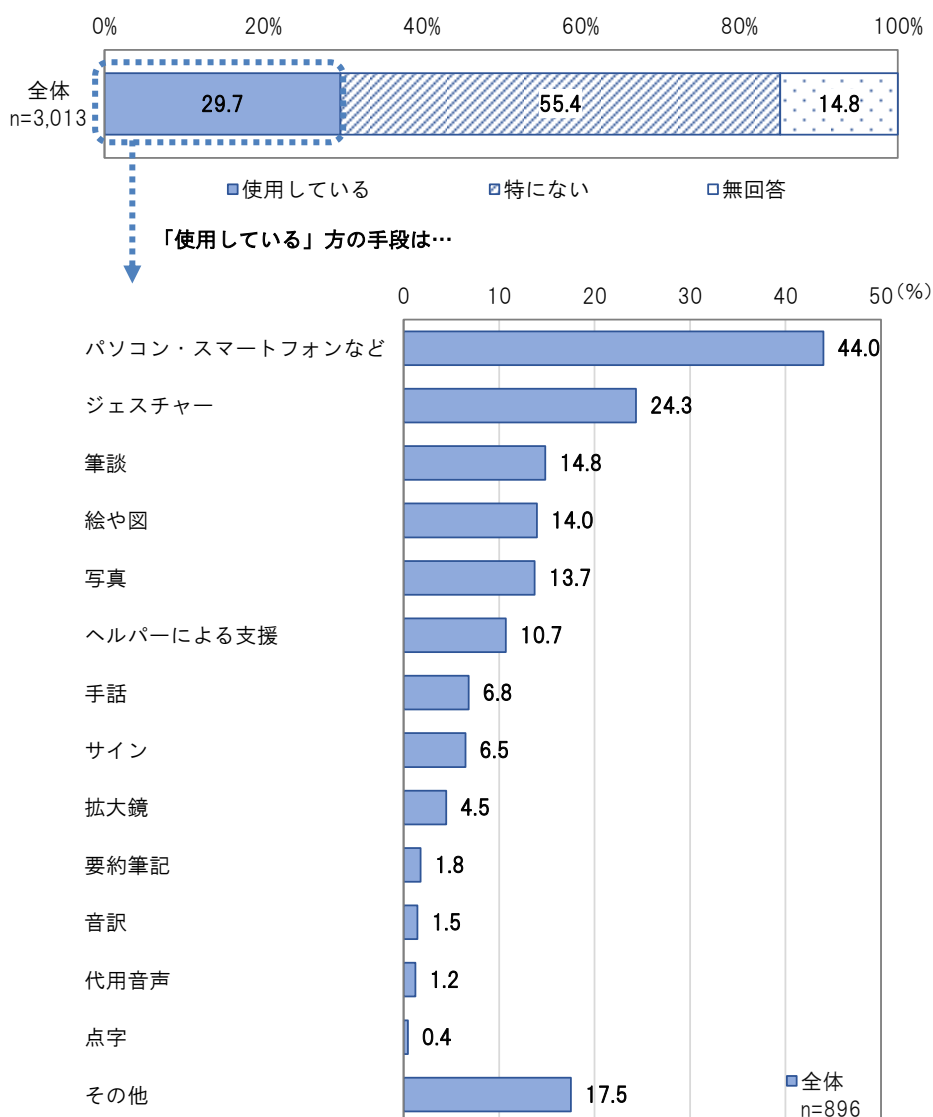
※1番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

- 令和元年度調査と比較すると、「ほぼ十分」が大きく減少しており、「十分」と合わせた情報の入手が『十分』得られている方の割合が、令和元年度調査の半数以上（55.3%）から 7.6 ポイント減少している。



(4) 会話やコミュニケーションを図る際に用いる手段（手法）（複数回答）

- 会話やコミュニケーションを図る際に用いる手段（手法）については、「特にない」が半数以上（55.4%）を占めている。一方で、「使用している」が約3割（29.7%）となっている。
- 使用している方のコミュニケーション手段については、「パソコン・スマートフォンなど」が4割以上（44.0%）と最も多く、次いで「ジェスチャー」（24.3%）、「筆談」（14.8%）、「絵や図」（14.0%）の順となっている。



- ・障害種別にみると、知的障害では「ジェスチャー」、その他の障害では「パソコン・スマートフォンなど」が最も多くなっている。
- ・また、身体障害では「筆談」や「手話」、知的障害・発達障害では「絵や図」や「写真」、「サイン」などで、その他の障害に比べてやや多くなっている。

		回答者 (人)	パソコン・スマートフォンなど	ジェスチャー	筆談	絵や図	写真	ヘルパーによる支援	手話
全体	身体障害	417	43.2	19.7	21.8	6.7	6.0	11.5	12.2
	難病	70	44.3	14.3	11.4	2.9	4.3	11.4	2.9
	高次脳機能障害	32	37.5	28.1	18.8	6.3	6.3	15.6	0.0
	知的障害	320	29.7	37.5	9.1	25.3	25.3	10.0	1.6
	発達障害	271	38.4	32.8	9.6	28.8	25.5	9.2	1.8
	精神障害	215	63.7	14.4	9.3	9.3	12.6	14.9	1.4

		回答者 (人)	サイン	拡大鏡	要約筆記	音訳	代用音声	点字	その他
全体	身体障害	417	5.5	7.7	2.4	2.2	2.2	1.0	17.7
	難病	70	5.7	8.6	5.7	4.3	4.3	1.4	24.3
	高次脳機能障害	32	6.3	3.1	0.0	3.1	0.0	0.0	21.9
	知的障害	320	11.6	1.3	1.9	1.3	0.9	0.3	19.4
	発達障害	271	10.7	1.5	1.8	1.5	0.4	0.4	17.3
	精神障害	215	2.3	2.3	1.9	0.5	0.5	0.0	15.3

※1番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

- 次に、身体障害の内容別にみると、視覚障害では「拡大鏡」、聴覚・平衡機能障害では「筆談」、音声・言語・そしゃく機能障害では「ジェスチャー」、視覚障害・肢体不自由・内部障害では「パソコン・スマートフォンなど」が、それぞれ最も多くなっている。

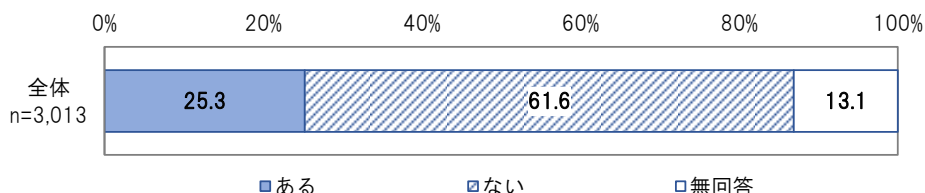
		回答者 (人)	パソコン・スマートフォンなど	ジェスチャー	筆談	絵や図	写真	ヘルパーによる支援	手話
身体障害	視覚障害	33	33.3	9.1	9.1	3.0	3.0	18.2	3.0
	聴覚・平衡機能障害	93	28.0	31.2	64.5	7.5	5.4	4.3	48.4
	音声・言語・そしゃく機能障害	47	29.8	40.4	23.4	6.4	4.3	10.6	4.3
	肢体不自由	179	40.2	20.7	6.7	5.0	3.9	17.9	2.2
	内部障害	91	62.6	13.2	7.7	9.9	9.9	6.6	2.2

		回答者 (人)	サイン	拡大鏡	要約筆記	音訳	代用音声	点字	その他
身体障害	視覚障害	33	-	33.3	-	12.1	3.0	12.1	12.1
	聴覚・平衡機能障害	93	3.2	3.2	4.3	3.2	3.2	-	16.1
	音声・言語・そしゃく機能障害	47	4.3	2.1	4.3	2.1	2.1	-	19.1
	肢体不自由	179	8.9	5.6	1.1	0.6	1.1	0.6	25.1
	内部障害	91	2.2	8.8	3.3	1.1	1.1	1.1	13.2

※1番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

(5) コミュニケーションに支障を感じたことの有無

- ・コミュニケーションに支障を感じたことの有無については、「ない」が6割以上（61.6%）を占めている。一方で、「ある」が2割以上（25.3%）となっている。



- ・障害種別に見ると、高次脳機能障害・発達障害で「ある」が「ない」を上回る結果となっている。また、知的障害では「ある」が約4割（39.4%）と、高次脳機能障害・発達障害に次いで多くなっている。

		回答者 (人)	ある	ない	無回答
全体	身体障害	1,459	16.4	72.2	11.4
	難病	239	19.2	71.5	9.2
	高次脳機能障害	90	46.7	43.3	10.0
	知的障害	901	39.4	43.5	17.1
	発達障害	758	44.7	43.4	11.9
	精神障害	708	29.1	57.6	13.3

※1 番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」としている。

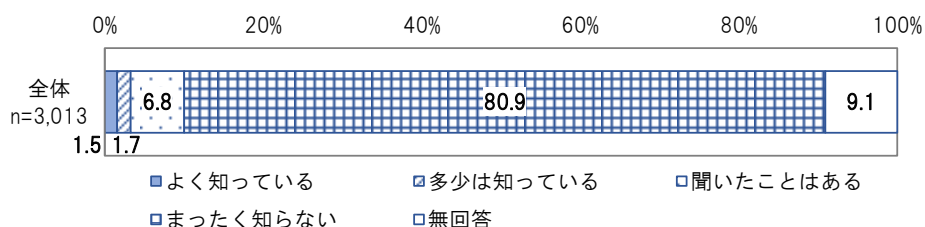
- ・次に、身体障害の内容別に見ると、聴覚・平衡機能障害では「ある」が半数近く（48.2%）を占め、「ない」（38.7%）を上回る結果となっている。
- ・また、音声・言語・そしゃく機能障害では「ある」が3割以上（36.5%）となっており、聴覚・平衡機能障害に次いで多くなっている。

		回答者 (人)	ある	ない	無回答
全体	視覚障害	101	20.8	63.4	15.8
	聴覚・平衡機能障害	137	48.2	38.7	13.1
	音声・言語・そしゃく機能障害	115	36.5	53.0	10.4
	肢体不自由	682	17.2	70.8	12.0
	内部障害	449	6.5	87.1	6.5

※1 番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」としている。

(6) 「尼崎市手話言語条例」の認知度

- ・ 尼崎市手話言語条例の認知度については、「まったく知らない」が約8割（80.9%）を占めて最も多くなっている。一方で、「よく知っている」（1.5%）と「多少は知っている」（1.7%）を合わせた『知っている』方の割合は、3.2%となっている。

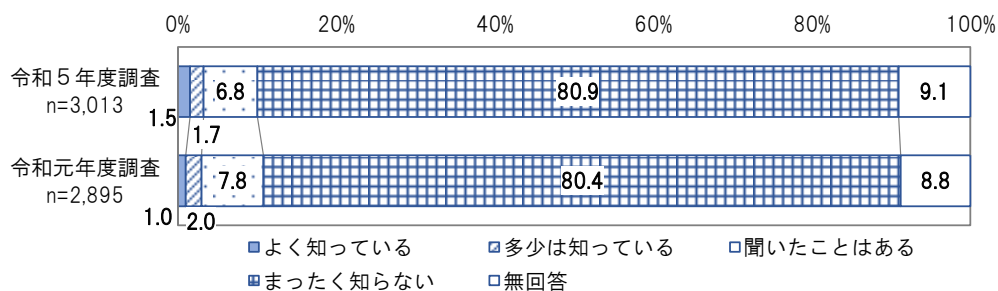


- ・ 障害種別に見ると、いずれの障害においても「まったく知らない」が大半を占めており、大きな差異はみられない。

		回答者 (人)	よく 知っ てい る	多 少 は 知 っ て い る	聞 い た こ と は あ る	ま っ た く 知 ら な い	無 回 答
全体	身体障害	1,459	2.1	2.4	8.0	79.6	7.9
	難病	239	0.8	1.7	6.7	84.9	5.9
	高次脳機能障害	90	-	1.1	14.4	76.7	7.8
	知的障害	901	1.0	1.7	6.1	80.8	10.4
	発達障害	758	0.7	1.5	7.0	82.7	8.2
	精神障害	708	0.7	1.3	4.8	83.3	9.9

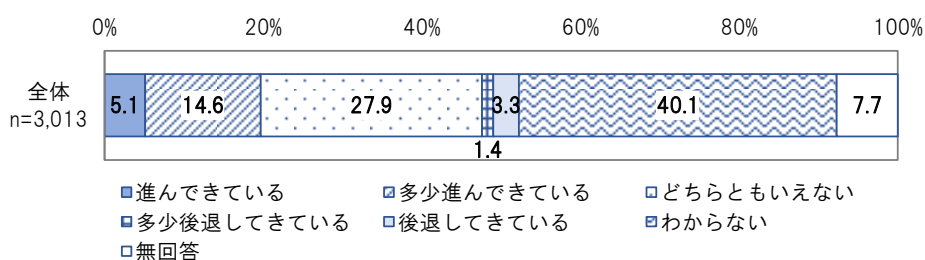
※1番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」としている。

- ・ 令和元年度調査と比較すると、ほぼ同様の結果となっている。



(7) 障害に対する行政職員の理解の浸透

- 障害に対する行政職員の理解の浸透については、「どちらともいえない」や「わからない」が多くなっているものの、「進んでいる」(5.1%)と「多少進んでいる」(14.6%)を合わせた『進んでいる』と思う方の割合は約2割となっており、「多少後退してきている」(1.4%)と「後退してきている」(3.3%)を合わせた『後退してきている』を大幅に上回っている。

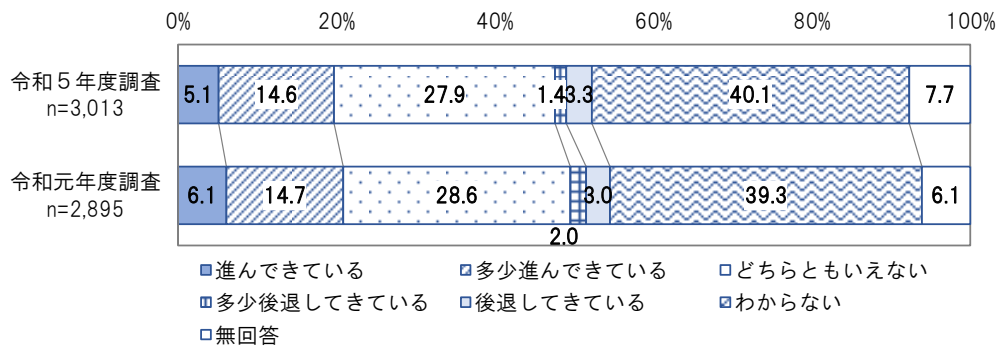


- 障害種別にみると、『進んでいる』の割合は、難病の23.1%が最も高く、身体障害・精神障害においても2割以上となっている。

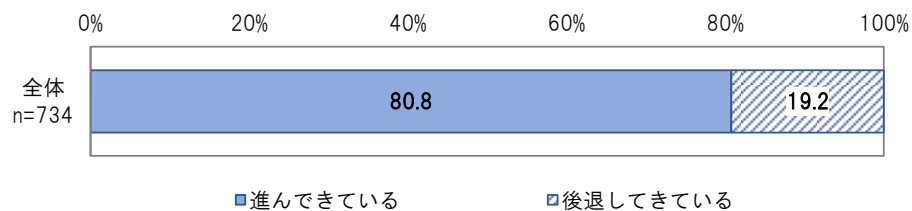
		回答者 (人)	進 ん で き て い る	多 少 進 ん で き て い る	ど ち ら と も い え な い	多 少 後 退 し て き て い る	後 退 し て き て い る	わ か ら な い	無 回 答
全体	身体障害	1,459	5.9	14.8	28.1	1.0	2.7	40.8	6.6
	難病	239	5.9	17.2	28.5	2.1	3.3	37.2	5.9
	高次脳機能障害	90	4.4	14.4	31.1	0.0	2.2	43.3	4.4
	知的障害	901	3.2	13.7	29.4	1.7	3.0	40.6	8.4
	発達障害	758	3.0	14.6	31.7	1.6	3.3	39.6	6.2
	精神障害	708	6.4	14.3	27.3	2.7	4.7	36.3	8.5

※1番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

- 令和元年度調査と比較すると、「進んでいる」と「多少進んでいる」を合わせた『進んでいる』と思う方の割合が、令和元年度調査の約2割（20.8%）から 1.1 ポイント減少しているものの、大きな差異はみられない。



- 無回答や「どちらともいえない」、「わからない」の回答の方を除いて、行政職員の理解の浸透状況に対する評価をみると、『進んでいる』（「進んでいる」＋「多少進んでいる」）が約8割（80.8%）を占めている。



11. 福祉施策について

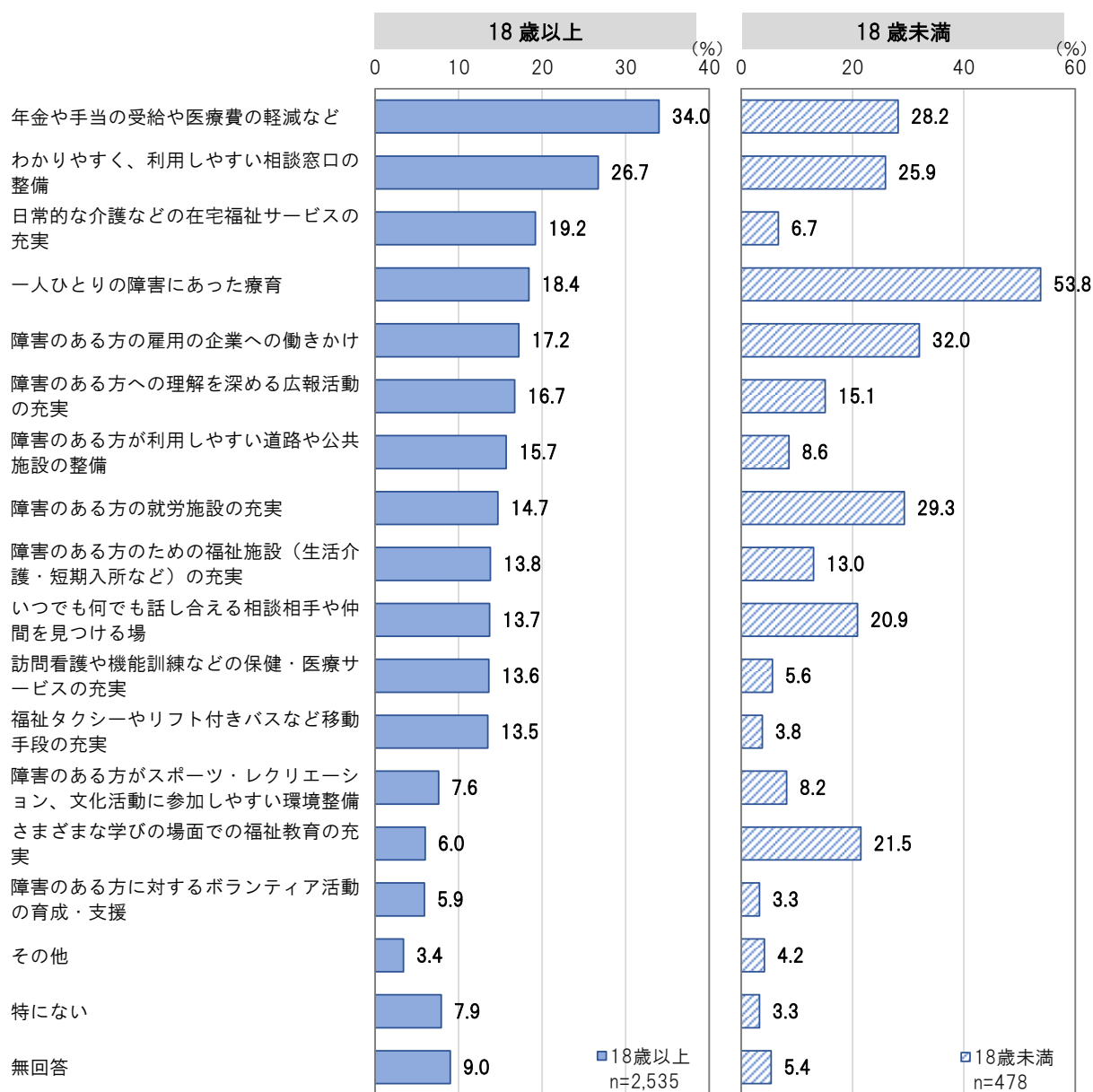
(1) 新型コロナウイルス感染症の流行時から現在までの生活で、特に困ったことや大きな変化・影響

- ・新型コロナウイルス感染症の流行時から現在までの生活で特に困ったことや大きな変化・影響では、困ったこととして「マスクの着用」が153件と最も多く、次いで、「外出機会の減少」が130件、「通院・入院がしづらくなったこと」が58件、「収入（仕事）の減少」が51件の順となっている。一方で、良い影響では「テレワークが進んで働きやすくなった」や「デジタルや障害特性に対する対応が進んだ」の意見も挙がった。

項目	件数
《困ったこと》	
マスクの着用が困難だった	153
外出機会が減った	130
通院や入院がしづらくなった	58
収入が減った／仕事が減った	51
サービスが利用できなくなった（利用しづらくなった）	48
人とのコミュニケーションが低下した（会わなくなった）	41
ワクチン接種・予約が困難だった	38
感染することへの不安があった	36
物価の高騰	31
入院時の付き添いや面会ができなくなった	31
ストレスが増えた	24
買い物が困難だった	20
イベントや行事等が自粛された	18
筋力が低下した	18
学校・園の休校への対応に困った	17
コロナへの感染やワクチン接種による後遺症が残っている	12
行政や保健所の対応に困った	12
情報の入手が難しかった	11
家族が感染した時の対応（隔離）に困った	10
本人は感染症に対する理解ができない（理解させるのに困った）	10
困った時の相談先が分からなかった	9
運動不足になった	8
薬・必要な物資の入手が困難だった	3
支出が増えた／経済的負担が大きい	7
《良い影響》	
テレワークが進んで働きやすくなった	7
デジタルや障害特性に対する対応への理解が進んだ	5
《その他》	
感染対策の徹底	7
その他・意見・要望など	83

(2) 今後も尼崎市で暮らしていくために充実を望むこと（複数回答：3つまで）

- ・ 今後も尼崎市で暮らしていくために充実を望むことについては、18歳以上では「年金や手当の受給や医療費の軽減など」が3割以上（34.0%）と最も多く、次いで「わかりやすく、利用しやすい相談窓口の整備」（26.7%）、「日常的な介護などの在宅福祉サービスの充実」（19.2%）、「一人ひとりの障害にあった療育」（18.4%）の順となっている。
- ・ 18歳未満では、「一人ひとりの障害にあった療育」が半数以上（53.8%）を占めて最も多く、次いで「障害のある方の雇用の企業への働きかけ」（32.0%）、「障害のある方の就労施設の充実」（29.3%）、「年金や手当の受給や医療費の軽減など」（28.2%）、「わかりやすく、利用しやすい相談窓口の整備」（25.9%）の順となっている。



- ・障害種別にみると、18歳未満の身体障害では「日常的な介護などの在宅福祉サービスの充実」や「障害のある方のための福祉施設の充実」、知的障害・発達障害では「障害のある方の雇用の企業への働きかけ」や「障害のある方の就労施設の充実」が、その他の障害に比べてやや多くなっている。

		回答者（人）	年金や手当の受給や医療費の軽減など	わかりやすく、利用しやすい相談窓口の整備	日常的な介護などの在宅福祉サービスの充実	一人ひとりの障害にあった療育	障害のある方の雇用の企業への働きかけ	障害のある方への理解を深める広報活動の充実	障害のある方が利用しやすい道路や公共施設の整備	障害のある方の就労施設の充実	障害のある方のための福祉施設の充実
18歳以上	身体障害	1,410	34.8	26.5	22.3	14.5	14.7	17.2	19.9	11.1	12.3
	難病	239	40.6	26.8	28.0	19.2	18.0	17.6	25.5	15.1	14.6
	高次脳機能障害	90	35.6	16.7	35.6	18.9	16.7	24.4	17.8	17.8	16.7
	知的障害	567	23.5	21.9	16.8	26.5	14.3	16.9	9.2	17.6	25.2
	発達障害	415	32.5	29.4	15.2	31.3	21.2	20.2	10.8	20.2	20.7
	精神障害	708	38.3	29.2	16.0	21.9	24.2	18.2	13.0	19.8	10.2
18歳未満	身体障害	49	34.7	26.5	16.3	42.9	24.5	12.2	16.3	18.4	28.6
	知的障害	334	30.5	21.3	7.8	51.2	37.1	13.8	7.5	33.5	17.4
	発達障害	343	30.3	23.9	6.7	53.4	35.6	15.2	7.3	32.9	13.1

		回答者（人）	いつでも何でも話し合える相談相手や仲間を見つける場	健・医療サービスの充実	訪問看護や機能訓練などの保護	福祉タクシーやリフト付きバスなど移動手段の充実	障害のある方がスポーツ・レクリエーション、文化活動に参加しやすい環境整備	さまざまな学びの場面での福祉教育の充実	障害のある方に対するボランティア活動の育成・支援	その他	特になし	無回答
18歳以上	身体障害	1,410	11.0	16.3	17.6	8.0	5.2	5.3	3.0	8.1	7.7	
	難病	239	12.1	22.2	20.1	7.9	6.7	6.7	2.9	3.3	5.0	
	高次脳機能障害	90	12.2	34.4	12.2	7.8	4.4	13.3	3.3	5.6	3.3	
	知的障害	567	15.3	10.6	6.2	7.9	5.3	9.5	3.7	8.3	11.8	
	発達障害	415	19.5	10.1	7.0	8.9	7.7	8.9	4.3	7.2	7.2	
	精神障害	708	18.1	12.7	11.2	6.2	7.5	5.1	4.7	6.2	9.9	
18歳未満	身体障害	49	14.3	18.4	10.2	4.1	18.4	-	4.1	2.0	4.1	
	知的障害	334	21.3	4.2	3.6	9.3	21.9	3.9	4.5	2.4	4.2	
	発達障害	343	22.4	4.1	3.5	8.5	21.6	3.5	4.4	3.2	5.0	

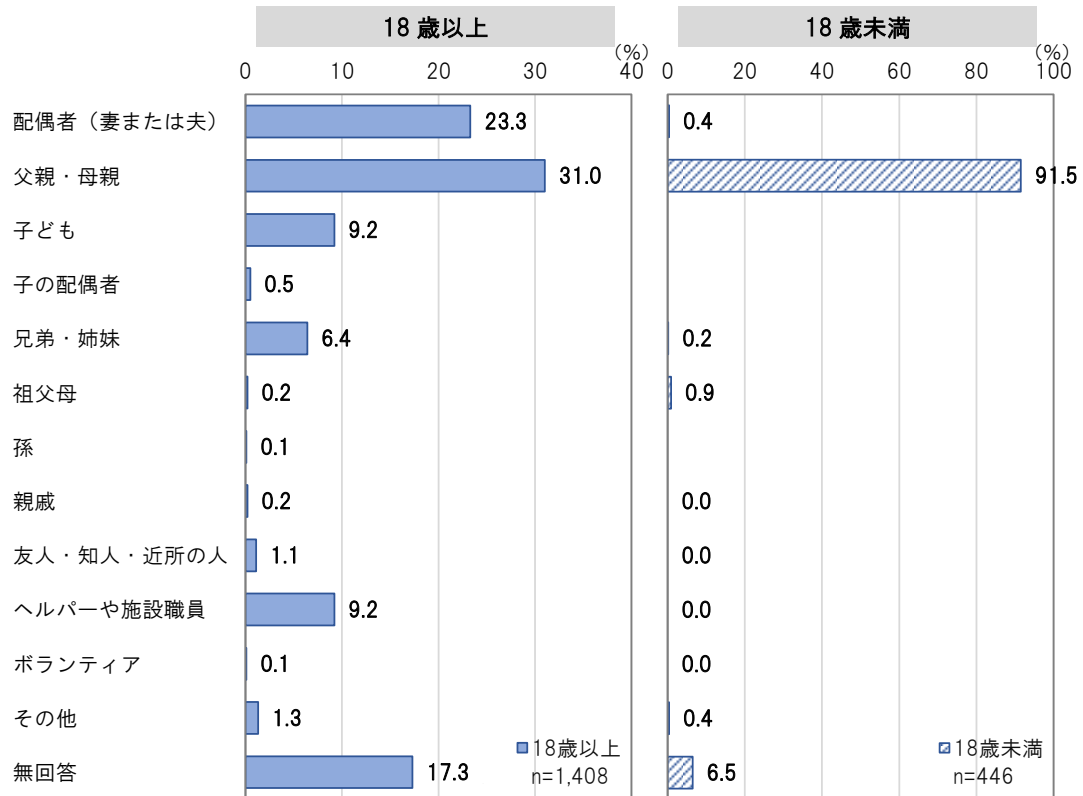
※1番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

12. 介助者への質問

※(1)～(6)のすべての質問に回答のない方を除いて集計

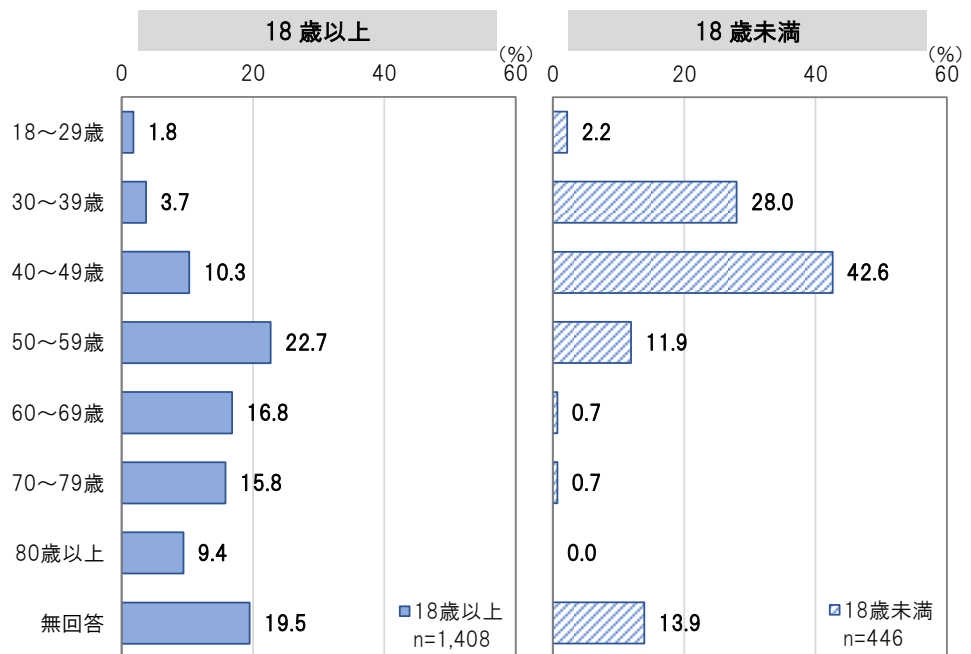
(1) 介助者の続柄

- ・介助者の続柄をみると、18歳以上・18歳未満ともに「父親・母親」が最も多く、特に18歳未満では9割以上(91.5%)となっている。
- ・18歳以上では、次いで「配偶者(妻または夫)」(23.3%)、「子ども」および「ヘルパーや施設職員」(9.2%)、「兄弟・姉妹」(6.4%)の順となっている。



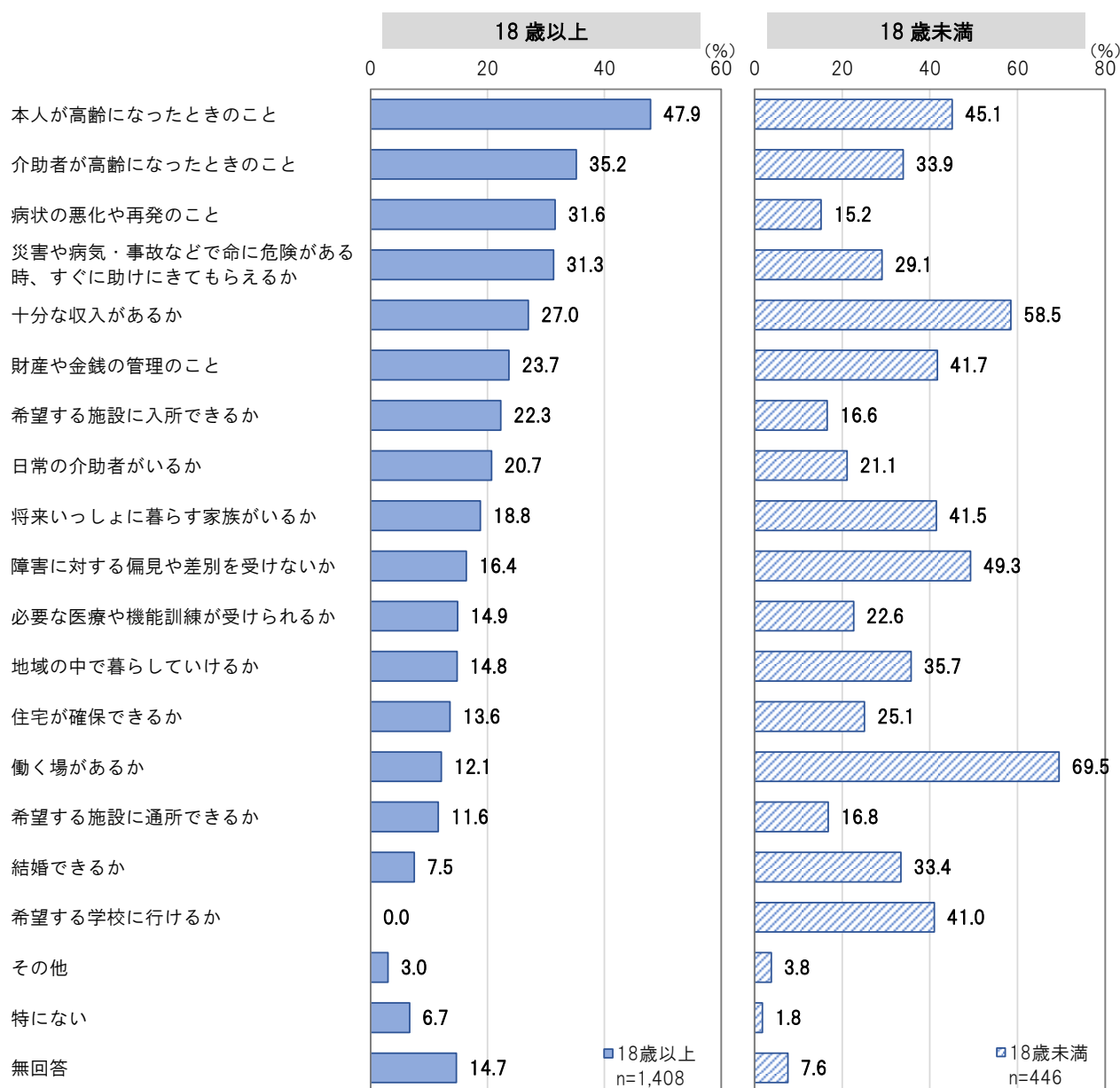
(2) 介助者の年齢

- ・介助者の年齢をみると、18歳以上では『60歳以上』が4割以上（42.0%）となっているのに対し、18歳未満では『30～49歳』が約7割（70.6%）を占めている。



(3) 本人が生活していく上で今後不安に感じていること（複数回答）

- 本人が生活していく上で今後不安に感じていることについては、18歳以上では「本人が高齢になったときのこと」が半数近く（47.9%）を占めて最も多く、次いで「介助者が高齢になったときのこと」（35.2%）、「病状の悪化や再発のこと」（31.6%）、「災害や病気・事故などで命に危険がある時、すぐに助けにきてもらえるか」（31.3%）の順となっている。
- 18歳未満では、「働く場があるか」が約7割（69.5%）を占めて最も多く、次いで「十分な収入があるか」（58.5%）、「障害に対する偏見や差別を受けないか」（49.3%）、「本人が高齢になったときのこと」（45.1%）の順となっている。
- ほぼすべての項目で、18歳未満の回答が多く、子どもの将来に不安を感じているなど保護者等の関心が高いことが伺える。



- ・障害種別にみると、18歳以上の難病では「病状の悪化や再発のこと」、18歳未満の知的障害・発達障害では「働く場があるか」や「十分な収入があるか」、「財産や金銭の管理のこと」、「将来いっしょに暮らす家族がいるか」、「障害に対する偏見や差別を受けないか」で、その他の障害に比べてやや多くなっている。

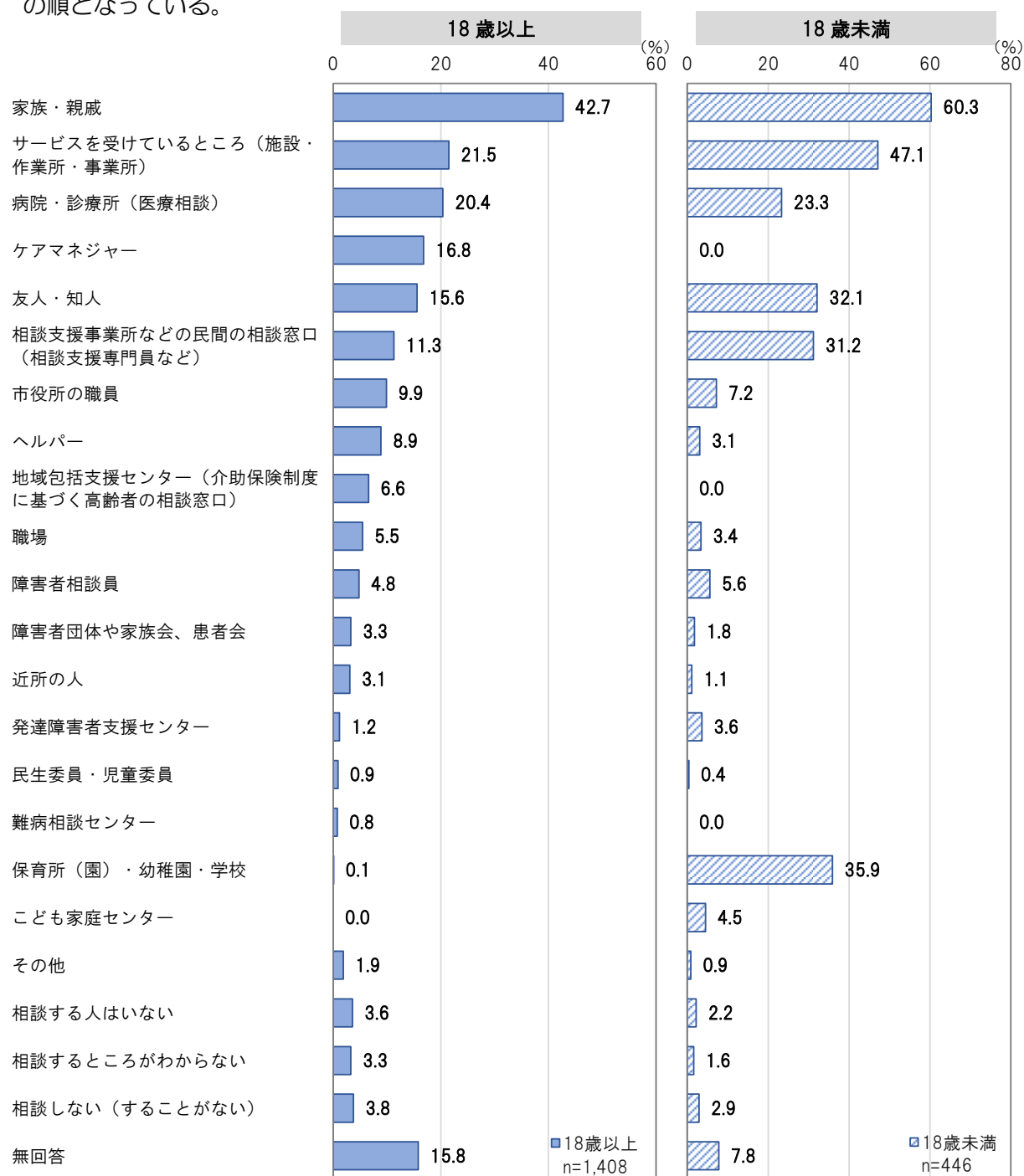
		回答者（人）	本人が高齢になったときのこと	介助者が高齢になったときのこと	病状の悪化や再発のこと	災害や病気等で命に危険がある時、すぐに助けにきてもらえるか	十分な収入があるか	財産や金銭の管理のこと	希望する施設に入所できるか	日常の介助者がいるか	将来いっしょに暮らす家族がいるか	障害に対する偏見や差別を受けないか
18歳以上	身体障害	737	44.6	33.6	35.7	30.5	22.4	15.3	21.6	20.1	15.6	9.9
	難病	136	46.3	36.8	50.0	40.4	29.4	20.6	19.9	20.6	15.4	8.8
	高次脳機能障害	73	63.0	56.2	43.8	37.0	26.0	35.6	31.5	23.3	16.4	11.0
	知的障害	458	60.0	43.4	22.7	37.6	28.4	37.8	31.7	25.8	23.1	26.6
	発達障害	277	62.1	46.6	25.6	40.8	39.7	41.9	31.4	29.2	28.5	32.1
	精神障害	346	46.0	30.9	37.3	27.2	35.5	23.7	16.8	17.3	20.2	18.5
18歳未満	身体障害	49	46.9	40.8	46.9	51.0	46.9	28.6	16.3	32.7	38.8	40.8
	知的障害	312	55.4	43.9	15.1	35.9	61.2	49.7	23.1	27.9	46.5	52.2
	発達障害	318	48.4	37.1	13.2	30.8	62.6	48.7	17.9	22.0	45.9	55.3

		回答者（人）	必要な医療や機能訓練が受けられるか	地域の中で暮らしているか	住宅が確保できるか	働く場があるか	希望する施設に通所できるか	結婚できるか	希望する学校に行けるか	その他	特にない	無回答
18歳以上	身体障害	737	15.1	9.8	10.2	8.0	10.7	5.2	-	1.8	7.7	15.3
	難病	136	23.5	12.5	13.2	11.8	11.8	6.6	-	3.7	3.7	11.0
	高次脳機能障害	73	26.0	15.1	8.2	11.0	19.2	2.7	-	1.4	4.1	8.2
	知的障害	458	18.6	24.9	18.3	15.1	15.1	9.6	-	3.9	5.9	10.7
	発達障害	277	22.7	27.4	20.2	20.9	15.9	12.6	-	4.7	4.3	9.4
	精神障害	346	13.9	15.0	16.8	16.2	9.8	10.1	-	3.8	4.0	16.2
18歳未満	身体障害	49	36.7	22.4	18.4	55.1	22.4	20.4	36.7	8.2	-	12.2
	知的障害	312	26.0	39.1	32.1	73.4	21.8	34.3	38.5	4.2	1.3	7.1
	発達障害	318	24.2	37.1	29.6	74.8	17.9	37.1	42.5	3.8	1.3	6.0

※1番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

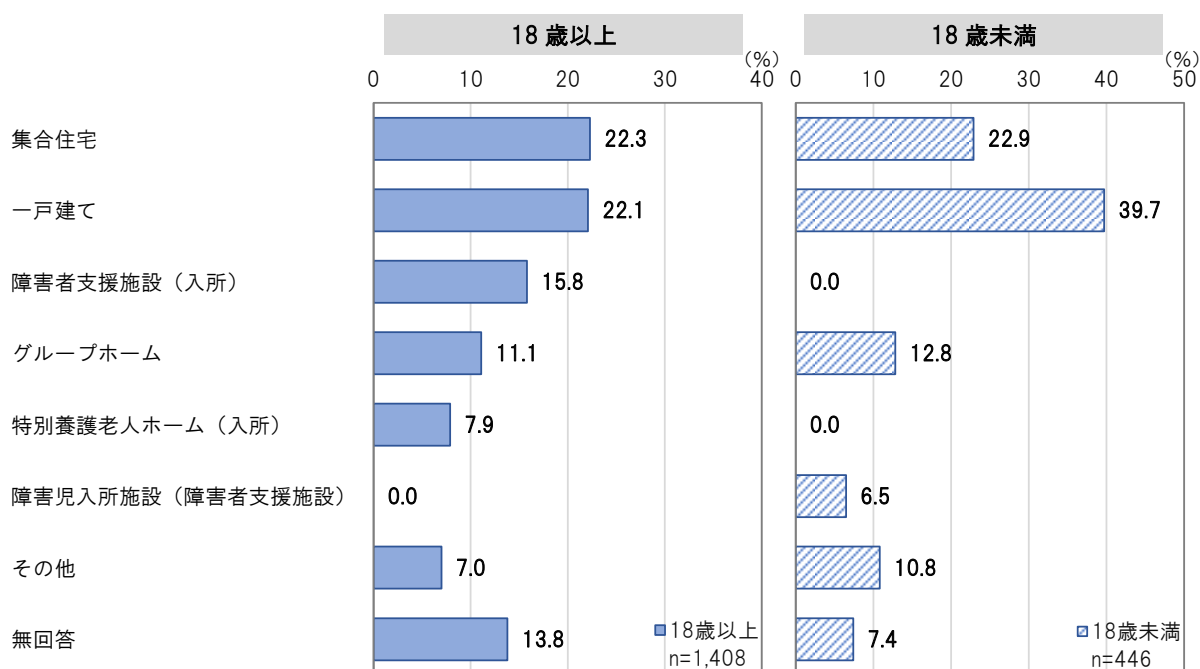
(4) 介助をする上での困りごとや悩みを相談する人や場所（複数回答）

- ・介助をする上での困りごとや悩みを相談する人や場所については、18歳以上・18歳未満ともに「家族・親戚」が最も多く、次に「サービスを受けているところ（施設・作業所・事業所）」となっている。
- ・18歳以上では、次いで「病院・診療所（医療相談）」（20.4%）、「ケアマネジャー」（16.8%）の順となっており、18歳未満では「保育所（園）・幼稚園・学校」（35.9%）、「友人・知人」（32.1%）の順となっている。



(5) 本人にとって適している住まい

- 本人にとって適している住まいについては、18歳以上・18歳未満ともに「集合住宅」および「一戸建て」が多くなっている。
- また、「グループホーム」や入所施設の利用を望む介助者は、18歳以上では3割以上(34.8%)、18歳未満では約2割(19.3%)となっている。



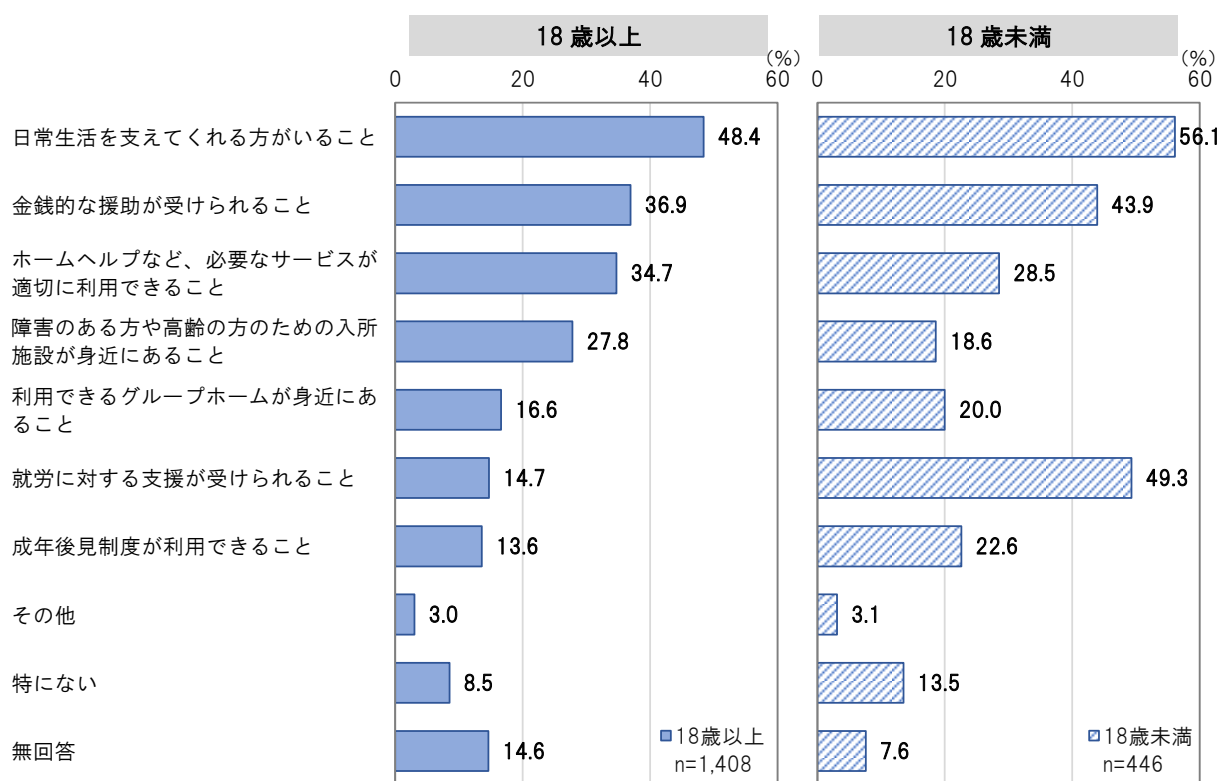
- 障害種別に見ると、18歳以上の知的障害では「障害者支援施設(入所)」、発達障害では「グループホーム」が最も多く、施設での生活を望む介助者が多くなっている。

		回答者(人)	集合住宅	一戸建て	障害者支援施設(入所)	グループホーム	特別養護老人ホーム(入所)	障害児入所施設(障害者支援施設)	その他	無回答
18歳以上	身体障害	737	24.6	25.5	15.2	5.0	9.5	-	5.7	14.5
	難病	136	26.5	25.0	15.4	5.9	12.5	-	6.6	8.1
	高次脳機能障害	73	17.8	23.3	13.7	9.6	15.1	-	9.6	11.0
	知的障害	458	12.9	13.5	28.2	24.5	2.2	-	6.6	12.2
	発達障害	277	12.6	15.5	23.1	23.5	3.6	-	9.0	12.6
	精神障害	346	27.7	23.1	7.5	6.6	10.7	-	10.4	13.9
18歳未満	身体障害	49	28.6	46.9	-	12.2	-	8.2	4.1	-
	知的障害	312	21.5	32.4	-	17.3	-	8.7	12.8	7.4
	発達障害	318	23.3	36.2	-	13.2	-	6.6	12.6	8.2

※1番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

(6) 本人にとって適している住まいで暮らすために必要なこと（複数回答）

- 本人にとって適している住まいで暮らすために必要なことについては、18歳以上・18歳未満ともに「日常生活を支えてくれる方がいること」が最も多く、18歳以上では48.4%、18歳未満では半数以上（56.1%）を占めている。
- 18歳以上では、次いで「金銭的な援助が受けられること」（36.9%）、「ホームヘルプなど、必要なサービスが適切に利用できること」（34.7%）、「障害のある方や高齢の方のための入所施設が身近にあること」（27.8%）の順となっている。
- 18歳未満では、次いで「就労に対する支援が受けられること」（49.3%）、「金銭的な援助が受けられること」（43.9%）、「ホームヘルプなど、必要なサービスが適切に利用できること」（28.5%）の順となっている。



- ・障害種別にみると、施設での生活を望む介助者が多い18歳以上の知的障害・発達障害では「利用できるグループホームが身近にあること」や「就労に対する支援が受けられること」、「成年後見制度が利用できること」が、その他の障害に比べてやや多くなっている。

		回答者（人）	日常生活を支えてくれる方がいること	金銭的な援助が受けられること	ホームヘルプなど、必要なサービスが適切に利用できること	障害のある方や高齢の方のための入所施設が身近にあること	利用できるグループホームが身近にあること
18歳以上	身体障害	737	45.0	34.9	36.5	28.6	12.8
	難病	136	58.8	47.8	44.1	34.6	15.4
	高次脳機能障害	73	61.6	49.3	46.6	47.9	20.5
	知的障害	458	59.0	30.8	35.4	32.3	29.3
	発達障害	277	62.8	39.4	38.3	32.9	30.7
	精神障害	346	43.6	44.8	29.8	24.9	9.5
18歳未満	身体障害	49	63.3	55.1	38.8	32.7	28.6
	知的障害	312	61.9	53.8	34.9	23.7	25.6
	発達障害	318	56.6	48.7	29.9	18.6	21.7

		回答者（人）	就労に対する支援が受けられること	成年後見制度が利用できること	その他	特になし	無回答
18歳以上	身体障害	737	9.1	9.1	1.9	9.0	15.7
	難病	136	10.3	12.5	3.7	5.9	8.1
	高次脳機能障害	73	15.1	20.5	1.4	2.7	8.2
	知的障害	458	20.1	24.7	3.7	6.3	12.9
	発達障害	277	24.5	26.7	4.3	5.4	11.2
	精神障害	346	18.8	10.7	3.5	7.8	17.1
18歳未満	身体障害	49	44.9	28.6	2.0	14.3	4.1
	知的障害	312	56.7	29.5	2.9	4.8	7.4
	発達障害	318	54.4	25.5	2.8	10.1	8.2

※1番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

13. 自由回答

(1) 障害者施策を進めていく上で必要と考えること

- ・ 障害者施策を進めていく上で必要と考えることでは、「障害や障害のある人への理解、差別の解消」についてが 115 件、次いで「年金、各種手当、生活保護」(111 件)、「親、介助者なき後の支援」(93 件) と多くなっている。

	項目	件数
保健・医療	医療サービス（医療機関等）	33
	医療費助成	25
	リハビリテーション体制	7
	その他・意見・要望など	16
福祉サービス・ 相談支援	年金、各種手当、生活保護	111
	親、介助者なき後の支援	93
	相談支援、相談窓口の充実	82
	人材の育成・確保、処遇改善	55
	サービスの利用手続き	50
	入所施設	43
	介護の現状など	27
	グループホーム	26
	介助者への支援	23
	経済的自立の支援、移動時の補助	16
	移動支援	15
	短期入所	15
	更新手続き	10
	日中活動系サービス	8
	福祉施設の整備・充実	7
	身近な地域における支援	4
	介護保険サービス	4
	訪問系サービス	2
	その他・意見・要望など	54
療育・教育	教育の内容、質の向上（人材の確保を含む）	52
	教育環境（インクルーシブ教育）	39
	放課後等デイサービス	13
	療育	12
	保育所、幼稚園	6
	卒業後の進路	6
	その他・意見・要望など	39

項目		件数
雇用・就労	就労の支援	33
	障害者雇用の促進	21
	その他・意見・要望など	26
生活環境、 移動・交通	公共交通機関	34
	道路、歩道等のバリアフリー化	32
	住宅の確保	16
	公共機関のバリアフリー化	15
	障害者に配慮したまちづくり	9
	障害者専用駐車場	2
	その他・意見・要望など	22
生涯学習活動 (スポーツ・文化、 社会参加活動)	社会参加、余暇活動	52
	スポーツ	50
	障害のある人同士の交流の場	31
	文化芸術活動	1
	その他・意見・要望など	2
安全・安心	防災対策（避難支援、安否確認など）	21
	防災対策（避難所、福祉避難所など）	15
	その他・意見・要望など	12
権利擁護、 啓発・差別の解消	障害や障害のある人への理解、差別の解消	115
	精神障害に対する理解	9
	発達障害に対する理解	9
	成年後見制度	8
	その他・意見・要望など	4
情報・コミュニケーション、 行政等における 配慮	情報提供の充実	62
	行政機関等における配慮及び障害者理解の促進	26
	コミュニケーション支援	10
その他	行政への要望など	34
	アンケートについて	32
	その他・意見・要望など	71

■ 主な意見

(寄せられたご意見の趣旨等が変わらないよう、基本的にアンケートに記入された内容のまま掲載しています。)

《保健・医療に関すること》

- ・健全者にはかからないコストを障害者は負担しているので、医療や福祉のサービスを利用する際の費用をなるべく軽減できるような施策を望みます。
- ・障害者専門の病院がほしい。一般の病院でまち時間が長く気分が悪くなったりします。
- ・オンライン診療。
- ・医療センターの小児科に通っていましたが、高校卒業後、成人の病院に代わってください、と言われ、自分で受け入れ病院を探すように言われた。近くの小児科は、新規での成人の受け入れはしておらず、どこの病院がいいかもわからなかった。
- ・地区会館がなくなってしまったので、健康診断などもう少し行きやすいところにしてほしい。

《福祉サービス、相談支援に関すること》

- ・両親が高齢になったら一緒に障害者施設へ入居できる手順をもっと緩和してほしいです。また、費用の面でも収入が少ないため、免除や負担額の緩和を希望します。
- ・介助している父母などが年齢が高くなっていくので、介助できなくなった時のことが心配です。
- ・気軽に相談できる場があること。親身になって支援してもらえること。
- ・軽度障害者に対する支援が少なすぎる。重度、中程度、軽度など一緒に支援内容ではなくそれぞれの状況に合わせた支援の形や内容にしてほしい。
- ・在宅でも施設入所でも、障害者が満足に暮らしていけるためには、今以上に人材に余裕があってほしい。また、給与面についてももう少しゆとりがあると人材を集めるには有効ではないかと考える。
- ・窓口でやっている申請をオンラインでできるようにしてほしい。
- ・特養など入所しても、時にはその施設内で家族が数日でも一緒に過ごすことができる環境がほしい。
- ・親が亡き後安心して生活できる施設やグループホームがもっと増えていくことや、それに関連する情報がもっとほしいと思います。
- ・障害者の親としての意見ですが、親の支援も考えていただけたら助かります。

《療育・教育に関すること》

- ・義務教育で障害者に対する知識が増える学習機会を設けてほしい。
- ・今の時点では学校生活をなるべくストレスなく過ごせるよう、学校、先生方の理解がとても重要です。そしてサポートしてくださる方を各学級に各教室に増やしてほしいです。
- ・基本的に、幼稚園でも保育所でも、小学校でも、支援員が少ないと思う。
- ・放デイの長期休みの時の開所時間を延ばしてほしい。
- ・教育等に関してですが、個別支援計画をせっかく作っていても十分に活用されていないように感じる。

- 地域の小学校支援級、または普通級にいる支援が必要な子たちに適切な支援がされるように教師とは別に専門的な知識がある人員を増やしてほしいです。
- 他市と比べてインクルーシブ教育について遅れているのは確実です。現在の複籍学級の制度も利用する障害者目線の政策とは思えません。もっと根本的で思い切った本物のインクルーシブ教育を尼崎市に望みます。
- 障害に対しての理解、知識を深めるために、学校などで必須授業にしてほしい。

《雇用・就労に関すること》

- 障害者雇用でも長く働けるようにしてほしい。生活の見通しができるようにしてほしい。
- 企業への障害者の積極採用、給与改善。
- 雇用に対する偏見をなくすこと。専門職においても障害者枠を広げてほしい。
- 精神障害者雇用を偏見しないでほしい。
- 通常の学校に通っている障害者にも、進学先や就職先の障害者のための情報を発信してほしい。
- 重度身体障害者でも自立した主体的な生活ができるように、重度身体障害者専門のA型就労支援施設などの充実。

《生活環境、移動・交通に関すること》

- 段差のない道路。広くて安全な、視覚障害者の方たちも安全に。
- 自転車レーンの追加。
- 市営住宅の障害者用の部屋の戸数拡大。
- 市役所などもっと障害者用トイレを増やしてほしい。
- 信号が青の間に道を渡りきることが難しくなっているので、信号が変わるまでの時間を長くするか、スロープのある歩道橋や地下道を増やしてほしい。

《生涯学習活動（スポーツ・文化、社会参加活動）に関すること》

- もう少し近いところにスポーツをする所があると助かります。
- 障害者スポーツの裾野の拡充。
- スポーツや趣味や仲間づくりの場を用意してほしい。
- デイサービスだけでなく、障害児の通える習い事があればと思うことはあります。集団行動でのルールを学び、仲間と過ごし学ぶ時間がほしいと思います。
- 自分自身が夢中でできるものを自分で見つけ負けずに続ける。継続することで自信にもつながり自分のためにもなると思います。
- 障害があると社会からの孤立が必ずある。外に出るきっかけや参加して交流できる場所をもっとわかりやすく提供しているところがあるといいな。

《安全・安心に関すること》

- 災害時に備えた地域住民や大家さんとのネットワークづくり。
- 災害時における共助の体制整備。
- 災害時にどのような支援が必要か、また支援を受けることができるか相談できること。
- 施策の中に避難する場所を具体的に考えてほしい。水害、火災、風雨等に対応できる避難場所が明記してあると助かる。
- 自然災害で避難している人の状況を見た時に、たくさんの人の中で、普段の心の平常が保てるのか不安に思う時がある。

《権利擁護、啓発・差別の解消に関すること》

- 施設内におけるいじめや暴力など、ニュースなどで見受けられる事件の排除。
- 当事者が自分の行動を自分で制限できなくなった時、親に暴力を振るったり金銭の持ち出し等、家庭では対処が難しくなる。そういった時の助けがほしい。
- 後見人制度もまだまだ不自由、やはり実際には負担が強られる。
- 今、健常者でいたとしても、誰もが、将来的に障害者になる可能性があり、また、家族が障害者になる可能性があり、決して無関係なことではないと、学校教育や職場など、地域などで啓発していく必要があると思います。
- 健常者が障害やその特性について知らなさすぎる。知識を得る機会も少ない。
- サポートを要する方がどんどん増えているのを感じます。サポートしあえる社会になるように教育の充実を希望します。
- 障害やその特性を健常者にも知ってもらいたい。知識を得る場を作ってほしい。

《情報・コミュニケーション、行政サービス等における配慮に関すること》

- 教育や福祉などの必要な情報が簡単にわかるように希望者にメールが届くようなサービスがあれば便利。
- 誰にでもわかりやすい情報提供でコミュニケーションを取れるよう工夫してほしい。
- 必要な情報をわかりやすく案内、説明があると助かると思います。基本的に自分でネットで調べないといけなく、また難しいのでわかりづらい。
- 行政がもっと理解して、障害者に寄りそうこと。

尼崎市障害者計画等の改定に係るアンケート調査結果報告書

【発行】尼崎市役所 障害福祉政策担当

〒660-8501 尼崎市東七松町 1 丁目 23 番 1 号

TEL : 06-6489-6577

FAX : 06-6489-6351